

72-239 □



\*1200701695846\*

72

2390



始



### 再版之序

本書は曩に明治二十七八年の交。農科大學の囑托を受け同  
學々生及乙科生諸氏に講述せるもの。當時農商務省本務の  
爲め。地方出張の止むなきに至り。親しく口授し了せざりし  
所ありしが。後乙科生諸氏の共同して印刷に附したりしと  
あり。是れ第一版なり。而して今又更に中込茂作君其他有志  
諸君再版して。同學の士に頒つゝの舉あり。之れ不肖の殊に榮  
譽とする所たり。

抑も本書の來歴は以上陳ぶる所の如きを以て。農學に通曉  
せざるもの或は解釋に苦むの點なきに非ず。且又所論の往

々本邦農事の實況に恰當せざるものあらん。予は切に同學諸君の指教を待つものなり。爰に再版に際し敢て諸君に望む此の如し請ふ諒せよ。

渡部 朔識

此書の再版發行に就て

我邦農業者は常に生産に重きを置くも其經濟上に至ては深く顧みるもの少し。而して又此種經濟上の著書多からざるは遺憾の至りなり矣。

今秋某氏余に勸めて曰く渡部氏述農業經營學は頗る好適なる參考書なり。然かも既刊疾くに盡きて一本を餘さず。講學幾百の士は實に其再版を望むと甚し。君奮て其勞を執らざるか。余直に諾して曰く。そは微力なれども斡旋せん。事成らば幾百人の渴望を満し又余が平素の遺憾も去るに似たり。焉んぞ一投足の勞を以て辭すべけん。則ち渡部氏に

請ひ其許諾を得て茲に再版するの運びとはなりたりぬ。右  
聊か事由を識るすご云爾。

明治三十二年十月

東京駒場に於て

中込 茂 作

### 例言

- 一、此書ノ一部即チ農業經營學、農業簿記、地力維持論等ハ明治二十七年ニ出版セラレ、次デ學兄千田九郎助君ノ手ニ依テ翌二十八年右ニ農業經營學二卷ヲ加ヘ、復ビ上梓セラレヌ、而シテ何レモ非賣品ナリキ
  - 二、此版ハ或ハ右ニ記セシ如キガ爲メ、一部分ハ三版トモ稱スベキモノナリ。然レモ經營、評價、簿記、地力維持ノ四論ヲ合シテ一冊トナシタルハ只二十八年出版ノ一回アリタルノミナルヲ以テ暫ク再版ト稱ス
  - 三、此再版ニ於テ余ハ實ニ所説ノ増補ヲ渡部氏ニ請ヒタリシガ公私繁忙其暇ナキヲ以テ斷ハラレタリ、而シテ余ハ又各種所論中ニ掲ケタル條項ノ「日本ニ於ケル實例」ヲ索メテ附加セント欲シタリシモ出版ヲ取急グノ事情アリテ果サズシテ止ミス
- 讀者若シ其實例トシテ好適ノモノヲ得タランニハ渡部氏ノ許(東京牛込白銀町)ニ送ラレヨ第三版ノ際ニ加フルノ材トナラン

四、此版ノ前版ト異ル處ハ凡ソ次ノ如シ

(一) 元亨利貞ノ四字ヲ四論ニ配シテ卷名トナシタルコト

(二) 上欄及側欄ヲ設ケテ見出シヲ附シタルコト

(三) 渡部氏ニ乞ヒ一二原語ノ緊要ナルモノヲ加ヘタルコト

(四) 原文ノ意味ヲ失ハザル範圍ニテ一二字句ニ訂正ヲ加ヘタルコト

(五) 評價學上編第七章ノ「純收益分配」ナル一章ヲ農業經營學下編ノ第七章ニ入レタルコト

(六) 農業簿記ノ中ニ帳簿樣式ヲ附加シタルコト

右帳簿樣式中、縦ノ單線及復線ハ朱色ヲ以テ顯ハスベキモノ、又横ニ藍色ヲ以テ野線ヲ顯ハスベキモノナレド印刷上ノ都合ニヨリ前者ハ黑色トナシ後者ハ省略ニ附セリ

### 再版 農業經營學

農學士 渡部 朔 氏 講述

#### 總論

農學ノ始祖  
テア  
氏

リー  
ビ  
氏

農業ナルモノハ何レノ國ニ於テモ古來營ミタルモノナレド之ヲ一ノ學科トナセシハ僅ニ今世紀ノ始ニシテアルブレヒト、テアノカトス氏ハ千八百〇九年ニ農學原論ナル書ヲ著シ始メテ合理的ニ農業ヲ論ゼリ故ニ世人ハ彼ヲ目シテ農學ノ始祖トス

其時代ニ於テハ理科學ハ未ダ現時ノ如ク發達シ居ラザリシヲ以テ氏ノ論ゼル處ハ多ク經濟上ノ事項ヲ基礎トセリ故ニ氏ノ此著書ハ最モ古キ農業經濟書ト云フモ過チニアラザルベシ爾後リービ氏出ヅルニ至リ動植物ノ生育ニ係ル種々ノ法則ヲ發見シ之ヲ農業ニ應用シ以テ其發達ヲ促シタルコト極メテ著大ナリ爰ニ於テ農學ナル

總論

モノハ著シキ變遷ヲ享ケ理科學ヲ基礎トシテ之ヲ論ズルニ至レリ  
 一時テアノ學說盛ナルキハ經濟的ニ農業ヲ研究セルノ輩乏シカラ  
 ザリシト雖モリービヒノ研究漸ク世ニ普及スルニ及ンテ經濟派ハ  
 殆ト其跡ヲ收ムルニ至レリ蓋シ農業ナルモノハ其性質トシテ急激  
 ナル變動ヲ許ササルモノナルト又農業ヲ營ムノ種族即チ農民ナル  
 モノハ概シテ進取ノ氣象ニ欠クル處アルヲ常トセルガ故ニ經濟上  
 ノ改良ハ容易ニ其實施ヲ見ルノ至難ナルトニ依リ農業社會ハ此學  
 派ヲ顧ミザリシガ故ナリ

國家ノ保護

現時歐洲ノ農業社會ノ困難ハ要スルニ農業經濟ヲ輕視シタルノ結果  
 ニ外ナラズ  
 抑モ農業ノ盛衰ハ獨リ農民ノ個人的利害ニ關係スルノミナラズ又社  
 會全般ニ影響ヲ及ボスヤ大ナリ故ニ國家ハ農業ナルモノヲシテ經  
 濟界中ニ相當ナル地位ヲ占メシムルガ爲メ必要ナルトキハ相當ノ

分類

保護ヲ與フルノ義務アルモノトス

農政學

農業ニ係ル經濟ヲ説クニハ國家的性質ヲ帶ブルノ經濟ト個人的性質  
 ヲ帶ブルノ經濟トノ二科ニ別チ之ヲ總稱シテ農業經濟ト云ヒ其前  
 者ニ屬スルモノヲ國家的農業經濟學又ハ農政學ト云ヒ其后者ニ屬  
 スルモノヲ個人的農業經濟學又ハ農業經營學ト云フ

農業經營學

國家的農業經濟學即チ農政學ナルモノハ或ハ法令ヲ發布シ或ハ種々  
 ノ事業ヲ開設シ以テ農業全般ニ裨益ヲ與フル如キ國家的及ヒ社會  
 的保護ニ係ルコトヲ論究スルノ學科ナリ  
 農業經營學ナルモノハ農業ト天然的及ヒ經濟的法則トノ關係ヲ明ニ  
 シ且ツ此等ノ法則ノ農業經營上ニ於ケル應用ヲ究メ農業ヲシテ絶  
 エズ成ルベク多クノ純收益ヲ生セシムルノ方法ヲ講究スルノ學科  
 ナリ(クラフト)

農業經營學ハ右ニ述ヘタル如ク其範圍ハ隨分廣キモノナレモ從前一

ノ學科トシテ之ヲ論ジ來リタルモノアリ然レモ近年ニ至リ之ヲ細別シテ論スル者ヲ見ルニ至レリ今之レカ講義ヲ爲スニ當リテハ成ルヘク繁雜ヲ防ク爲メニ之ヲ區別スル方可ナルヘキカ故ニ先ツ左ニ之カ區分ヲ示シ順次之ヲ講述セント欲ス

農業經營學(汎義ノ)

(元之卷)

農業經營學(狹義ノ)

上編 農業經營學通論

下編 農業經營學詳論(農場編)

(享之卷)

農業評價學

上編 農業評價學

下編 農業評價學(土地評價)

(利之卷)

農業簿記學

(貞之卷)

地力維持論

更ニ了解ニ便セシカ爲メニ圖示スレハ次ノ如シ









繼續—建物ノ修繕新築—土地改良ニ係ル條件—租稅ト諸掛リ—地主ト小作人—管理農業—分益農—作リ分ケ  
—分益農法ノ行ハレ得ル場合

農業ノ組織

農業ノ組織—其目的—其變更—耕種組織—作物撰定—種藝面積—直接ニ販出シ得ル作物—飼料作物—工藝  
作物—輪栽順次—其例—耕種組織—放牧組織—燒畑組織—切替組織—其區別—草肥組織—穀作組織—穀作栽  
草組織—耕園組織—隨意組織—輪栽組織—農業組織ニ於ケル家畜—農業組織ニ於ケル養蠶—農業組織  
ニ於ケル農藝工業

農場管理

農場管理—農場管理者ノ職務—適當ナル管理者—作付設計—豫算表—飼料豫算—金錢收入豫算表—金錢支出  
豫算表

享之卷

農業評價學上編(物品ト役力ノ評價)

緒言

緒言—農業評價學トハ何ゾ—ワルダウ農場ノ實例ヲ採用ス

農場所産ノモノニシテ再ビ農場  
ニ於テ消費セラル、物品ノ評價

有市價品ト無市價品—無市價飼料ノ價格評定—計算法—二途—可消化的滋養素價格算出ノ一例—全養素  
價格算出ノ一例—厩肥價格ノ評定—厩肥價格算定法—二法—其一—其二—厩肥價格算定ノ一例—動物ノ食  
物ト其排泄物トノ重量ノ關係—厩肥中ノ腐植物質—厩肥價格ノ減少—或論者ノ價格算法—堆肥價格ノ評定

自享二〇頁  
至享二〇頁

自享一三頁  
至享一三頁

—其他ノ諸品ノ價格評定—物品支給ノ場合ニ於ケル原則

人力ニ關ル計算

人力ニ關ル計算—必要ナル人力多寡ノ計算—雇夫數ノ計算—ワルダウ農場ノ例—農僕婢數ノ計算—農場役員  
—人力勞動賃ノ計算—雇夫賃ノ計算—ワルダウ農場ノ例—農年季雇女  
—農年季雇女

自享二〇頁  
至享四二頁

畜力計算

畜力計算—需要多寡計算—ワルダウ農場ノ例—役畜勞動賃ノ計算—飼料及敷料—蒙養費—器具機械ノ維持費  
—役畜資本償却費—諸費—馬ノ例—牛ノ例—駒場ノ一例

自享四二頁  
至享五八頁

用畜種類及頭數ノ計算

ワルダウ農場ノ例—馬一個年ノ飼料ト敷料—其算例

自享五八頁  
至享七一頁

厩肥生産額ノ計算

厩肥生産額ノ計算—其算例

自享七一頁  
至享七三頁

無生器具ニ係ル計算

無生器具ニ係ル計算—無生器具ノ分類—其算例—武藏入間郡ノ例

自享七三頁  
至享七九頁

農業評價學下編(土地評價)

土地評價ノ目的及方法

自享八一頁  
至享八八頁

◎土地評價ノ目的 | ◎土地評價法 | 時期ニ依テノ評價 | 聚否ニ依テノ評價 | 手續ニ依テノ評價 | 時價ト金融トニ據ル評價法 | 地租ヲ課スル時ノ評價 | 單獨ト聚合トニ於ケル評價 | 直接地價評價及收益評價

地位ノ査定 ..... 自享八八頁  
至享一〇三頁

地位ノ査定 | 土地ノ分類法 | 諸學者ノ說 | 本邦地租改正ノ際ニ於ケル地位査定 | 耕地ノ地位査定ニ參照スヘキ要項 | 其査定例 | 原野地及牧草地ノ地位査定

收益評價ニ據ル土地評價ノ方法 ..... 自享一〇三頁  
至享一一八頁

收益評價ニ據ル土地評價ノ方法 | 評價執行手續 | 普國地租改正掛員心得 | 單獨的評價法ノ例

直接地價評價 ..... 自享一一九頁  
至享一二〇頁

直接地價評價 | 其手段

本邦地租改正ノ際ニ於ケル土地評價法 ..... 自頁一二〇頁  
至頁一二七頁

收穫 | 穀價 | 利子 | 種肥料及村費 | 地租算法

### 利之卷

## 農業簿記

緒言 ..... 自利三一頁  
至利三二頁

緒言 | 單記法 | 複記法

記錄簿 ..... 自利四三頁  
至利四四頁

記錄簿 | 記錄簿ノ分類

通計簿記 ..... 自利二四頁  
至利二四頁

通計簿記 | 日記簿 | 金錢出納簿 | 物品出納簿 | 家畜簿 | 無生器具簿 | 勞動簿 | 原簿 | 年計簿 | 場主原簿 | 土地原簿 | 現金原簿 | 雜費原簿 | 家計原簿 | 俸婢原簿 | 日雇賃原簿 | 物品支給原簿 | 力畜原簿 | 肥料原簿 | 器具原簿 | 貯藏品原簿 | 作物原簿 | 用畜原簿 | 農藝工業原簿

帳簿様式 ..... 1-32 p.

年計簿 | 現金原簿 | 日雇賃原簿 | 器具原簿 | 家計原簿 | 雜費原簿 | 馬原簿 | 乳牛原簿 | 羊原簿 | 豚原簿 | 肥料原簿 | 牧艸地原簿 | 場主原簿 | 土地原簿 | 損益對照表 | 決算表 (以上十六種ノ記入方法ヲ示ス)

## 貞之卷

### 地力維持論

緒言 ..... 自頁五一頁  
至頁五二頁

斯學ノ沿革 | フォン、ウルフ、エン氏 | スブレンケル氏 | リービツヒ氏 | ドレスケル氏

農作物ノ營養 ..... 自頁八五頁  
至頁八六頁

農作物ノ營養 | 植物灰中ニアル元素

作物種藝ニ係ル地富ノ減耗 ..... 自頁一〇八頁  
至頁一〇九頁

大氣ト地中ヨリ來ル養分如何

再版 農業經營學目次終

目次八

減耗養素ノ償還……………自頁一八〇頁  
 至頁一八頁

減耗養素ノ償還—地富—地沃—細微土ノ罨爛—土壤休閑ノ利—深根植物—各種根株ノ成分

地方維持ニ係ル計算……………自頁一八頁  
 至頁二六頁

地方維持ニ係ル計算—地力増否ノ算例—甲例—乙例—肥料養素消費表

元之卷

農業經營學上編

農業經營學通論

緒言

緒言

土地

緒言

元一

本篇ハ所謂産業要素ト稱フル土地、勞力及ビ資本ナル三者ノ農業經營ニ係ル性質及ビ其効力ニ付テ論究スルモノトス

此三要素ハ農業タルト林業タルト漁業タルト礦業タルトヲ問ハズ苟クモ貨物ノ産出ヲ目的トスルノ諸業ヲ經營スルニ當リテハ必要欠クベカラザルモノナルヲ以テ亦之ヲ貨物ノ泉源ト稱ス此三要素ハ何レモ輕重ナシト雖モ土地ハ據テ以テ農業ヲ營ムノ基礎タルモノナレバ吾人ハ先ヅ之ヲ第一位ニ置カザルベカラザルナリ

本篇ニ所謂土地ナルモノハ單ニ耕耘ヲ行フノ土層ノミヲ云フニ非ズ

シテ尙ホ水、大氣、陽熱、日光等凡ソ動植物ノ生育ニ有効ナル總テノ物質及ビ天力地力ヲ包含スルモノトス

土地ナルモノハ例令吾人ノ干涉ナキモ幾多ノ物体ヲ生産スベシ而シテ此等ノ物体ハ必ズ再ビ元ノ土地ニ還ルモノトス之ヲ物ノ循環ト

云フ宇宙ノ萬物皆此循環ヲ免ル、能ハザルナリ

物ノ循環ニ注目シ種々ノ物質ヲ其ノ或ル經過時期ニ於テ吾人ノ需要ニ充ツルガ爲メ牽制蒐集スルハ農民ノ義務ニシテ之ヲ行フニ勞力

ヲ要ス而シテ此勞力(精神的及筋力的)ハ風土ノ不利ナルニ從ヒ益々多ク之ヲ用ヒザルベカラズ

然リ而シテ勞働者ヲシテ勞力ヲ最モ有利ニ適用ナサシメント欲セズ其衣食住ノ外猶ホ種々ノ器具機械等ノ必要ヲ生ズ即チ營業資本是

レナリ

總シテ農業ナルモノハ天然力ノ影響スルコト大ニシテ動植物ノ生育

勞力

資本

ト農業商業

工業

ノ遲速ノ如キハ決シテ絶對的ニ吾人ノ掌裡ニ存スルモノニ非ザレバ農家ハ決シテ商工業家ノ如ク一年數回ノ資本運轉ヲ圖リ之ガ利潤ヲ享クルヲ得ルモノニ非ザルナリ單ニ此不利アルノミナラズ農家ハ亦土地ノ取得ニ對シ多額ノ資金ヲ注入セザルベカラザルノ境遇ニアリ

右ニ述べタル如ク土地、資本、勞力ノ三者ハ農業ヲ營ムニ必要ナリト雖此三者ハ決シテ一定不變ノ割合ヲ以テ各農場裏ニ存スルモノニ非ズシテ必ズ農業法ノ異ナルニ從ヒ又農業者ノ貧富ノ程度及ビ社會ニ於テ其占ムル所ノ位地等ニヨリテ時ニ著シキ相違アルヲ常トス而シテ此三要素ノ割合ノ如何ニヨリ農業法ヲ粗放ナルト集約ナルトノ二者ニ區別シ猶ホ其間幾多ノ階級ヲ生ズ

粗放農法 所謂粗放農法ナルモノハ土地多キモ勞力及ビ資本ハ比較的少ナキ所ニ行ハル、モノニシテ土地廉ニシテ勞働者及ビ資本ノ

農粗法放

粗放及集約農法

粗放及集約農法

其ニ乏シキ地ニ之ヲ見ル彼ノ放牧農ナルモノハ粗放農法中最タルモノナリ

集約農法 所謂集約農法トハ之ニ反シ小面積ノ地ニ比較的多クノ資本ト勞力トヲ利用スルノ農法ヲ云ヒ人口密ニシテ資本饒多ナルノ

地ニ多シ其極ニ達セルモノハ彼ノ蔬菜農トス

本邦ノ農業ハ、勞力的、集約、資本的、粗放ノ、モノ、最、多、シトス即チ左ニ之ヲ示ス

- 絕對的粗放農法
- 勞力的粗放農法
- 資本的集約農法
- 勞力的集約農法
- 資本的粗放農法

土	勞	資
土	勞	資
土	勞	資
土	勞	資
土	勞	資

(勞力的及資本的粗放ナルモノ即チ土地ニ對シ勞力資) 本兩ツナガラシキモノ放牧農ノ如キ是レナリ

(土地ニ對シ勞力乏シク資本ノ饒多ナルモノ獨逸大農) ニハ此種最モ多シ

(三要素ノ比例中庸ヲ得タルモノ)

- 資本的集約農法
- 資本的粗放農法
- 勞力的集約農法
- 絕對的集約農法

土	勞	資
土	勞	資
土	勞	資
土	勞	資
土	勞	資

(土地ニ對シ勞力饒多ナルモ資本乏シキモノ本邦ニ) 此種最モ多シ

(勞力的資本集約ナルモノ即チ土地ニ對シテ勞力資) 本兩ツナカラ饒多ナルモノ蔬菜農ノ如キ是レナリ

要スルニ農業ナルモノハ吾人ノ生活ノ原料ヲ產出スルヲ本務トスル

モノナレバ人口ノ密ニ趣クニ從ヒ漸ク生活必需品ノ需要ニ増加ヲ來シ而シテ其價格ノ昇騰スルニ從ヒ集約的ニ遷ルモノトス即チ都市ノ近傍ニ集約農法ヲ見ルハ此理ニ外ナラズ

交通ノ開發モ亦全様ノ結果ヲ生ズルモノニシテ即チ曩時其需要市場ノ狹隘ナリシ農產物モ漸ク宇内貿易ノ市場ニ上ボルニ至リ其價格亦昇騰シ該地方ノ農業ヲ漸ク集約ニ赴カシム

然リト雖モ交通ノ激變ハ曩ニ地區ニ限リアル市場ニ於テ巨利ヲ占有

シ來リタル地方ニ於テハ物價ヲ低減セシムルノ働ヲナスモノナレ  
 バ斯カル地方ニ於ケル集約農法ハ從來占メ來リシ物價ノ低落ニ伴  
 ヒ較々粗放農法ニ赴クヲ常トス  
 故ニ農業ノ収益ノ多寡ハ三要素ノ外猶ホ貿易交通ノ影響ヲ享クル  
 大ナリ蓋シ此二者ハ貨物ノ生産及ビ其消費ヲ媒介シ又其分配ヲ司  
 ル故ニ余ハ先ツ農業經營ノ三要素ヲ説キ終リニ交通ニ就テ述ブル  
 所アルベシ

第一章 土地 Der grund und Boden.

農業ヲ經營セント欲セバ先ツ用フルニ足ルベキ或ル面積ノ土地ヲ要  
 ス而シテ土地ノ生産力ナルモノハ之ヲ學理ト經驗トニ徴スルニ土  
 壤ノ含有スル處ノ植物養素ノ多寡、土壤ノ理學的性質、地層ノ構造及  
 ビ其他萬般ノ天然力ノ影響等ニヨリ決シテ均一ナルモノニ非ス而  
 シテ土地生産力ノ多少ハ勞力及ビ資本ノ農産物産出ニ係ル効力ノ

多少ニ著シキ關係ヲ有スルモノナリ  
 土地ノ肥瘠トハ比較的ノ語ナリ何レノ地ニ於テモ同量ノ勞力ト同額  
 ノ資本ヲ投ジテ同様ノ收穫アルモノナランニハ肥瘠ナル語ハナカ  
 ルベク又地益ナルモノハ生ズルヲナカルベシ然ルニ肥土瘠地ノ稱  
 アルハ以テ土地生産力ニ異同アルヲ明ニスルニ足ル  
 土地ノ生産力ヲ増進スルノ方法數多アリト雖モ其効力ヲ有スルノ期  
 限ノ長短ニヨリテ二様ニ別ツ即チ一ハ長期間有効ナルモノニシテ  
 一ハ短期間有効ナルモノトス前者ハ通例土地改良ト稱シ例ヘハ排  
 水渠ノ設定、灌水溝ノ開通及ビ土地ノ深耕ノ如キヲ云ヒ後者ハ培養、  
 精耕ノ如キヲ云フ要スルニ前者ハ其効力數年ニ亘ル者ナレバ收穫  
 ニ著シキ影響ヲ與ヘザルヲ常トスト雖モ後者ハ一年若シクハ二三  
 年間ニ充分當初ノ失費ヲ償フニ足ル程ノ收穫アラサルベカラサル  
 モノナリ資本トシテノ此二類ノ性質ハ後段資本ノ章ニ至リテ之ヲ

説クヘシ

農地ノ粗収益ノ額并ニ産出ニ要スル生産費ノ額及ビ此收支兩者ノ差トシテ生ズル純収益ノ多少ハ土地ノ利用法ニヨリテ大ニ異ナルモノナリ

其利用

土地ノ利用法ハ地目ヲ定ム地目トハ田畑牧草地放牧地園地林地等ヲ云フ

土地ヲ如何ニ利用スヘキカハ土質水利氣候地方ノ經濟的状況ノ外更ニ其地形高低傾斜及ヒ農舍ヨリノ距離等ニヨリテ定ム  
一農場ハ一種又ハ數種ノ地目ヨリ成ル一團地ノコトアリ又ハ數團ノ地ヨリ成ルコトアリ地團ノ筆數彌多ケレバ作業ハ愈困難ナリ農舍ヨリノ距離彌遠ケレバ愈作業ノ往返ニ時間ヲ徒費シ爲メニ不經濟ヲ免レザルモノトス之ヲ土地整理ノ必要ノ主因トス

土地利用法

第壹節

土地利用法 附 秣場  
Die Boden Benützung

田地

イ 田地

田地トハ畦畔ヲ以テ區劃ヲ設ケ水ヲ灌ゲル地ニシテ主トシテ稻ヲ栽ウ然レモ時ニ市場附近ノ地ニ於テハ蓮又ハ慈姑ノ如キ野菜ヲ作り或ハ蘭ノ如キ工藝作物ヲ栽ウルコトアリ  
用水ヲ排泄シテ乾燥ナラシムルヲ得ルノ田地ヲ二毛作田ト云フ裏作物ハ麥類薯蕷又ハ紫雲英ヲ普通トス要スルニ裏作ニハ深根作物ヲ撰ムニ利アリト雖モ乾燥ノ度不充分ナルトキハ止ムヲ得ズ淺根作物ヲ栽ウルコトアリ

畑地

ロ 畑地

絶エズ耕耘ヲ行ヒ概ネ一年生植物ヲ種藝スルノ地ヲ云フ土地及ビ氣候ノ如何ニヨリ特ニ其植物ノ適生スルノ地アリ之ヲ某作物ノ特產地ト云ヒ其畑地ヲ某作物ノ特産畑ト云フ

田畑



牧草地トハ耕耘ヲ行ハズ牧草ヲ仕付ケ乾草ヲ收ムル地ヲ云フ、本邦ニハ未ダ牧草地ナルモノナク乾草ハ普通原野ヨリ刈リ來ルナリ傾斜甚ダシキ地ニシテ灌水ノ便アルトキハ牧草地ニ利用スルヲ宜シトス

牧草地ニハ土質ノ良否ヨリハ寧ロ水利ノ有無氣候ノ乾濕底土ノ構造等著ルシキ關係ヲ有ス

放牧地トハ牧草ヲ仕付ケ家畜ヲ放牧スルノ地ナリ、本邦ニ於テハ未ダ牧草ヲ仕立テタル眞ノ放牧地ナルモノヲ見ズ

園地トハ耕耘ヲ行ヒ多年生植物ヲ種藝スルノ地ヲ云フ茶園、桑園、果樹園等はレナリ

園地植物ノ收穫ハ主ニ樹齡、生育ノ良否、種類ノ良否、培養ノ如何ニヨリ多少アリ殊ニ樹齡ハ産額及ビ品質ニ著シキ關係ヲ有スルモノナリ

農地内ノ林地ナルモノハ主トシテ家宅近傍ニアルモノニシテ或ハ防風林アリ或ハ薪炭林アリ用材林ノ仕付ハ概ネ農業ノ範圍外ニアルモノナリト雖モ都府近傍ニ於テハ特種ノ用材ヲ作ルコトアリ然レモ材林ハ概ネ農業ヲ行フヲ得ルガ如キ高價ナル土地ニ仕立ツルトハ得失相償ハザルヲ常トス

東京近傍ニ於テハ薪林ヲ切替畑ニスル處アリ此クノ如キ組織ハ都市近傍ニ薪材ノ良價ヲ有スル處ニ行ハル、モノトス

又田地ノ畦畔ニ榛樹等ヲ仕立ツルコトアリ然レモ林地仕立ノモノニ非ズ其用ハ只ダ稻架トナスニ過ギズ

秣場ハ敢テ土地利用法ノ一ト做スヲ得ザレト本邦ノ農業經濟ニ對シテハ地方ニヨリテハ重要ノ地位ヲ占ムルモノナルヲ以テ暫ク此處ニ挿入ス

秣場ナルモノハ天然ノ草生地ニシテ敢テ人工ヲ施セルモノニ非ズ只ダ地方ニヨリテハ火ヲ放チ粗草ヲ燼滅シ次期ノ草生ヲ幫助スルノ習慣アリ然レト其利ハ其失ヲ償フ能ハザルベシ  
總シテ秣場ナルモノハ一個人ノ有ニ屬スルモノ極メテ少ナク概テ共有若シクハ官有ニ屬ス其大ナルモノニアリテハ數十ヶ村入會ノモノアリ

第二節 用水 Das Wasser.

用水ナルモノハ其靜止スルモノト流動スルモノトノ別ナク農業ニ極メテ緊要ナル關係ヲ有スルモノニシテ本邦ノ如キ稻作ヲ主トスルノ國ニ於テハ殊ニ然リトス故ニ本邦ニ於テハ多額ノ資本ヲ溜池ノ

設置ニ費シ水田ヲ設ケタル處尠シトセズ

農舍モ亦多量ノ飲用水及ビ雜用水ヲ要ス本邦原野ノ開墾セラレサルハ種々ノ原因アルベシト雖ト用水ノ欠乏ハ蓋シ其主因ノ一ナリトス  
澳地利領シレゾン地方ニ於テハ畑ニ低キ圍ヲナシ河水ヲ注ギ泥土ヲ沈澱セシメ後チ水ヲ排泄シ土地改良ノ一手段トナスコトアリ  
歐洲ニ於テ水ヲ利用スルニ巧ナル諸邦ハ伊太利、南佛蘭西及ビ西班牙トス總ベテ温度高ク雨少ナキ地方ニ於テハ水ノ植物生育ヲ幫助スルノ効力極メテ大ナルモノナリ蓋シ水ハ或ル度迄ハ温熱ニ代リテ植物ノ生育ヲ助クルモノ、如シ即チ稻作ノ比較的寒冷ナル地ニ於テモ尙ホ良結果アルコト及ビ棉、甘蔗、藍等ノ熱帶植物モ灌溉ヲ行ヘバ温帶地方ニ於テ作ルヲ得ルハ此理ニヨルナランカ  
農業用「ポンプ」ハ種々ノ種類アリト雖モ遠心唧筒最モ良ク其用ニ適ス其他ノ構造ノモノハ泥埃ノ爲メ運轉ヲ妨害セラル、コトアリ

瀦水池ハ遠心唧筒ニテ或ル度迄ハ放乾スルコトヲ得レモ全然其地ヲ放乾セシムル能ハザルヘシ此類ノ有名ナル排水場ハ北獨逸ブレ  
ーメン附近ノ地及ビ和蘭ニ多シ

土石類

第三節 土石類 Die Rohstoffe Des Landes.

農地ヨリ産出スル土石類ハ石灰「マール」、粘土、泥炭ノ類ニ過ギズ石炭「  
ール」ノ如キハ或ハ探掘シテ土地改良ノ用ニ供スルコトアリ  
歐洲ニ於テハ粘土モ亦時ニ探掘シテ粗造ナル煉瓦ヲ作り又排水筒ヲ  
作ル然レモ此種ノ業ハ資本ヲ要スル「大ナル」探掘ノ爲メ農地ヲ  
荒廢ニ歸スルノ虞アルトニヨリ極大農場ニ非ザレバ之レヲ行ヘル  
ヲ見ズ泥炭モ又時ニ農地内若シクハ其近傍ニ産スルコトアリ土石  
類ノ内最モ農業ニ有益ナルモノナリ其良質ノモノハ薪材ニ供用ス  
ルヲ得ベク其粗ナルモノト雖モ亦牛馬ノ敷料トナシ或ハ堆肥製造  
ノ料ニ供ス本邦ニ於テハ東西地方ニ多ク泥炭ヲ産ス

第四節 氣候 Das Klima.

氣候モ亦農業經營ニ所謂土地ナルモノ、一部ヲナシ各種ノ自然力ト  
共ニ植物生産ニ對シ重要ナル地位ヲ占ム

狹義ノ土地即チ土壤ハ如何ニ良好ナルモ氣候ノ許サハ限リハ植  
物ハ敢テ生育ヲ完ウスル能ハザルベシ故ニ氣候ナルモノハ農業者  
ノ宜シク攻究ヲ忽ニスベカラザル處ノモノニシテ其觀察ヲ要スベ  
キ點ハ温度、濕氣、風等ニシテ殊ニ氣候ノ變遷ハ農業者ノ精細觀察ヲ  
施スベキノ要點ナリ

(備考) 本章ヲ殊ニ省略講述セシハフエスカ氏著地産論アルガ故

ナリ學生諸子宜シク地産論通編天然要素ノ項ニ就テ土地及  
ビ氣候ノコトヲ考究スルヲ要ス

第一章 勞力 Die Arbeit.

天然產物ヲ占有シ之ヲ貨物トナスニ勞力ヲ要スルコトハ既ニ本篇緒言ニ於テ物ノ循環ヲ講述セル際ニ之ヲ解説セリ彼ノバスタアガ生産ニ費シタル處ノ勞力ヲ以テ貨物ノ用價ヲ判定セントセルハ蓋シ農業ナルモノ、極メテ複雑タルコトヲ考ヘズ單ニ一遍ノ理ヲ基トシ皮想ノ見解ヲ下セルニ過キズ願フニ農業ナルモノハ前ニ述べタル如ク工業トハ大ニ異ナルノ性質ヲ帶ブルモノニシテ其目的物タル農產物ノ產出ニハ土地ト稱スル一種ノ極メテ複雑ナル要素ヲ要シ而シテ此要素ノ農產物產出ニ對スル効力ハ決シテ吾人ノ掌裡ニ存スルモノニ非ズ即チ之ヲ換言スレバ吾人ハ勞力ヲ以テ天然力ニ代フル能ハザルガ故ニ農產物ノ價值ハ大ニ此天然要素ノ影響ヲ受クルモノト云ハザルヲ得ズ

## 自然力

自然力ナルモノハ假令人類ノ協力ナキ時ト雖モ猶ホ種々ノ有機體ヲ生ズ而シテ此天然產物ヲ蒐集占有スル即チ經濟學術語ニ所謂天然

產物ヲ貨物ニ改造スルニハ多少ノ勞力ヲ要ス然リ而シテ農業ノ漸ク進歩スルニ從ヒ作業ノ方法モ亦漸ク集約ニ赴キ精神的勞力即チ腦力ハ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベシ然レモ此勞力ト勞力ノ集積物タル資本トハ自然力即チ土地生産力ノ充分ナル補助ナキトキハ決シテ有利的ニ動植物ヲ生産スルコト能ハザルベシ要スルニ農業的志想ニ乏シキ經濟學者ハ往々勞力ナルモノ、効能ヲ過稱シ天然力ナルモノ、著大ナル影響アルコトヲ觀過セルコト多シ

右ニ述べタル如ク農產物ナルモノハ天然要素即チ土地ト勞力及資本トノ協同作用ノ結果ト謂フベキモノナレバ需要供給ノ原則ニ係ル物價ノ變動ヲ例外トシ若シ單純ニ之ガ價格ヲ論ズルトキハ農產物ナルモノハ充分此三要素ノ協力ヨリ成レル生産費用ニ相當スベキ價格ヲ有セザル可カラザルナリ然ルニ其否ナルハ需要供給ノ經濟的原則ノ大ニ之ニ影響スル處アルニ依ル

原野開墾ノ如キニ際シテハ之ニ注入セル勞力ト資本トハ能ク其地ノ用價ヲ示ササル可ラサルガ如キノ觀アレモ決シテ然ルモノニアラズ蓋シ斯ク注入セル勞力ト資本トハ所謂土地改良ヲ目的トスルモノナレバ年數ヲ經ルニ從ヒ漸ク之ヲ償却シテ更ニ剩餘ナカラサラシムヘキモノナリ故ニ土地ノ價格ヲ以テ直ニ之ニ注入セル勞力及ビ勞力ノ集積物タル資本ニ相均シカラサル可ラズト云フハ偏見タルヲ免レズ要スルニ耕地ノ賣買價格ナルモノハ決シテ單ニ之ニ注入セル未償却資本額ニ準ズベキモノニ非ズシテ必ズヤ亦其自然的生產力ニ相應スベキモノナリトス

由是觀之勞力及資本ナルモノハ必ズ土地ノ肥沃ノ度ニ恰當スル丈ケニ懸クルコトノ必要ナルヲ覺ルニ至ルベシ過度ニ土地ニ注入セル勞力及資本ハ決シテ之ニ相應スル結果ヲ生ズルモノニ非ザルナリ想フニ斯ク過度ニ勞力及資本ヲ注入スルハ農地ノ純收益ハ之ニ

相當ノ度ヲ以テ減少スルニ至ルベシ(瘠地ニハ多ク勞力ヲ費スモ徒勞ニ屬スルコトアリ宜シク戒ムベシ)

以上述べタル所ハ勞力ナルモノニ就テ其一斑ヲ示セルモノナレバ更ニ步ヲ進メテ之ヲ詳説センニ農業ニ應用スル勞力ニ三種アリ即チ左ノ如シ

- 一 人力
- 二 畜力
- 三 機械力

此等ノ力ハ總テ物理的法則ニ從ヒ各其效ヲ顯ハスモノニシテ之ガ使役監督ニハ猶ホ一種ノ勞力即チ精神的勞力ナルモノヲ必要トス人ノ勞力即チ人力ナルモノハ通例仕事ノ性質、勞働ノ時期及ビ場所ニヨリテ種々ノ區別アルモノニシテ勞働賃金モ亦從テ異同アリ概テ左ノ條件ニ應ジテ之ヲ定ム

一、仕事ノ種類及ヒ目的ニヨリ且ツ之ニ必要ナル智識、熟練及ビ力量ノ度ニ應ジ又勞働的勞力ナルヤ精神的勞力ナルヤノ別ニ依リ賃金ニ高下アリ

二、需要供給ノ理ニヨリ又賃金ニ高下ヲ生ズ而シテ需要供給ハ主トシテ人口ノ粗密、生計ノ難易、農地分配（大地主多キカ等カ）及ヒ勞働事業ノ多少（工業ノ盛否）等ニヨリテ相異ナルモノニシテ又移住ニ制限アルヤ否モ之ニ影響スルコトアリ、工業ハ農業ニ比スレハ多額ノ賃金ヲ支拂ヒ得ルモノナレバ交通ノ便ノ開クルニ從ヒ自ラ農業勞働者ヲ都市ニ誘致スルノ傾向ヲ生ズ

三、生活必要品即チ衣食住薪炭等ノ價格高キキハ幾分カ勞働賃金ヲ高ムルノ傾向アリ

要スルニ以上三因ノ内勞働賃金ノ高下ニ最モ關係ヲ有スルハ第二ノ需要供給ニアリ其他尙ホ勞働賃金ニ影響ヲ及ボスノ一因アリト

雖田寧口勞働ニ必要ナル機械ノ損料ノ勞働賃金中ニ顯ハル、ニ過ギザルナリ即チ

四、勞働者ノ携帶シ來ルベキ器械アルトハ其種類尙ホ其他勞働時間ノ長短ハ間接ニ勞働賃ヲ高下スルノ作用ヲナス假令ハ茲ニ一人一日ニ付十八錢ノ賃金ヲ仕拂フニ地方アリトセンニ其甲地ニ於テハ勞働時間ヲ十二時間トナスガ故ニ一時間ノ勞働賃金ハ僅カニ一錢五厘ニ當ルモ乙地ニ於テハ僅ニ八時間ノ勞働ヲナスノ習慣アリトセバ一時間ノ勞働賃金ハ二錢二厘五毛ニ當ルベシ其他地質及ビ土性、位地及ビ之ガ結果タルノ風土ノ何如等ハ勞働者ノ氣力ニ影響スル處少ナカラザルガ故ニ間接ニ勞働賃金ニ影響ヲ及ボスコト明カナリ此クノ如キコトハ人力ノ支配シ得ベキ限リニ非ザルモ移住ノ場合等ニ際シテハ宜シク考フ可シ

勞働ノ効果ハ勞働者ノ勤勉ト熟練トニヨリテ異同アリ而シテ前者ハ

勞力者  
ヲ使フ  
得時ノ心

主トシテ勞働者ノ氣質ニ存スルモノナリト雖モ尙ホ仕事ノ面白キト否ラザルトハ著シキ關係ヲ有ス後者ハ主トシテ經驗ノ有無ニヨルヲ多シトス要スルニ分業ノ利ハ此熟練ノ目的ヲ達スルニアリ

其他勞働者ノ勞力ノ効用ハ雇使者ノ使役及ビ監督ノ巧拙ニヨリテ著シキ異同アルモノニシテ經驗ヲ積ミ且ツ思慮アル人ニアラザレバ巧ミニ人ヲ使役シ得ルヲ難シ然レモ先ヅ普通ニ心得ベキ條件ヲ擧グレバ

- 一、緊急ナル仕事ノ餘リ一度ニ累積マザル様ニナスコト(勞働者ヲ難)即チ之ヲ避クル爲メニ勞働ハ成ルベク一年中平等ニ分配シ得ル様ナル組織ニテ農業ヲ行フベキコト
- 二、殊ニ收穫ノ際等ニ於テハ天候ノ何如ニ注意スベキコト
- 三、遠隔地ニ於ケル仕事ハ監督容易ナラザルノミナラズ又往復ニ時間ヲ徒費スルガ故ニ成ル可ク一時ニ勞働者ヲ使役シ之ガ成功ヲ急

勞働者  
ノ使  
二法

定時雇

ニスベク大キナル仕事ヲ同時ニ數ヶ所ニ又ハ互ニ遠隔セル場所ニ開設ス可カラザルコト

- 四、爲サルベカラザルノ仕事ハ必ズ速ニ之ヲ成就セシムベシ之ヲ放置シテ顧ミザルハ後ニ多額ノ失費ヲ招クコトアリ
- 五、勞働ノ性質ニヨリテハ器具機械ノ必要アリ器具機械ヲ用ヒシムルトハ成ルベク効力多キモノヲ撰ムベシ器具機械粗ナルハ從テ勞力ノ効力ヲ減殺スルノ不利アルノミナラズ又勞働者ニ不快ヲ感ゼシムルモノナリ

勞働者ヲ雇使スルニ二法アリ即チ

甲、定時雇 (日雇、月雇、年雇ノ類)

乙、受負勞働

定時雇人ハ一日ニ普通ナル勞働ヲナスニ止マルヲ常トスレモ受負勞働者ハ成ルベク多ク成績ヲ擧グ之ニ準ジ多額ノ賃金ヲ收メント計

勞働者雇使ノ二法

受  
勤負

受  
勤負  
便

ルヲ常トス故ニ仕事ノ結果ニ甲乙自ラ精粗ヲ生ズルノ理ナリ此理ヲ考フルキハ如何ナル種類ノ仕事ニハ定時雇ヲ使役シ如何ナル種類ノ仕事ハ受負労働ニ附シテ利アルヤハ自ラ明ナルニ至ラン要スルニ受負労働ニアリテハ仕事ノ結果ノ精ナルハ得テ望ムヲ難シト雖凡其利トスルノ點尠ナシトセズ即チ

一、受負労働賃金ナルモノハ所謂労働賃金ナルモノト労働者ノ企業心ニ對スル報酬トヲ併含スルノ性質ヲ有スルモノナルガ故ニ労働者ハ勉勵ト労働時間ノ延長ト家族等ノ助力トノ外尙ホ幾多ノ思慮(即チ精神)ヲ費シ多量ノ労働ヲナスヲ務ムルコト

二、受負労働ニ於テハ實際労働ノ功課ニ對シテ賃金ヲ仕拂フヲ得ル一(定時雇ニテハ労働ノ功果ヨリモ労働期間ノ長短ニ依リ其賃金ヲ支給スルモノトス)

三、受負労働ハ自ラ一仕事ニ對シ經驗ヲ重ネシムルノ性質アル一(受ノ際落札スルモノハ多クハ經驗者ニアリ經驗者ニアラザレバ低廉ニ仕事ヲナスコト難シ故ニ經驗アルモノハ自ラ之ヲ重ヌルニ至ル)

受  
勤負  
別  
ノ  
區

受  
勤負  
獨

受  
勤負  
集  
合

四、豫メ一仕事ニ對スル労働賃ヲ見積ルコト容易ナリ故ニ一事業ノ損益ヲ預察スルノ便アル一

受負労働ヲ區別シテ二種トス

單獨受負 聚合受負

單獨受負トハ一人ニテ一仕事ニ對シ受負ヲナスヲ云フ而シテ此受負人ハ自己ノ責任ヲ以テ更ニ労働者ヲ使役スルヲ妨ゲザルナリ餘リ大ナル仕事ヲ單獨受負トナスハ受負労働ノ效能ヲ減殺スルノ傾向アリ

集合受負トハ數人ニテ一仕事ヲ受負フヲ謂フ但シ此場合ニ於テハ受負人中ニテ労働ノ巧拙ニヨリ受負仕事ノ量ニ階級ヲ設クルヲ妨ケズ只ダ少數人ノ專有ニ歸シテ事業ノ進歩ヲ害フノ弊ヲ生シ易シ宜シク戒ムベシ

受負労働ハ何レノ種類ナルヲ問ハズ監督ヲ嚴密ニセザルベカラズ否



勞銀支  
給ノ法

ザレバ仕事ノ結果往々粗ニ流ル、ノ害アリ此害ハ幾分カ豫メ此カ  
ル場合ニ對シ勞働賃金ノ割引ヲナストキハ之ヲ防グコトヲ得ベシ  
又集合受負ノ場合ニ於テハ連帶責任トセバ可ナリ

勞働賃金ヲ支給スルニハ左ノ三法アリ

一、物品ニテ支給スルコト

二、貨幣ニテ支給スルコト

三、貨幣及ビ物品ニテ併給スルコト

要スルニ物品經濟時代ニ於テハ勞働賃ハ悉ク物品ニテ支給セルモノ  
ナレモ交通ノ便漸ク開ケ且ツ貨幣制度ノ漸ク確立スルニ至リ遂ニ  
貨幣支給ノ慣例ヲ作スニ至レルモノ、如シ殊ニ定期雇ハ概テ貨幣  
支給ノ法ヲ採用ス然レモ僕婢ニ對スル勞働報酬ハ物品支給及ビ貨  
幣支給ヲ併行スルヲ常トス

外國ノ  
一例

伊太利、佛蘭西及ビ埃國イストリエン地方ニ於テハ收穫ヲ勞働者ト雇

勞働ノ  
年間日  
數

主トノ間ニ分配スルノ仕組アリ此クノ如キ勞働者ハ分益農ト云フ  
此場合ニ於テハ分益農ハ勞働者ニシテ且ツ企業者タルノ性質ヲ兼  
有シ即チ不定賃金受負勞働者ト見做スヲ得ベキナリ此種ノ勞働者  
ニ對スル分益法ハ通例粗収益ヲ基トスルモノナレモ成ルベクハ純  
収益ヲ基トシ之ヲ分配スルノ仕組トナス方雇主ニ利アリトス  
一年間ノ農業勞働日數ハ氣候、土質及ヒ地方慣習ニ基ク休日ノ多少等  
ニヨリ異ナリ一概ニ之ヲ云フヲ得ザルモノニシテ殊ニ雨雪ノ爲メ  
ニ勞働ヲ妨ゲラル、ノ日數ハ地方ノ氣候ニヨリテ大ニ異ナルモノ  
トス關東地方ニ於テハ凡ソ三百日内外ヲ以テ勞働日數ト看做スヲ  
得ヘシ

第一節 人カ Die Hand Arbeit.

人カ  
人カハ一ニ手カトモ云フ人類ノ勞働ヨリ生ズル勞力ヲ云フノ意ナリ  
契約ノ有無ニヨリ常雇及日雇ノ別アリ

人カ

常雇ノ部類ニ屬スルハ奴婢及物品支給農夫(本邦ニ)ニノ日雇ノ部類ニ屬スルハ普通ノ日雇農夫及受負勞働者トス

奴婢

イ 奴婢

奴婢ハ概テ年極メ常雇トス主トシテ農家ノ雜用ニ使役シ尙ホ厩舎勞働、役畜使役、日雇看守等ノ職ニ就クモノナリ故ニ奴婢ノ良否ハ時ニ農家收益ノ多少ニ關係スル處尠カラザルガ故ニ宜シク之ガ撰擇ニ注意スヘシ

其數

奴婢ノ數ハ主トシテ農場ノ大小ニヨリ定マルモノナレモ尙ホ農業法ノ如何、土地利用法ノ如何等ニヨリ大ニ異同アリ又工藝作物ノ種藝盛ナルノ農家ニ於テハ奴婢ヲ要スルコト多シト知ルベシ假ヘバ多ク大麻ヲ栽ウルノ農家アリトセンニ若シ其收穫物ヲ直ニ精製シテ販賣スルノ組織ヲ取ルハ一時ニ多數ノ日雇ヲ入レ農僕ヲシテ之ヲ監督セシメ速ニ其事業ヲ終了スルノ方針ヲ取ルヲ得ベキモ若シ

賃銀支給ノ法

農閑ノ時期ヲ見計ラヒ漸次製麻ヲ行フモノトセバ日雇ヲ要スルコト少ナキモ比較的多數ノ奴婢ヲ要スルガ如キ此一例ト見做スヲ得ベシ

奴婢ノ勞働賃金ハ常ニ貨幣及ビ物品ニテ支給ス然レモ此ガ相互ノ割合ハ地方ニヨリ異同アルヲ免レズ

貨幣ニテ支給スル賃金ノ額ハ地方ニヨリ又時代ニヨリ又勞働者ノ僕タルカ婢タルカニヨリ又其執ルベキ業務ノ如何ニヨリ大ニ異ナルモノトス

物品支給モ亦然リ之ヲ貨幣ニ換算スルニ方リテハ衣食ノ外尙ホ之ニ付帶スルノ諸費(食器及寢具ノ損料、薪炭費等)ヲ加フルヲ至當トス想フニ此等ノ諸費ハ奴婢ノ數多キニ從ヒ廉價ニ當ルベシ

本邦ニ於ケル奴婢ノ勞働賃金ハ其調査ノ精確ナルモノヲ欠クガ故ニ極メテ知り易カラズト雖モ第九次農商務統計表ニ據レハ其一ヶ月

賃銀額

本邦ニ於ケル勞銀ノ調査

給料左ノ如シ

但シ食費ヲ加算セズ

全國平均		上	中	下	平均
男	二、三〇七	一、七四七	一、二六八	一、七七四	
女	一、二八三	〇、九六一	〇、七〇八	〇、九八四	
農作年雇					
男	二、一一九	一、五四九	一、二〇四	一、五九一	
女	一、二五八	〇、八二四	〇、五五七	〇、八四六	

此金額ハ管ニ貨幣支給ノ賃金即チ給料ノミヲ示スモノナレバ之ニ賄費ヲ加ヘザレバ眞ノ労働賃金ヲ得ル能ハザルモノトス

歐洲ニ於テハ尙ホ一種ノ労働者アリ物品支給雇夫ト稱ス此種ハ稍々高等ナル職ニ就クノ労働者ニ多シ貨幣賃金ノ外更ニ住宅及ビ物品ノ支給ヲ受ケ又無料ニテ自家用野菜畑ノ貸付ヲ受クルヲ常トス其他尙ホ食用麥、薪炭等ヲ交付セラル、モノナリ又此種ノ労働者ハ時

々農産物ノ收穫及ビ賣却ニ際シ幾許ノ手数料ヲ給與セラル、ノ慣例ナリ本邦ニハ此種ヲ欠ク

此物品支給雇夫ノ給與ハ必ず契約ニ基クモノニシテ此種ノ労働者ハ契約ニ基キ自己ノ妻子ヲ必ず農場ノ用ニ供スルノ義務ヲ負フコトアリ

右ニ述ベタル如ク物品支給雇ハ農場内若シクハ農場附近ニ住宅ヲ交付セラレ且ツ妻子ト居ヲ同フスルモノナレバ普通ノ奴婢ニ比スレバ農場ヲ思フノ念強ク從テ農場主ニ益アルモノナリ然レモ農場主ハ徳義上及ビ利益上此種ノ労働者及ビ其家族ニハ成ルベク一年中相當ノ仕事ヲ與ヘザルベカラザルノ困難ヲ感スベシ

總シテ奴婢及ビ物品支給雇夫ニハ一ヶ年純収益ノ幾分ヲ賞與金トシテ支給シ此輩ヲシテ農場収支ノ多少ニ對シ利害ヲ感ゼシムルノ仕組ヲ取ルベシ

日雇夫ハ概ネ契約ヲ設ケズシテ使役スルヲ常トス給料支拂ハ便宜ニ  
 應ジ或ハ毎日拂或ハ半月拂或ハ一ヶ月拂トナスモノトス之ガ雇入  
 及ヒ解雇ハ農主ノ随意トス要スルニ日雇夫ナルモノハ僕婢ニ比ス  
 レバ農場ノ利害ニ感ズルコト極メテ稀ナルモノナレバ之ガ監督ハ  
 決シテ忽諸ニ附スベカラス日雇夫ヲ使用スベキノ仕事ハ成ルベク  
 受負労働ニ附スル方利アリ若シ止ヲ得サレハ日雇夫ハ農場附近ニ  
 居住スルモノヲ用フベシ遠隔村落ノ者ハ殊ニ徳義心ヲ喚發セラル  
 、コト薄弱ナリ

日雇夫ノ労働時間ハ必ス豫メ之ヲ定メ嚴ニ之ヲ守ラシムルヲ要ス殊  
 ニ本邦ノ日雇夫ハ他邦ノ者ニ比スレバ徒ニ時間ヲ費スノ習慣アリ  
 故ニ一日ノ労働時間ヲ何時間ト定メ時間中ニハ必ズ労働ニ就カシ  
 メ若シ怠タルモノアルトキハ賃金ニ相當ノ割引ヲナシ又時間以外

ニ働ク者アルトキハ金錢若シクハ飯米ノ類ヲ給シ之ニ賞與スルノ  
 方法ヲ設クルヲ可トス

本邦労働時間ハ調査ヲ欠クト雖モ今獨逸中央ライン地方ノモノヲ掲

グレバ左ノ如シ(但シ十二時ヨリ午後  
 一時マデハ晝食休ミ)

月	午前	午後	午休	差引時間
一月	八時—十二時	一時—四時	ナシ	七時間
二月	七時—十二時	一時—五時	九時十五分— 三時四十分	八時間半
三月	六時—十二時	一時—六時	八時— 四時十五分	十時間十五分
四月	六時—十二時	一時—七時	八時— 四時半	十二時間
五月六月	五時—十二時	一時—七時	全	十二時間
七月八月	六時—十二時	一時—六時	全	十時間十五分
九月	六時—十二時	一時—六時	全	八時間十五分
十一月	六時—十二時	一時—六時	全	八時間十五分
十二月	七時—十二時	一時—六時	九時— 三時十五分	七時間

右表ニヨレバ最多労働時間ハ十二時間トス斯ノ如キ長時間ノ労働ハ

日雇夫ノ勞銀

元三十四

其賃銀

稍々堪へ難キニ似タレハ農業勞働ハ豫想外精力ヲ勞セザルモノナ  
 ルガ故ニ實際ニ於テハ決シテ健康ニ害アルモノニアラズ  
 日雇夫ノ勞働賃金ハ各地相均シキモノニアラズト雖モ今全國平均數  
 ヲ掲グレバ左ノ如シ(第九次農商務省統計表)  
 但シ食費ヲ加算セルモノ

	上	中	下	平均
農作日雇男	〇、一九〇	〇、一五五	〇、一二一	〇、一五五
農作日雇女	〇、一一九	〇、〇九四	〇、〇七一	〇、〇九五
養蠶日雇男	〇、二二一	〇、一七〇	〇、一二九	〇、一七三
全女	〇、一五〇	〇、一一八	〇、〇八八	〇、一一九
製絲雇女	〇、一七〇	〇、二三三	〇、〇九八	〇、二三四
製茶雇男	〇、三二三	〇、二四四	〇、一八七	〇、二四八
普通日雇人足	〇、二二〇	〇、一八四	〇、一四六	〇、一七七

獨國ノ  
日雇賃  
銀

右表ニヨリテ之ヲ見レバ普通日雇人足ノ勞働賃ノ農作日雇ニ比シテ  
 較、高キハ一見奇ナルガ如キモ能ク兩者ノ仕事ノ性質ヲ考フレハ敢  
 テ異シムニ足ラザルベシ即チ普通人足ハ農作業ヨリハ更ニ困難ニ  
 シテ且ツ多ク力量ヲ要スルノ仕事ヲナスモノナレバ勢ヒ多額ノ賃  
 金ヲ占ムルニ至レルト又普通人足ノ常業タル土方仕事ハ農業ニ比  
 スレバ稍、劣等ナル性質ヲ帶ブルヲ以テ少シク嫌惡スル處アルニヨ  
 ルナラン

尙ホ參考ノ爲メ中央ライン地方ノ日雇賃金ヲ示スコト左ノ如シ  
 但シ單位獨貨、マルク

	最上	上	中	下	平均
自四月一日至九月三十日夏季間	男 二、五〇 女 一、七五	男 二、〇〇 女 一、五〇	男 一、六〇 女 一、二〇	男 一、二〇 女 〇、九〇	男 一、八三 女 一、三四
自十月一日至三月卅一日冬季間	男 二、〇〇 女 一、四〇	男 一、八〇 女 一、二〇	男 一、四〇 女 一、〇〇	男 一、二〇 女 〇、七五	男 一、六〇 女 一、〇九

獨國ノ日雇賃銀

元三十五

受負労働者

元三十六

一ヶ年平均	男	二、二五	一、九〇	一、五〇	一、三〇	一、七四
	女	一、五〇	一、三五	一、一〇	〇、八〇	一、二九

本邦ニ於テハ此ノ如ク季節ニ應ジテ賃金ニ相違ヲ來タスコト稀ナリ  
 歐洲ニ此クノ如キ例アルハ季節ニ應ジテ労働時間ヲ定メ之ヲ確守  
 セシムルニヨルハ且ツ季節ニヨリテ労働者ヲ得ルニ難易アルニヨ  
 ルモノトス

日雇夫ノ一種ニ農場付日雇ナル制歐洲ニアリ彼ノ僕婢ノ類ニ屬スル  
 物品支給雇ト略ボ同一ノ性質ノモノナレモ其賃金支給ノ年額ニヨ  
 ルニアラズシテ日給ナルノ別アリ此農場付日雇ナルモノハ往時ハ  
 農場ニ強隸セシメラレ居リシガ爾後之ヲ解放セリ労働者ヲ得難キ  
 大農場(開墾地等)ニハ極メテ有益ナル仕組ナリ

受負労働者

ハ 受負労働者

本邦ニ於テハ農業ニ此種ノ労働ヲ利用スルコト少ナケレモ歐洲ニ於

農場付日雇

労働者ノ功程

テハ收穫、脱稈、土方仕事、開墾等ノ如キ事業ニハ往々此種ノ勞力ヲ使  
 用シ尙ホ近年ニ至リテハ漸ク之レガ利用盛ンナルノ傾向アリ  
 群馬縣地方ニ於テハ收穫ニ此種ノ労働ヲ利用スト聞ク之ヲ方言ニ「渡  
 シ」ト稱ス

受負労働者ノ収ムル處ノ労働賃金ハ日雇夫ニ比スレバ凡ソ五割方多  
 シトハゴルツノ調査ニヨリ明ナリト雖モ此ク賃金ノ差ヲ生スルハ  
 受負労働者ノ普通日雇ニ比スレハ半日分丈ケ餘分ニ仕事ノ結果ヲ  
 生ゼシムルニヨルニ外ナラス

労働者一人一日ニ爲シ得ベキ仕事ノ量ハ労働者ノ熟練、力量、氣質、風土  
 季節等ニヨリ決シテ一樣ニ言フヲ得ザルモノニシテ歐米農書ニ載  
 スル處モ亦時ニ著シキ相違アルコトアリ本邦ノ事項ハ調査ヲ欠ク  
 ガ故ニ今之ヲ示ス能ハザレモヒツテ著農家必携中ニアルモノ  
 ヨリ重要ナルモノヲ拔載スルコト左ノ如シ

一日一人如何程ノ仕事ヲ爲シ能フヤ

元三十七

一日一人如何程ノ仕事ヲ爲シ能フヤ

土地改良ニ係ル仕事

一人一日十二時間ノ労働時間ニテナシ得ル量

一ヘクタールノ仕事ニ要スル日數

元三十八

深サ一メートル四分一ノ排水渠ヲ掘ルコト

一〇—一二メートル

全上埋込

七五—九〇メートル

排水筒配置

二八—九五メートル

土砂車積ミ

二〇—三〇車(三頭引馬車)

土砂散布

三〇—五〇車

五千メートルノ距離ニ土砂ヲ運搬スルコト

四立方メートル

穴堀

四—七立方メートル

輕土ヲ半メートルノ深サニ鋤キ起ス

一七—三〇アール

五、九—三、三

重土ヲ半メートルノ深サニ鋤キ起ス

一五—一八アール

六、六—五、五

施肥事業

肥料散布

一七—二五アール

五、七—四、〇

耕種事業

穀物蒔付

三、五—五、〇ヘクタール 〇、二八—〇、二〇

穀物刈取り(大鎌ニテ)

三〇—七〇アール

三、三—一、四

全(小鎌ニテ)

六—一〇アール

一六—一〇

藝莖刈取り

一〇—二〇アール

一〇—五

脱穀

一、二五—二、五ヘクタール

今クラフトニヨリ百ヘクタール農場ノ經營ニ要スル一日平均農夫數

ヲ示サバ左ノ如シ

農場種類

日雇及ビ受負労働者

僕婢

合計

粗放農場(下等地)

一一—一七

五—八

一七—二五

稍々粗放ナル農場

一九—二四

八—一〇

二七—三四

集約農場(中等地)

二六—三一

一〇—一二

三六—四三

極メテ集約ナル農場(上等地)

三三—四三

一二—二三

四五—五五

第二節 畜力 Die Gespann Arbeit.

畜力

畜力

元三十九

農用畜力ヲ生ゼシムルカ爲メ使役スル家畜ヲ役畜ト云フ本邦普通ノ役畜ハ牛馬ノ二種ニ限レモ歐洲ニ於テ尙ホ驢馬騾馬ヲ用フル地方アリ埃及ビ印度ニ於テハ水牛ヲ用フ本邦ニ於テハ南地ハ主ニ牛ヲ用ヒ北地ハ主ニ馬ヲ用ウ其役畜ヲ缺クノ地方ハ略ボ東京以南京坂以北トス役畜ノ効力ハ主トシテ其牝牡ノ性ニヨリ異ナルモノナリト雖モ又年齡、養法、馴致法、牽具及ビ使役者ノ巧拙ニヨリ異ナルモノトス其他風土季節及ビ器具ノ善惡モ亦關係ヲ有ス

イ 馬

馬ハ牛ニ比スレバ力量ハ稍劣ルモ速力及ビ銳敏ノ點氣候ノ變化ニ堪フルノ點ニヨリ農業經營ニ對シテハ極メテ緊要ナル役畜ナリ馬ニハ冷血、熱血ノ別アリ其役畜トシテ稱用セラル、ハ甲者ナリ其力量ハ遙ニ乙者ニ勝リ且ツ幼稚ノ時ヨリ勞役ニ服スルノ利アリ土質

輕鬆ナル農場ニ於テハ時ニ乙者ヲ役畜トナスコトアリ然レモ其沈靜ナラザルガ故ニ熟練ナル使役者ヲ要ス耕犁ノ如キ多ク力量ヲ要スルノ勞働ヲ爲スルハ進行ノ速度ハ土壤ノ抵抗及ビ撥起スヘキ土量ニ應シテ減少スルモノナリ尙ホ圃地ノ地形等ハ勞力ノ効果ニ關係ヲ有スルモノナリ馬ノ一日ノ仕事ノ量ニ就テハ本邦ニ於テ調査セルモノナシト雖モ今エーベルトノ調査ニ係ルモノ、内重要ナルモノヲ舉レハ左ノ如シ

(單位ヘクタール)

十時間ノ勞働時間ニ於テ役馬ノ爲ス處ノ仕事	四頭	二頭	一頭	少	多	平均
ブラウ	一	一	一	〇、一五	〇、二〇	〇、一八
堅地 犁起	一	一	一	〇、三五	〇、四七	〇、三八
穀作跡地 犁起	一	一	一	〇、三五	〇、四〇	〇、三三
クローバー跡地 犁起	一	一	一	〇、三五	〇、四〇	〇、三三



播種	凹凸ローラ	輪製ローラ	木製ローラ	鐵製滑ローラ	壓轉	全上二回懸ケ	三挺ニテ一回懸ケ	ハロー	カルチベートル整地	堆肥犁キ込ミ	菽作整地犁起	菽作跡地犁起
	200/36 C.m	200 C.m	126/39 C.m									
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一、五〇	一、五〇	二、五〇	一、五〇	一、七〇	三、五〇	一、八〇	〇、四〇	〇、三五	〇、四五	〇、四〇	〇、四〇
	二、〇〇	一、七〇	三、五〇	一、七〇	二、〇〇	四、〇〇	二、三〇	〇、五五	〇、四五	〇、四七	〇、六〇	〇、六〇
	一、六〇	一、六〇	三、〇〇	一、六〇	一、八〇	三、八〇	二、〇〇	〇、五〇	〇、三八	〇、三八	〇、五〇	〇、五〇

大覆土ハローニテ覆土	普通ハローニテ覆土	播種機	撒播機(アルバン)	深耕	リード氏深耕犁	耕種	根菜中耕培土	穀作(冬)	刈取(夏)	刈取
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二、〇〇	二、三〇	三、五〇	八、〇〇	〇、一九	〇、三八	〇、五七	二、七〇	四、五〇	三、六〇	三、六〇
二、三〇	二、八〇	五、〇〇	二〇、〇〇	〇、三五	〇、五七	三、二〇	三、二〇	五、二〇	四、六〇	四、六〇
二、二〇	二、五〇	四、五〇	九、〇〇	〇、二七	〇、四〇	三、〇〇	三、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	四、〇〇

右ノ表ニ掲ケタル仕事ノ量ハ十時間ノ労働ヲ基トセルモノナレモ時  
 ニヨリテハ八時間乃至十二時間労働セシムルコトアリ然レモ一日

馬ノ勞働日數

十時間ヲ適當トス

獨逸ニ於テハ馬ノ一ケ年勞働日數ハ最多二百七十五日乃至二百八十日、最少二百四十日乃至二百五十日トス殊ニ農役用牝馬ヲ蕃殖ニ供用スルトキハ更ニ短縮スルモノナリホーヘンハイム農學校ノ農場ニ於ケル九ケ年平均ハ二百三十三日ナリ

其賃銀

馬ノ勞働賃金ヲ定ムルノ法ハ評價學ノ講義ニ讓ルベシト雖モ今獨逸ニ於ケル農業經營學者ノ云フ處ニヨレハ一日ノ勞働賃金ハ凡ソ一

「マルク」半ニ當ル

牛

ロ 牛

牛ハ役畜トシテハ概シテ遲鈍ナレトモ力量アルノ點ニ於テハ馬ニ優ル然レモ此農役用トシテノ適否ハ種類ニヨリ著シキ差異アルモノトス、要スルニ山嶽種ハ平原種ニ比スレハ優レルモノトス本邦産ニテハ南地産ノモノハ北地産ノモノヨリ銳敏ニシテ且ツ輕快ナリ故

牛ト馬トノ比較

ニ能ク農用ニ適ス歐洲ニ於テハ概テ制牛ヲ農用ニ供ス又南獨逸ノ小農間ニハ牝牛ヲ使役スルモノヲ見受ケタリ牝牛ハ牡牛ニ比スレハ歩行速カナルノ利アリ

要スルニ牛ハ速力ヲ要スルノ仕事即チ「ハロー」又ハ「レーキ」ニハ適セサルモノナリ然レモ荒地開發ノ如キ力量ヲ要スルノ場合ニハ牛ノ方

優ニ馬ニ勝ル

牛ハ裂爪ヲ有スルカ故ニ堅キ道路ニハ適セサレモ土ノ柔ラカキ處殊ニ田地ノ耕耘ニ於テハ馬ニ優ル想フニ九州地方ニ於テ田ノ耕耘ニ牛ヲ慣用スルニ至レルハ暗ニ此理ニ合フモノト云フ可シ  
モーリンニヨレハ牛ノ勞働ノ効力ハ馬ノ三分ノ二ニ當ルモノトス

即チ左式ニヨリ之ヲ算定セリ

馬 700 Kg. × 1.1 Mtr. = 770 Kgm.

牛 700 × 0.75 = 525

牛ト馬トノ役畜トシテノ比較

770 : 525 :: =32

(大約ノ計算ナリ)

又一説ニハ

馬・牡牛 牝牛

3 = 4 = 7

ト云フモノアリ

役畜ヲ農具或ハ車ニ付ケ労働セシムルトキニ際シ何程ノ力量ヲ費スカヲ計ルニハ驗重計ヲ要ス右ノ式ニアル力量ハ此機械ニヨリ檢定セルモノ、如シ

右ニ説ケル如ク牛ハ馬ニ比スレハ僅ニ三分ノ二ノ労働ヲナスモノナレハ農用上馬ノ方遙ニ牛ニ優ルカ如キ觀アレ能ク經濟ノ如何ヲ鑑ミレハ牛ノ方遙カニ利アリトス今牛馬ノ得失ヲ比較スルコト左ノ如シ

力量	牛	馬
優		劣

牛ノ一年間労働日數ハ馬ニ比スレハ稍少ナシ今獨逸書ニアル處ヲ參

考トシテ掲クレハ

- プロツク(シモンジンエ地方) 一九〇—二三〇
- フアイト(バイエルン地方) 二三〇—二五〇
- パブスト 二〇〇—二二〇
- 牛ノ労働日數 元四十七

輕快	劣	優
買入價格	優廉	劣
價值減却 <small>(怪我或ハ年齢ヲ重ヌルニ依ル)</small>	優 <small>(肉用トシテ相當ノ實價アリ)</small>	劣
養	優 <small>(容易ナリ)</small>	劣
罹病	優 <small>(病ニカク)</small>	劣
傳染病	劣 <small>(恐ルヘキノ牛疾アリ)</small>	優 <small>(炭疽、皮疽等ノ傳染病アレ能ク勢概シテ猛烈ナラズ)</small>
糞	稍優 <small>(本邦ノ如キ分解ヲ促進スルコト著シキ風土ニ於テハ有効成分ノ飛散馬糞ニ比スレハ概シテ少ナシ)</small>	劣 <small>(但或ル場合ニハ馬糞ノ方優ルトアリ)</small>

牛ノ勞銀、役畜數

元四十八

デーリッツ(ウエルテンブルヒ)

一八〇

ホーヘンハイム農學校農場九ヶ年平均

二二七

若シ牛ヲ屠用ニ供スルノ目的アルトキハ餘リ劇シク使役セサルヲ可トス、此場合ニ於テ農場ニ必要ナル頭數ヨリハ餘分ニ飼ヒ置キ輪次交代休憩セシムルヲ可トス

牛ノ勞働賃金ハ馬ニ比スレハ概シテ低廉ナリゴルツハ牛ノ勞働賃ヲ

一、ト見做セハ馬ノ勞働賃一、四八ニ當ルト云ヘリルコトウーハ精密ナル計算ヲナシ左ノ割合ヲ示セリ

牛 1.70: 馬 2.37 = 牛 1: 馬 1.39

役畜ノ數如何

一農場ニ要スル役畜ノ數ヲ算出スルノ法ハ評價學ニ讓ルト雖モ今獨逸書ニヨリ之カ例ヲ掲クレハ左ノ如シ  
バプストニ依レハ中央獨逸ニ於ケル農馬頭數ノ平均ハ

重	土	重ナラズ輕ナラザル土質	輕	土
---	---	-------------	---	---

集約ナル農法	六八二六、五二三	八五二〇、二一〇、一〇、七五、一三	九六七、六
略ボ集約ナル農法	八九七五、三二一〇、四	一〇、一三、一〇、八四	七四六、
穀作栽草組	一〇、一三、一〇、八	三三、一六、七六、六四	一七、一〇、六、五
織ノ農法			

ゴルツハ北獨逸ノ農場ニ於テハ輕キ土質ノ地ハ七、七、ヘクタールニ馬一頭ヲ要スルモノト見積リ又東プロイスエン州ニ於テハ馬一頭ニ付左ノ割合ニテ見積ルベシト云ヘリ

重キ土質

輕キ土質

集約農法 七一九ヘクタール 一〇一一二ヘクタール

粗放農法 一〇一一二ヘクタール 一二、五一一五、ヘクタール

第三節 機械力 Die Maschinen Arbeit.

機械ナルモノハ人類ノ勞働ヲ補助シ勞働費ヲ減少シ且ツ成功時間ヲ短縮ス時ニ風又ハ水ノ如キ自然力ヲ利用スルヲ得ベシト雖モ概

機械力

元四十九

機械

子蒸氣又ハ畜力ニヨリ發動ス

總シテ機械ナルモノハ右ニ述ベタル如キ利益アルモノナレモ附近ノ地ニ農具製作場ナク之ガ修理ノ容易ナラザルガ如キ場合ニ於テハ寧ロ不利ニ近シ又之ガ買收ハ比較的多額ノ資金ヲ要スルガ故ニ使用ノ機會稀ナルトキハ不經濟タルヲ免レザコトアリ發動機ノ効力ハ常ニ馬力ヲ基トシテ之ヲ示ス一馬力ハ七十五「セコンド」キログラムメートル「ニ當ル一馬力トハ即チ七十五「セコンド」キログラム」ノ重量ヲ一「セコンド」間ニ一「メートル」ノ高距ニ舉グルノ力ト相均シク大約八人六分力ト相同シ

眞ノ馬ノ力量ハ五十、七「セコンド」キログラムメートル「ニ概當スルモノナレバ機械馬力ニ比スレバ稍劣ルモノナリ今人力、眞ノ馬ノ力及ヒ機械馬力ノ比例ヲ掲グレハ左ノ如シ

人1: 眞ノ馬5.9: 馬力8.8

馬ノ力

人ト馬ト力ノ比

機械馬力

即チ人ニ比スレハ馬ハ殆ト六倍ノ仕事ヲナシ機械馬方ハ殆ト九倍ノ仕事ヲナスト云フノ意ナリ

機械馬力ノ名稱ニアリ即チ一ハ學理的ニ算出セルモノニシテ公稱馬力ト稱シ一ハ發動機ノ機械ニ移傳スルノ力量ニシテ實馬力ト稱ス馬ハ十時ノ間五十、七「セコンド」キログラムメートル「ノ力量ヲ生スルヲ得ルモノナレモ四十五「セコンド」キログラム」ノ抵抗力アル馬力機ヲ八時間運轉スルニハ僅ニ〇、九「メートル」ノ速力ヲ出スニ過キス而シテ此力量ハ四〇、五「セコンド」キログラムメートル「ニ當ル此數ハ實際、馬ノ機械ニ移傳スル力量ヲ算出スルノ基數トナスヲ得

例、二馬運轉ノ馬力機カ一脱稈器ヲ動かスニ足ルトキハ其實馬力ハ如何

$$40.5 \times 2 = 81 \text{ S.Kgm.} \quad \frac{81}{75} = 1.08 \text{ 實馬力}$$

此例ハ只計算法ヲ示スニ過キス實際ニ於テハ力ノ發動ハ運行ノ速カ

馬力ノ計算

ナルトキハ發動頭數ノ割合ニ其力量ヲ増加スルモノニアラスシテ  
 假令ハ一頭ノトキノ力量ヲ十トスレハ二頭ノトキノ力量ハ一頭ニ  
 付八、四頭ノトキノ力量ハ一頭ニ付七、六頭ノトキノ力量ハ一頭ニ付  
 六ノ割合ヲ保ツニ過キス即チ以上ノ計算ハ正確ヲ失シタルモノナ  
 ルニツキ今前題ヲ右ニ示セル割合ニ基キ計算スルニ左ノ如シ

$$40.5 \times (2 \times 0.8) = 64.8 \text{ S.Kgmr.l.} \frac{64.8}{75} = 0.864 \text{ 實馬力}$$

牛ハ發動畜トシテ用フルトキハ馬ニ比スレバ力量ヲ有スルコト稍少  
 シ即チ六十「キログラム」ノ抵抗力アル馬力機ヲ八時間運轉スルニハ  
 僅カニ一秒時間〇、六「メートル」ノ速力ヲ出スニ過キス此力量ハ三十  
 九「セコンド」キログラム「メートル」ニ當ル

畜力

畜力ハ發動ニ供用スルトキハ較ヤ不廉ナリトス最モ廉價ナル發動力  
 ハ風及ヒ流水トス

風力

風力ハ本邦ニ於テ會テ利用ヲ試ミタルコトアレモ兎角車扇裝置ヲ破

水車

壞セラレ不經濟ヲ免レス要スルニ風車ハ本邦ノ如ク一年數回暴風  
 ノ害ヲ蒙ルノ風土ニハ適セザルモノト謂フヘシ風力ノ利用盛ナル  
 ノ地方ハ歐洲北部和蘭及ヒ北獨逸トス  
 水車ハ本邦ニ於テモ多ク之ヲ見ル最モ有効ナル製式ハ「トルビン」水車  
 ナレモ之カ利用ハ寧ロ工業ニ限ラル「トルビン」水車ニ亞デ効力多キ  
 水車ハ上射水車トス公稱馬力ノ七割五分ハ實馬力ニ顯ハル  
 流水ノ馬力ヲ算出スルノ法左ノ如シ

例、断面〇、五五DMノ流水カ一秒時間ニ〇、一五Mノ速力ニテ三M

$$\frac{3 \times 0.55 \times 0.15 \times 1000 (\text{水}) - 1 \text{ 立方m. } (\text{kg})}{75 (\text{一馬力. } \text{S.Kgm.})} = 3.3$$

今此公稱馬力ヲ有スル水量ヲ上射水車ニ注クトキハ  
 $3.3 \times 0.75 = 2.47$

即チ二、四七ノ實馬力ヲ生スヘシ

水車

各種發動力ノ學理的力量ハ右ニ述ヘタル如シト雖モ之カ實際ノ効力ハ動力移轉裝置ノ種類及ヒ構造ニヨリテ異同アルヲ免レス  
尙ホ其他農業ニ於テ利用スルノ發動機ハ蒸汽機トス主トシテ脱穀及ヒ耕犁ノ際ニ用フ

フアウレル式農用蒸汽機ハ最少五馬力ノモノヨリ最大三十馬力ノモノニ至ル迄數種アリ内七馬力乃至十四馬力ノモノハ最モ歐洲大農ノ稱用スル處トナル

フアウレル蒸汽犁モ又數種アリ然レモ一機關式、二機關式ノ二類ニ大別ス

- 一 機關式蒸汽犁ノ一日ノ仕事量ハ左ノ如シ(十二馬力)  
耕犁ノ深CM. 一日ノ量(ヘクタール)  
四 畦 犁 二〇—二五 四、五
- 三 畦 犁 三〇—三五 三、〇

グラツパー(撥土耙)

- 全 二〇—二五 五、五
- ハ 一五 一〇、〇

以上ノ仕事ヲナスニハ一日ニ凡ソ七百キログラムノ石炭ヲ要ス掛リ人夫數三名トス

二機關式蒸汽犁ノ一日ノ仕事量ハ左ノ如シ(十六馬力)

耕犁ノ深サ(Cm.) 一日ノ量(ヘクタール)

- 六 畦 犁 二〇—二五 一〇
- 四 畦 犁 三〇—三八 六
- 全 二〇—二五 一二
- 三〇—三五 九
- ハ 一五 二五

以上ノ仕事ヲナスニハ一日ニ凡ソ千八百キログラムノ石炭ヲ要ス掛

流弊ノ費用、資本

元五十六

リ人夫數ハ犁ノトキハ四名、クラツバーノトキハ三名トス

ザクセン州ゾムメレンエンブルグ農場ニ於ケル經驗ニヨレバ六年平

均一「モルゲン」(〇、二五五三ヘクタール)ノ蒸氣耕犁費用左ノ加シ

犁 一〇、〇マルク

クラツバー 六、六マルク

ハロ 三、三マルク

獨塊地方ニ於テ觀察セルニ蒸氣犁ハ凡ソ五六百町歩以上ノ大農場  
ニアラザレバ得失償ハザルモノ、如シ

第二章 資本 Das Kapital.

勞力ニヨリ地(海陸ヲ包含ス)ヨリ集收セラレタル處ノ貨物ニシテ更ニ  
貨物生産ノ用ニ供セラル、處ノモノヲ資本ト云フ、一派ノ經濟學者ハ  
資本ハ勞力ノ集積物ナリト説クト雖モ較ヤ當ヲ失スルモノ、如シ

經濟學上資本ト稱スルモノハ決シテ利殖ニ供スルノ金錢ノミヲ云フ  
モノニアラスシテ營業ニ供スル動産ヲ總稱ス家屋及樹木類ハ法律  
上ニテハ不動産ニ属スルモノナレモ理論上ヨリ觀察スルトキハ亦  
決シテ動カスヲ得ヘカラサルモノニアラサルカ故ニ蓋シ資本ノ部  
類ニ屬スルモノトス斯ク論シ來ルトキハ土地ヲ除クノ外其他ノ農  
業經營ニ必要ナル物件ハ總テ資本タルヤ明カナリ

農業資本ハ固定及流通ノ二種ニ分ツ

固定資本ハ農業經營ノ爲メ絶エズ必要ナルモノニシテ亦常ニ使用セ  
ラル、資本部類ナリト雖モ直接ニ農産物ノ生産ニ關セス固定資本  
ハ絶エス其價值ヲ減シ幾年ノ後ニハ遂ニ消滅スルニ至ルヘシ故ニ  
常ニ之カ耗失ヲ補充シ若クハ之ニ相當スヘキ資金ヲ積立テ之カ更  
新ヲ圖ラサルヲ得ス此場合ニ於テ積立ツル處ノ資金ハ概テ一定ノ  
歩合ヲ以テシ之ヲ償却歩合ト稱ス

固定資本

元五十七



固定資本ノ大別、流通資本ノ大別

固定資本ヲ大別スルコト左ノ如シ

- 一、農用建物
- 二、無生財産(又ハ農具トモ云フ)
- 三、無形財産(又ハ農場附帯ノ權利トモ云フ)
- 四、有生財産(又ハ家畜トモ云フ)
- 五、農用樹類

流通資本トハ新タニ貨物ヲ生産センカ爲メニ消費セラル、處ノ資本ニシテ即チ流通資本ノ價值ハ新生産物ニ移ルモノトス概テ消失價値ヨリモ更ニ大ナル價值アルノ生産ヲ見ル此前後ノ價值ノ差ハ即チ營業利益ノ大部分ヲ占ム

流通資本ヲ大別スルコト左ノ如シ

- 一、圃地貯財(永久ノ土地改良ニ屬スル排水装置灌漑水溝等ハ固定資本ノ料及ヒ立毛ノ類ナシ云フ)

二、農舍貯財  
 三、肥糞畜  
 四、用材樹  
 五、未販賣收穫物  
 六、現金及ヒ貸金附未納收入金

一定面積ノ農地ニ對スル資本ノ多寡及ビ固定流通二種資本ノ割合ハ農業法ノ如何ニヨリ異同アリ而シテ同様ノ方法ニヨルノ農業ニ於テモ亦農業者ノ資産ノ多少及ビ知識ノ有無ニヨリ多少ノ變動アルモノニシテ又氣候、土質、交通ノ良否モ大ニ關係スル所アリ即チ假令資産ニ富ム農業者ト雖モ氣候寒冷、土壤礫瘠、交通不便ナルノ地ニ於テハ資本ヲ放下スルモ相當ノ報酬ヲ収ムル能ハサルヲ以テ自ラ粗放農業ヲ行ハサルヲ得ス

要スルニ過多ニ資本ヲ放下スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラズト

固定ト流通ニ資本投下割合

雖亦之ヲ放下スルコト少ナキニ過グルハ不利ナリトス例ヘバ歐洲ノ農業者ハ不生産的性質ナル建物ニ對シ過度ニ資金ヲ注入セルガ故ニ収益少ナク本邦農業者ハ流通資本ヲ備フコト少ナキガ故ニ農業要素ノ一タル土地ヲ充分ニ利用スルコトヲ得ザルノ觀アリ右歐洲ノ例ハ固定資本ノ注入度ニ過ギタルノ不利ヲ示スモノナレモ流通資本ト雖亦過度ニ注入スルトキハ左ノ不利アルヲ免レス即チ

- 一、資本ヲ放下スルコト多ケレバ多キ程損失ノ冒險増加スベシ
- 二、資本ヲ放下スルコト多ケレバ多キ程之ヲ収縮スルニ困難ナルコト
- 三、資本ヲ放下スルコト多ケレバ事業ハ自ラ復雜ニナリ之カ監督容易ナラタルコト

合理的ニ組成セラレタル農業ハ略ホ某額ノ資本ヲ有シ且ツ二種資本ノ割合モ大約定マリ居ルモノナリ要スルニ固定資本ナルモノハ或

ハ目的ヲ達スルカ爲メノ媒介機關ト見做スヘク流通資本ハ成ルヘク急劇ナル運轉ニヨリテ純益ヲ生セシムルノ機關ト見做スベキモノトス

粗放農法(例ヘバ放牧農ノ如キ)ニ於テハ固定資本ハ流通資本ヨリハ遙カニ多ケレドモ農法ノ集約ニ赴クニ從ヒ此割合ハ漸ク相平均シ遂ニハ正反對ノ比例ヲ呈スルニ至ル斯ク觀察シ來ルキハ農法ノ集約ナルト粗放ナルトハ單ニ三要素ノ關係ニヨリ判斷シ得ルノミナラズ又タ二種資本ノ割合ニ基キ判定スルヲ得ベキナリ

バプストハ曾テ營業資本(但シ建物ヲ除ク)ハ年小作料ノ四五倍乃至七八倍ニ當ルト云ヒ又之ヲ細別シテ二種資本ノ年小作料ニ對スル割合ハ固定(但シ建物ヲ除ク)ハ三倍乃至六倍即チ平均四倍半、流通ハ小作料ト同額乃至三倍即チ平均二倍ニ當ルト云ヘリ即チ固定資本ノ流通資本ニ對スル割合ハ凡ソ二倍二分五厘ト見做スヲ得ベシ之ニ由テ是ヲ觀レ

ハ此調査ヲ施シタル農場ハ寧ロ粗放的農場ト云フテ可ナラン  
 ザクセン王國ノ五十個ノ農場ヲ調査セシニ營業資本ハ一町歩ニ付三  
 百「マルク」乃至六百三十「マルク」(平均五百「マルク」)ニシテ年小作料ノ五  
 倍乃至十一倍平均八倍ニ當ル而シテ内一倍乃至二倍ハ流通資本ナリ  
 以上示セル處ハ孰レモ大農場ニ係ルモノナルガ今左ニナツサウ地  
 方ノ小農場ニ係ル調査ヲ示サン  
 ナツサウ地方小農場面積十町歩(單位マルク)

		總面積ニ付	一町歩平均
(甲)固定資本	建物	九九一四	三九一、四〇 (建物ヲ除ク)
	家畜	六〇〇〇	—
	農具類	二六一四	二六一、四〇
		一三〇〇	一三〇、〇〇
(乙)流通資本		九二二、一九	九二、二二
二種資本合計(但建物ヲ除ク)			四八三、六二

クラフ  
トノ例

即チ固定資本(但建物ヲ除ク)ノ流通資本ニ對スル歩合ハ四、二四倍ニ當ル(此  
 農場ニテ飼育セル家畜ハ役馬一頭、肥脇牡牛二頭、乳牛三頭、犢四頭、羊  
 十頭、牝豕一頭ナリ)

クラフトハ耕地一「ヘクタール」ニ對スル資本額トシテ左ノ表ヲ載セリ  
 (單位マルク)

	多	少	平均
家畜	二〇〇	六〇	一三〇
農具	一〇〇	三〇	六五
合計固定資本	三〇〇	九〇	一九五
流通資本	一五〇	四五	九七
資本	七五	二二	四八
平均(全上三割八分)	一一四	三四	七四
合計營業資本	四六〇—四一四— 三七五	一三五—一二四— 一一二	二九二—二六九— 二四三

右ノ表ニヨリテ考フレバ家畜ハ概テ農具ノ倍額ヲ占メ流通資本ハ家畜ノ半額ノ五割増額ト略ホ同シク即チ農具ト流通資本トノ合額ハ略ホ家畜資本額ト相均シ

第一節 固定資本 Das Stehende Capital.

固定資本ハ曩ニ示セル如ク建物、農具、家畜等ヲ總稱スルモノニシテ之ヲ無生、有生ノ二類ニ大別ス

年末ノ損益決算ヲナストキニハ固定資本ノ利子ヲ算入スヘカラス要スルニ資本利子ナルモノハ純益ノ一部ヲナスモノナレバ之ヲ簿記上負債ノ中ニ算入スルハ至當ノ業ニアラス然ルニ數多ノ農業經營學者ハ此誤謬ヲ免カレス

甲 無生資本 Tottes Inventar.

此類ニ屬スル資本ハ營業上必要欠クヘカラサルモノナリト雖モ只間接ニ生産ヲ補助スルニ止マリ年々多額ノ償却歩合ヲ流通資本ヨリ

固定資本

無生資本

建物

奪フモノトス故ニ此類ノ資本ハ農業經營ニ支障ナキ限りハ勤メテ之カ節減ニ注意スヘシ

一 建物

此項ニ屬スルモノハ單ニ屋舎ノミナラス又水路、道路、橋梁、井、泉、溜池、埋筒、堰、墻壁等土地ニ固着スルニアラサレハ其用ヲ爲サ、ル總テノ建設物ヲ包含ス

農用建物ノ建設法及ヒ其配置ハ農場ノ大小及農法ノ如何ニヨリ又風土、位置、土質及地方習慣、農場主ノ貧富并ニ建物保存ノ難易等ニヨリ異同アリ而シテ之カ價值及ヒ價格ノ如キモ亦時ニ大差アリ

歐洲ノ建物資本ハ概テ土地價格ノ二割乃至三割ニ當リ又時トシテハ四割五割ニ當ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ農業ノ收益ノ多分ハ建物償却歩合トシテ吸収セラル、ニ至ル

建物ノ年々ノ減價率、修繕費及ヒ火災保險費ハ其種類、構造及ヒ年期ニ

其減價率

其資本

其建築

建物

其保存

建築材料ニ依テノ得失

ヨリテ相異ナルモノニシテ石造及ヒ煉瓦造ハ木造ニ比スレハ其歩合ハ割合ニ少ナキモノトス然レモ前者ハ創設ニ際シ多額ノ費用ヲ要スルモノナレハ到底金利高キ國ニ於テハ不利ヲ免レス

稍、堅牢ナル建物ナレハ木造ト雖モ百年以上維持スルハ決シテ難キニアラス今假リニ保存年限ヲ百年ト見做ストキハ償却歩合一年僅カニ一分ニ當ルニ過キス若シ石造若クハ煉瓦造ノ場合米倉等ニハ此セシトニ於テハ償却歩合トシテ年々原價ノ二百分一乃至三百分一ヲ見積ラハ充分ナルヘシ

要スルニ建物ノ種類石造木造ノ別ハ主トシテ用途ニヨリ之ヲ定ムルヲ可トス即チ早ク頽破スヘキ虞アル用途ニ供スルモノ假ヘバ堆肥場又ハ畜舎ノ一部分ノ如キ又ハ高價ナル物品ノ貯藏ニ供スルモノ即チ米倉ノ如キハ石造若クハ煉瓦造トナスヲ可トス

石造及ヒ木造トモ各得點アルモノナリ即チ左ノ如シ

石造又ハ煉瓦若シクハ塗庫造ノ利

- 一、保存期限永ク且ツ火災ノ虞少シ
  - 二、内部ノ構造ヲ變更スルニ容易ナルコト
- 木造ノ利

- 一、建設費ノ廉ナルコト
- 二、時々必要アルトキハ改築又ハ増設ノ容易ナルコト
- 三、地災ノ爲メ破壊セラル、コト少ナキコト

右ニ述フル如ク木石造トモ各長處アルモノナレハ建物新設ニ際シテハ能ク之ヲ考ヘ或ハ一部ヲ木造トシ或ハ一部ヲ石造トナスヲ可ナリトス殊ニ本邦ノ如キ火災保險ノ制未ダ普及セザルノ地ニアリテハ農業者ハ資産ノ大部分ヲ占ムルノ農産物ハ成ルヘク堅固ニ貯藏シテ萬一ノ災害ニ對シ自衛ノ途ヲ取ラサルヘカサルナリ但シ如何ナル築設ヲナストキト雖モ能ク内部ノ構造ニ注意シ成ルヘク使用

建物資本償却歩合

元六十八

ニ便ナラシムル様ニナスヘシ

建物資本償却ノ歩合ノ算出ハヒツチユマン農家必携ニ詳ナリ今左ニ之ヲ抄録ス

a ハ償却歩合

c ハ建物資本額

n ハ建物保存年限

q ハ一ニ金利率(百分率ニテ)ヲ加ヘタル數

$$a = \frac{c(q-1)}{q(q^n-1)}$$

今此公式ニヨリ百圓ノ建物資本ヲ金利率五朱ノ地ニ於テ十ヶ年賦ニテ償却スルモノトセバ何程ノ償却歩合ニ據ルベキヤ

$$x = \frac{100 \times 0.05}{1.05 \times (1.05^n - 1)} = \frac{5}{10.5 \times (1.629 - 1)} = \frac{5}{0.66045} = 7.57$$

全金利率ニテ種々ノ保存年限ニ於ケル償却歩合ヲ示ス左ノ如シ  
百年 〇、〇三六五

九十年	〇、〇五九七
八十年	〇、〇九八一
七十年	〇、一六一八
六十年	〇、二六九四
五十年	〇、四五四九
四十年	〇、七八八八
三十年	一、四三三五
二十年	二、八八〇三
十年	七、五七五七

建物價格ノ減耗ハ此償却歩合ノ集積セルモノト均シキモノト見做スヲ得ベケレバ即チ今ヒツチユマン農家必携ニヨリ償却積立金額ノ算出法ヲ示スコト左ノ如シ(符號ハ前ヲ参照セヨ但此式ニ於テハnハ積立年限ヲ示ス)

建物價格ノ減耗

元六十九

$$\text{資本償却積立金額} = \frac{xp(q^n - 1)}{p(q^n - 1)}$$

$$\frac{7.5757 \times 1.05 \times (1053 - 1)}{0.05} = 24.07$$

即チ前例(資本 100, 金利 0.05, 保存年限十年)ノ建物ノ償却歩合ハ三年ノ後ノ積立金額ハ何程ナルヤヲ算出セシニ凡ソ二十四圓七錢餘ヲ得タリ即チ

$$\text{積立額} = \frac{7.5757 \times 1.05 \times (1053 - 1)}{0.05} = 24.07$$

イ、納 舍

納舍トハ主ニ穀物類ヲ收穫シタル後之ヲ販賣スル迄貯藏用ニ供スル建物ヲ云フ故ニ季節ニヨリテハ殆ンド空虛ナルコトアリ之ガ建設費及ビ償却歩合等ハ悉ク貯藏穀物ノ負担ニ屬スルカ故ニ此資本額多キ時ハ從テ穀物ノ負担スベキ額ハ多クナルノ理ナリ故ニ納舍ハ可成小サク且ツ廉ニ築造スルヲ可トス  
英國及ビ白耳義等ノ習慣ハ多クハ納舍ヲ手廣ニセス穀禾ハ刈取後直ニ圃地ニ積ミ置キ時期ヲ見計ラヒ直ニ蒸氣脱稈ヲ行フ

畜 舍

本邦ニ於テモ亦然リ穀物ハ刈取後乾燥ノ完キヲ待チ脱稈スルモノ多シ然レモ東北地方降雪多キ所ニ於テハ或ハ簡易ナル被舍ヲ設クル方利アルナランカ宜シク得失ヲ考フベシ

ロ、畜 舍

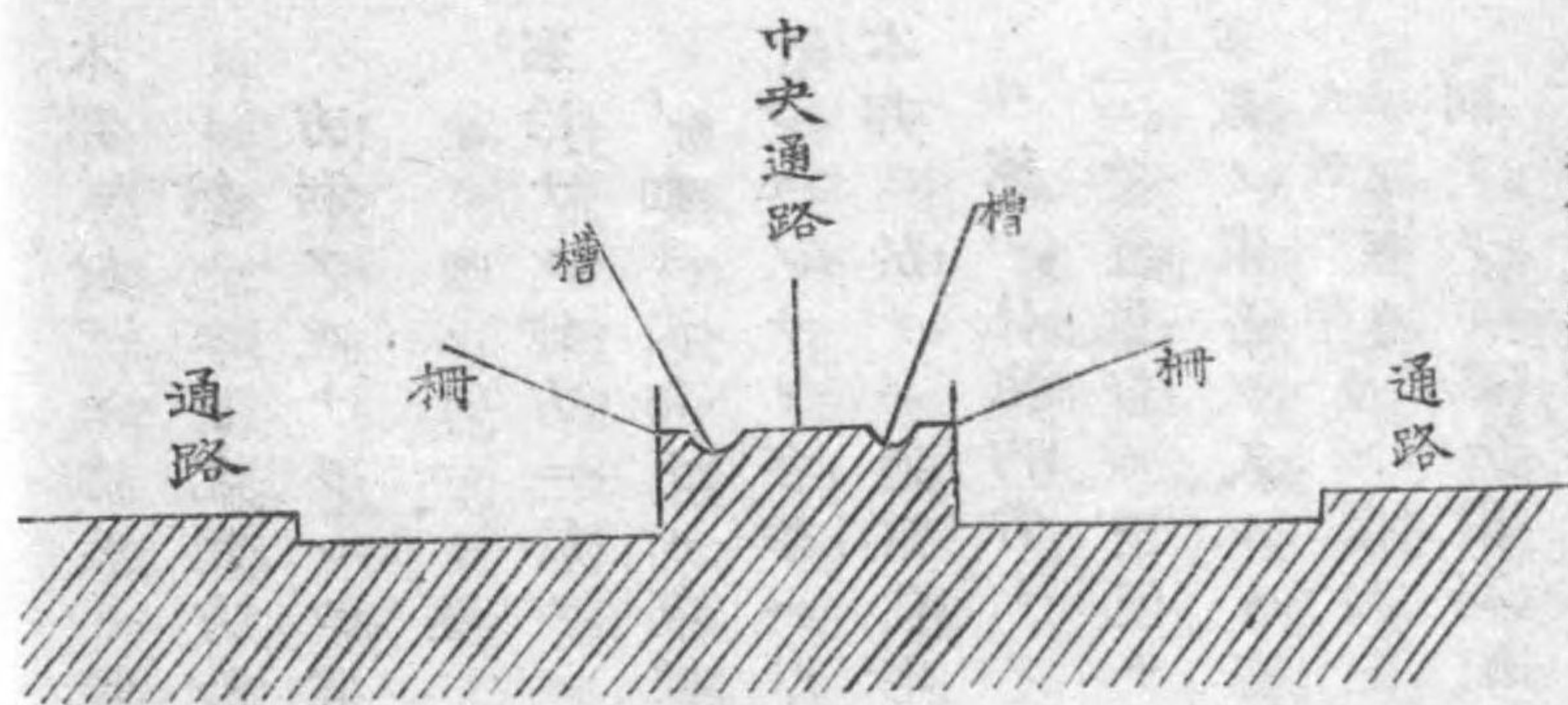
寒冷ナル地方ニ於テハ天井アル堅牢ナル建物ノ方利アリト雖モ本邦ノ如キ温和ナル氣候ノ國ニ於テハ簡易ナル被舍ノ方却テ經濟ニ合フモノナリ冬季ハ厚ク藁藎ヲ掛ケ寒氣ヲ防グベシ

本邦ニ於テハ通常住宅ノ土間ノ一方ニ畜舍ヲ設ク殊ニ三丹地方ノ飼牛家ハ住宅内若シクバ住宅ニ接近セル納舍ノ傍ニ牛舍ヲ設クル故ニ象養監督ニ至便ナリ

多數ノ家畜ヲ入ル、畜舍ハ家畜配列法ノ如何ニ依リ縦列配置舍(駒場大學ノ畜舍ノ如キ)及ヒ横列配置舍ノ別アリ之カ幅員ハ家畜ノ種類ニ依リ異同アリト雖モ縦列配置舍ニ於テハ奥行凡四間ヲ以テ足レリトス

畜舍ノ築法

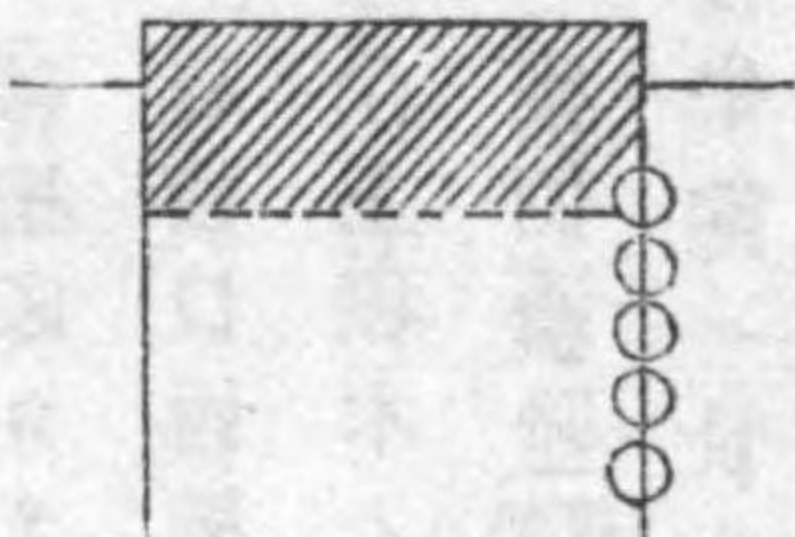
本邦ノ畜舍



畜舎内ニハ兩側及ビ中央ニ必ス運搬道路ヲ開キ置クベシ前者ハ肥料搬出ヲ便ナクシメ後者ハ飼料給與ヲ便ナラシム歐洲ニ於テハ中央ニ輕便道路ノ設ケアル如キ畜舎アリ又余ノ一見セル畜舎ニ左ノ如キ斷面ヲ有セルモノアリキ大ニ便利ナリ又ゲツケンゲン農科大學附屬ツエエンデ農場ニ於テハ中央農舎ト遠隔セル地ニ積舎ヲ設ケ其近傍ノ圃地ニ畜舎肥ヲ供給スルノ便ヲ計レルモノヲ見タリ此積舎地下ヲ二尺程掘リ下ゲ敷草ヲ與へ後チ肥ヲ取出スコトナク更ニ新敷草ヲ散布シ一冬期間肥料ヲ搬出スルコトナシ斯クナストキハ當初地表面下ニ立脚セシ積牛モ漸次

家畜ノ頭ハ如何ナルノ廣キ要スルカ

◎厩舎  
今家畜一頭ノ要スル畜舎面積ヲ左ニ掲グ



地表面ヨリ上ニ脚ツニ至ルガ故ニ其逸走ヲ防グガ爲メニ漸ク拘欄ヲ上グ即チ上圖ノ如シ  
此クノ如キ方法ハ主トシテ畜舎肥ノ運搬ニ係ル經濟ヲ圖ルニ出デタルモノナリ

農馬一頭分(秣槽ヲ除ク)  
乘馬一頭分(全)

秣槽農馬用

全 乘馬用

乾草架

牽出シ通路乘馬

家畜一頭ヲ飼養スルニ要スル面積

〔奥行〕 二、八一三、二メートル

〔間口〕 一、五一、一、八メートル

〔奥行〕 三、三一三、五メートル

〔間口〕 一、七一、一、八九メートル

〔中〕 〇、六四

〔高〕 一、一、一、二メートル

〔中〕 〇、六四

〔高〕 一、二、六、一、三五メートル

秩槽端上ヨリ上〇、四七メートル

二、五三メートル



家畜一頭ヲ飼養スルニ要スル面積

元七十四

全 農馬

一、八九メートル

出入口

〔巾〕一、五八  
〔高〕二、五二、八四メートル

駒舎ハ一頭ニ付

四、四、五平方メートル

◎牝牛舎

牝牛(秣槽ヲ除ク)

〔奥行〕二、二二、二五  
〔間口〕一、一一、二五メートル

牘 全

〔奥行〕二  
〔間口〕一、一、五メートル

縦列舎通路、高ク築ケルトキ

幅一、二メートル

同 床ト平ナル時

全一、五八メートル

秣槽床ヨリ上端迄ノ高サ

〇、七〇—〇、七六メートル

秣槽口両柵木ノ中央ヨリ中央迄

〇、四五メートル

全上柵木ノ太サ

〇、〇五メートル

後側通路(肥料搬出及搾乳ニ供ス)

一、二—一、二六メートル

◎役牛舎

家畜一頭ヲ飼養スルニ要スル面積

元七十四

全 農馬

一、八九メートル

出入口

〔巾〕一、五八  
〔高〕二、五二、八四メートル

駒舎ハ一頭ニ付

四、四、五平方メートル

◎牝牛舎

牝牛(秣槽ヲ除ク)

〔奥行〕二、二二、二五  
〔間口〕一、一一、二五メートル

牘 全

〔奥行〕二  
〔間口〕一、一、五メートル

縦列舎通路、高ク築ケルトキ

幅一、二メートル

同 床ト平ナル時

全一、五八メートル

秣槽床ヨリ上端迄ノ高サ

〇、七〇—〇、七六メートル

秣槽口両柵木ノ中央ヨリ中央迄

〇、四五メートル

全上柵木ノ太サ

〇、〇五メートル

後側通路(肥料搬出及搾乳ニ供ス)

一、二—一、二六メートル

◎役牛舎

一頭ニ付

〔奥行〕二、三七—二、九  
〔間口〕一、四二—一、五八メートル

通路

幅一、五八メートル

◎羊 舎

平均一頭ニ付

〇、六一—〇、七平方メートル

病羊舎ハ全數ノ

百分ノ五—百分ノ七

◎豕 舎

牝豕仔 豕トモ

三、五—四、〇平方メートル

肥豚豕一頭飼

一、六一—二、〇平方メートル

同上二頭乃至四頭飼一頭ニ付

一、二—一、六 全

牡豕

三、五—四、〇 全

一歳豕三四頭飼一頭ニ付

一平方メートル

離隔壁

高サ一、二五—一、六メートル

◎家禽舎

家畜一頭ヲ飼養スルニ要スル面積

元七十五

道路

元七十六

吐綬鶏

〇、三平方メートル

家雁(鶩)ノ一種本邦ニナシ

〇、二五 全

家鴨

〇、二五 全

鶏

〇、一二 全

家禽舎高サ

一、九—二、二メートル

穀草類ハ大約畜舎ノ天井裏ニ置ケドモ亦時トシテハ特ニ納舎ヲ設クルコトアリ其要スル處ノ面積左ノ如シ

(單位立方メートル)

	納 舎	天 井 裏
牧草 乾葉百キロ	一、〇〇	一、五〇
粗乾草結束セルモノ百キロ	〇、九〇	一、三〇
全 結束セザルモノ百キロ	一、一〇	一、六五

道路

ハ 道 路

農用道路ノ整理ハ其必要也

用水ト悪水

人畜ノ一日ニ要スル飲水量

農地ヲ公道ニ聯絡スルノ道路即チ作場路ハ成ルベク運搬ニ便ナル様ニ開設スルヲ可トス然レモ元來固定資本ノ一部ナルガ故ニ單ニ間接ニ生産ヲ幫助スルニ過キササルモノタルヲ忘却スヘカラス、本邦ノ如ク一農場ノ數團ノ地ヨリ成リ且ツ圃地筆數ノ非常ニ多キ國ニ於テハ農用通路ノ如キモ經濟的ニ開設セラレ居ルモノナリ、本邦農家經濟改良ニ付テノ緊急ナル方策決シテ一ニシテ足ラスト雖モ農路ノ整理ノ如キハ又忽諸ニ付スベカラサル事業ノ一ナリトス

二 用水及悪水

農場ハ飲用水及雜用水ヲ要シ且殊ニ本邦ニ於テハ灌漑用水ヲ要スルコト極メテ多シ

飲用水及ビ雜用水ニ就テハ本邦ニハ完全ノ調査ナシト雖モ今歐州ニ於ケルモノニ就キビキシオノ調査セシモノヲ載スレバ左ノ如シ

大人 一日 一人ニ付

十リートル

道路、用水ト悪水

元七十七

田用水、飲用水、雑用水

元七十八

馬	同	一頭ニ付	五十リートル
牛	同	同	三十リートル
羊	同	同	二リートル
象	同	同	二リートル

田用水

本邦ニ於ケル田用水ニ就テハフエスカ氏ノ肥後國ニ於テ調査セル處

次ノ如シ(地産論)

肥後ニ於ケル水田一町歩ハ一ヶ月間五千立方メートルノ水ヲ要

ス即チ一町歩「セコンド」ニ付凡ソ二リートルノ水量ニ當ル此調査ハ

稲草生育中ニ行ヒタルモノニアラス且ツ觀測ノ方法モ極メテ粗雑ナルカ如シ故ニ余ハ未タ之ニ信ヲ置ク能ハス

今參考トシテ上伊太利ニ於ケル灌溉用水量ヲ掲ゲン

一「セコンド」ニ付リートル

極メテ重キ土

二、〇八一

重キ土

二、三九八

(重) カラサル(ス)

三、四八六

輕キ土

四、七七三

平均

二、六三七

農場ノ飲用水及ビ雑用水ハ可成清淨ナル河水ヲ引クヲ最モ便ナリトス、若シ止ムヲ得ザレバ井ヲ鑿ツモ可ナリ灌溉用水ハ成ルベク植物養素ニ富ムモノヲ撰用スベシ大ニ肥料ノ經濟ニ必要ナリ、悪水ハ植物營養ニ有害ナルモノハ勉メテ之ガ排除ヲ計ラサルベカラズト雖モ其植物養素ニ富ムモノ、如キハ必ズ先ヅ之ヲ田地若シクハ草生地ニ灌溉シ其含有スル處ノ夾雜物ヲ利用センコトヲ計ルベシ、北獨逸ノ一農場ニテ馬鈴薯澱粉ノ製造業ヲ兼テ營ミタルモノヲ見シニ製造所ヨリ流出スル汚水ハ唧筒ヲ以テ悉ク牧草地ニ灌溉シ其溶解夾雜セル含窒素質物ヲ植物培養ニ利用シ居レリ斯ク幾多ノ資本ヲ費スモ尙ホ得失相償フテ余リアリト云ヘリ

雑用水

元七十九

溜池ハ本邦農業ニ對シテハ極メテ重要ナル地位ヲ占ムルコトアリ殊ニ田用水ヲ天水ニ仰グノ地ニ於テハ必ズ溜池ノ設ケナキコトナシ溜池ハ主トシテ少許ノ湧水ト雨水ヲ貯蓄シ灌溉用水ニ供スル用ヲナス歐洲ニ於テハ農地内ニ溜池ヲ設ケ牧艸地ノ灌溉ヲ圖ルト共ニ養魚ヲ營ミ農場收益ノ増加ヲ圖ルコトアレモ本邦ニ於テハ溜池ニ養魚ヲ行フノ例少ナシ

溜池ヲ設クル場合ニハ旱魃ト雖モ水ノ欠乏ニ困難セザル様心懸ケ成ルヘク各所ノ水源ヲ蒐集スルコトヲ務ムベシ又地ノ周圍及ビ近傍ニ樹林ヲ仕立ツルハ水量ヲ保護スルノ一手段ナリ

溜池ノ水ハ田地ニ灌溉スル時ハ必ズ水表ヨリ漸次抜キ取ル様ニナスベシ否ラザレバ池底ノ水ハ殊ニ深キ溜池ニ於テハ冷キニ過キ稻草ノ生育ニ害アルモノナリ又水量ノ充分ナル溜池ニ於テハ或ハ淡水

魚ヲ放流シテ之ガ利益ヲ收メ或ハ水草ヲ蕃殖シテ肥料ノ供給ヲ計ルモノ可ナリ

二 無生財產

農業經營ニ必要ナル無生財產ハ概テ農具及ヒ牽具ナルカ故ニ或ハ本項ニ農具及ヒ牽具ナル名稱ヲ下スコトアリ然レモ精細ニ觀察ヲ下ストキハ農業經營ニ必要ナル雜用器具類モ亦本項ニ屬スヘキモノナルカ故ニ寧<sup>ロ</sup>無生財產ト稱スル方其當ヲ得

農具トハ土地ヲ耕耘シ作物ヲ收穫シ且ツ之ヲ調製スルノ用ニ供スル器具ヲ云フヲ常トスレモ之カ汎義ノ解ニ依レバ牽具運搬車及ヒ畜舍用器具モ亦農具ト總稱スルコトアリ

牽具トハ牛馬ヲ使役スルニ際シ其筋力ヲ農具ニ移轉スルノ用ニ供スル一切ノ裝置ヲ云フ

運搬車ハ本邦ニ於テハ其用普通ナラサルガ故ニ特ニ農用製式ノモノ

乏シト雖モ彼ノ猫車ト稱スル一種ノ一輪車ノ如キハ農業專用ト稱スルヲ得ベシ、歐洲ニ於テ農用ニ供スル運搬車ニハ二輪車及ヒ四輪車ノ別アリ、農科大學使用ノ二輪車ハ其製式英農用ノモノニ則ル、四輪車ニハ四輪箱車、棒立車、及ヒ梯子車ノ類アリ共ニ歐州慣用ノモノナリ、内梯子車ナル製式ハ普通獨乙農業者ノ使用スル處ナリ、其製式最モ簡易ニシテ且ツ廉ナリ本邦ニ於テハ未タ此製ニ係ルモノヲ見ス

牽具ハ役畜ノ種類ニ依リ自ラ異レリ、馬ノ牽具ハ歐州各地トモ略ホ相同シケレ、牛ノ牽具ニ至リテハ二類アリ、其一ハ頸筋ニ懸クルモノニシテ其一ハ頭額ニ懸クルモノナリ、其ニ得失アリ、普通獨逸ニ行ハル、モノハ頭額ニ懸クルモノナリ、其製簡易ナルカ故ニ價亦廉ナリ、此牽具及ヒ前ノ梯子運搬車ハ共ニ其價廉ナルカ故ニ大ニ經濟ノ趣旨ニ合フモノトス、然レモ本邦ニ未タ之ヲ見ス

以上述ヘシ處ノ勞力ノ節減ニ係ル斯農具類ノ數及ヒ其價值ハ農場ノ面積、土質ノ輕重及ヒ、道路ノ難易并ニ、役畜及ヒ用畜ノ數ニ依リ異同アルモノナリト雖モ亦農法ノ粗放ナルカ集約ナルカ并ニ僕婢、日雇及ヒ受負勞働者ノ多寡ハ又之ニ關係ヲ有ス

總シテ器具機械ナルモノハ建物ト均シク間接ニ生産ヲ幫助スルモノニシテ之カ新調及ヒ修繕ノ如キハ亦年々幾多ノ資金ノ流通資本ヨリ收取スルモノナレハ勉メテ之カ數ヲ節減シ且ツ必要ナルモノ、外之ヲ購求スヘカラス、然レモ農業經營ニ對シ備付ケサルヲ得サル限リハ成ルヘク其構造簡易ニシテ修繕ニ容易ナルモノヲ撰ミ且ツ効力ノ最モ多キモノヲ購求スヘシ、假令當初購入ニ方リ其代價廉ナリト雖モ其効力多カラサルモノハ時間ニ於テ損失ヲ招キ反テ不經濟ナルコトアリ宜シク考フベシ

本邦ノ農具ハ歐洲ノモノト比スルトキハ概シテ木製ノ部分多シ以テ

農具 資本ノ割合

元八十四

農具ノ未タ發達セサルノ徴トナスヘシ要スルニ農具ノ發達ハ木製部ノ多キモノヨリ漸ク鐵製部ノ多キモノニ遷リ更ニ進ンテ其要部ヲ鋼製トナスニ至ルモノトス蓋シ本邦ノ農具ノ未タ發達セサルハ一ニ知識ノ不足ニ依ルモノナランモ一戸宛テ耕地ノ面積ノ少ナルト資本ノ饒豐ナラサルトハ之カ要因ト做スヲ得ベシ

農具ハ概シテ減耗劇シク且ツ種類極メテ複雑ナルモノナレハ毎年々末ニ於ケル之カ評價ハ容易ノ業ニアラス故ニ之カ償却歩合ノ如キハ四五年間ノ經驗ニ依リ僅ニ其概數ヲ定ムルヲ得ルノミ

本邦農業ノ經營ニ係ル農具資本ノ調査ハ未タ精密ナルモノヲ欠クカ故ニ之ヲ示ス能ハサレモ今左ニ歐洲ノモノヲ示ス即チ農具資本全額ヲ百トナストキハ其各種ノ資本額ハ

- 耕具及車類 六三、〇
- 納舍用具類 一一、三

農具資本ノ割合

他雜具ノ割合

畜舍用具類

一一、二

雜用具類

一三、五

計

一〇〇、〇

管理所、農夫詰所、庖厨、窖等ノ備品ハ前表ノ外トス此諸具ハ凡ソ農具資本額ノ一割五分ト見做スヲ得ベシ

又耕地一ヘクタールニ付農具資本全額ハ左ノ如シ

- 一、ブロスカウ農場(附屬農藝工場トモ) 二九、三七
- 二、グリグノン(附屬澱粉製造所トモ) 六四、〇〇
- 三、ザクセン州ノ一農場(附屬工場ナシ) 七八、三四
- 四、フォーゲルベルヒノ一農場 二三、〇〇
- 五、ホルスタインノ一農場(附屬工場ナシ) 九〇、〇〇
- 内譯農具 七〇、〇〇
- 家具 二〇、〇〇

右ノ表ハ各農場ニ非常ノ相異ヲ示スモノナレモ之ヲ概言スレハ先ツ農具資本

元八十五







云ヒ役畜トハ主トシテ勞役ニ供スルモノヲ云フ

所謂畜産物ト稱スルモノハ汎ク之ヲ觀察スルトハ畜力、仔畜、肉、脂、乳、毛

(家禽ニ在テハ卵、肉、羽毛)トス而シテ革、血及ヒ骨ハ寧ロ副産物タル性

質ヲ有ス其糞尿モ亦一ノ副産物ト稱スルヲ得ルニ似タリ飼畜ノ耕

種ト密接ノ關係ヲ有スルノ點ハ一ニシテ足ラズト雖モ其糞尿ノ農

作物肥料トシテ極メテ貴重スベキモノタルノ點ハ蓋シ其著明ナル

モノトス尙ホ此關係ヲ列叙スレハ左ノ如シ

一、地力ヲ利用セント欲セバ穀作及特用作物ノ外更ニ飼料作物ヲ栽

培セサルヘカラス而シテ是等飼料作物ニシテ販賣シ得ヘカラサル

トキハ家畜ヲ飼育シ之カ利用ヲ圖ラサル可カラス

二、地力ヲ増進シ併セテ土質ノ改良ヲ圖ルニハ畜舎肥ニ優ルモノナ

シ

三、畜産物ニシテ若シ相當ノ價格ナシトスルモ尙ホ産出畜舎肥ハ其

損失ヲ償フテ餘アルコトアリ

四、土地ヲ肥沃ナラシムルニハ濃厚飼料ヲ購入シ家畜ヲシテ先ツ之

ヲ利用セシメ其殘餘分ノ排泄物中ニ顯ハル、モノヲ更ニ肥培ニ利

用シ二重ニ之カ利ヲ収ムルヲ得ルノ益アリ

五、畜力ヲ利用シ人力ノ及ハサル處ヲ廉價ニ補フヲ得ルノ利アリ

飼畜ノ耕種ニ於ケル關係ハ夫レ斯クノ如ク多岐ニ互ルモノニシテ此

等ノ諸點ノ互ニ相應スルアラハ飼畜ニ耕種ニ互ニ相利スル處尠カ

ラサルベシ然ルニ本邦ニ於テハ多クハ前陳第二點ノ關係即チ肥取

リノ目的ヲ以テ飼畜ヲ行フモノ多シ其収益ノ少キ敢テ疑フニ足ラ

サルナリ

想フニ飼畜ノ利ハ前陳諸點ノ關聯シテ相援クルノ際ニ生セル少許ノ

利益ノ相集積シテ始メテ著シキニ至ルモノニシテ内最多ノ利ヲ生

スルハ各種ノ畜産的生産物ニアリト雖モ肥料産出ノ如キモ亦輕視

飼育ノ  
収入ハ  
何ニ依  
ルテ差  
カ

家畜ノ  
頭數

スヘカラサルナリ若シ此觀察ヲシテ正鵠ヲ失フナシトセハ本邦農業者及畜産家ハ宜ク考一考シ其事業經營ノ改善ヲ計リ甲者ハ進ンテ家畜ノ飼育ヲ勉メ乙者ハ畜テ所要ノ飼料ヲ栽培スルコトヲ勉ムヘシ家畜飼育ヨリ生スル收入ハ交通ノ便否及畜産物ノ需要及其販路ノ如何ニヨリ大ニ異同アルモノナリト雖凡尙ホ左ノ諸項ハ之ニ影響ヲ及ボスコト少シトセス

一、飼育頭數

二、家畜ノ種類

三、飼養ノ目的

其他全種類ノ家畜ニ在テモ其種族及血統ノ如何飼育ノ良否馴養ノ當否ハ亦家畜其物ノ價格ヲ上下シ從テ收益ヲ増減ス

家畜ノ頭數

一農場ニ於テ飼育スヘキ家畜ノ頭數ハ良ク農場所産ノ飼料ト之ガ滋

養價值ヲ高ムルカ爲メ當然購入セサル可カラザル處ノ濃厚飼料トノ合計額ニ對シ適當ナラサル可カラス若シ農場所産ノ飼料ニシテ家畜飼育ニ不足ヲ生シ爲メニ之ガ供給ヲ他ニ仰カサルヲ得サルカ如キコアラハ大ニ不經濟ヲ免カレサルベシ蓋シ本邦牧畜家ノ失敗ハ概テ其飼料ヲ他ニ仰クニ因リ自ラ多額ノ流通資本ヲ要スルニアリ宜ク戒ムベシ

農業經營學ニ於テ家畜一頭トイフハ三百基乃至五百基ノ牛一頭ヲ云

フ而ノ他種ノ家畜ニ對スル割合ハ左ノ如シ

牛	馬	羊	山羊	家
1	3	10-12	12	4-5

或ハ近時ハ何頭ト稱セズノ單ニ生体量百封度又ハ何百基ト稱ス例令ハ耕地一町歩ハ家畜一頭ヲ飼フニ足ルトイヒ又ハ耕地一町歩ハ家畜生体量三百五十基ヲ飼フニ足ルトイフ此場合ニハ三百五十基ノ牛ナラハ一頭、三十五基ノ羊ナラハ十頭ト云フノ意ナリ

獨逸ニ於テハ家畜一頭飼育ニ要スル農地面積ハ凡ソ左ノ如シ

- 一、多量ノ濃厚飼料ヲ買入ル、カ若クハ農藝工業場ヨリ殘滓ヲ得能フ場合ニハ一町歩弱
- 二、極メテ善良ナル土地カ若クハ飼料作物ノ耕種盛ナル地ハ一町乃至一町四分ノ一
- 三、中等ナル土地ニシテ且飼料ノ産出饒多ナル時一町四分ノ一乃至一町四分ノ三
- 四、下等ナル土地ニシテ飼料作物ノ耕種ニ適セサルトキ一町四分ノ三乃至二町二分ノ一

ギョツチンゲン大學ノトレクスレル教授ハ全校附近ノ地ニ於テ調査セラルニ左ノ成績ヲ得タリ

一町歩ニ對スル家畜キログラム	馬及役畜	役用牝牛	用畜	合計
千八百七十五年	千八百八十五年	千八百七十四年	千八百八十四年	千八百七十五年
千八百七十四年	千八百八十四年	千八百七十五年	千八百八十五年	千八百七十四年
千八百七十五年	千八百八十五年	千八百七十四年	千八百八十四年	千八百七十五年
千八百七十四年	千八百八十四年	千八百七十五年	千八百八十五年	千八百七十四年

三農場ニ於テ	市街近傍六ヶ村ニ於テ	平地ノ七ヶ村ニ於テ	山地ノ九ヶ村ニ於テ
四〇六九	一五二〇	七九〇	七八四
五七七一	二四一九	五八七	一六八
一三〇	五七	二九〇	二四
	八七	〇二	四六
二九二	一六三	二四九	二二五
二五	一七三	二七五	二二
三二八	二六三	二五五	二三四
三六七	三三〇	二八七	二五五
	二二五	一三三	一六四
	五七	八〇	一一三

備考此表ノ用畜ハ牛、羊、豕、山羊ヲ包含ス

要スルニ一千分ノ生体量ノ家畜ヲ飼養スルニハ乾物量二十四乃至二十五分敷料乾物二十六、四乃至二十七、五分ヲ要スルモノト見積リ此用量ニテ一農場ニ於テ飼育シ得ヘキ總生体量ヲ算出セハ概數ヲ得ルニ庶幾カルヘシ

尙精細ナル算出法ハ評價學ニ於テ之ヲ例示スヘシ

家畜ノ種類

如何ナル種類ノ家畜ヲ飼ヒ又其何種族ニ屬スルモノヲ養フテ可ナルヤハ極メテ重要ナル問題ニ屬ス而シテ其目的トスル處ハ如何ニセ

ギョツチンゲン大學附近家畜飼養ト土地面積ノ例、家畜ノ種類

家畜飼養ノ目的

元九十六

ハ最モ有利ニ農場所産ノ飼料ヲ利用シ併セテ最モ廉價ニ最有効ナル畜舎肥ヲ最多量ニ得ヘキノ方案ヲ考究スルニアリ  
如何ナル種類ヲ以テ農場ノ家畜ヲ組立ツヘキヤハ主トシテ左ノ數項ヲ參照シ之ヲ定メサル可ラス

- 一、氣候、土質、農場ノ大サ、及ヒ農業組織
- 二、前項ニヨリ定ムヘキ種藝作物ノ面積及ヒ畜舎肥ノ需要額
- 三、資本ノ多寡及其放下ノ狀態
- 四、農業者ノ知識、其好惡
- 五、交通販路
- 六、附近地方ニ於ケル農藝工業ノ狀況

尙ホ其他畜舎ノ有無、用水ノ便否、小作契約ノ條件等モ亦影響スル處アリ

ハ 飼養ノ目的

家畜飼養ノ目的ハ家畜ノ種類、其種族及其特性ニ依リテ定マルモノニシテ其年齡及交通販路ノ如キモ亦之ニ影響ヲ及ボスモノナリ即牛馬羊家ニ付キ各種飼畜ノ目的ヲ概示セン

ハノ一 牛

牛飼養ノ目的ハ勞力利用ヲ除クトキハ左ノ四者ヲ出テサルヘシ

- 一、孕牛ヲ買入レ牛乳ヲ搾取販賣シ後肥臘シテ屠牛場ニ賣却スルコト
- 二、自己ノ牛群ヲ補充スル丈ケニ蕃殖ヲ計リ專ラ牛乳ヲ販賣シ併セテ仔畜ヲ販賣スルコト
- 三、幼牛ヲ買入レ育テ上ケテ賣却ス
- 四、成牛ヲ買入レ肥臘ヲ計ルコト

以上四目的ハ各種種ノ點ヲ有スルカ故ニ風土、草生及ヒ交通販路ノ便否ニヨリ適否アリ即チ

第一法ハ資本ノ連轉急速ナルカ故ニ極メテ有利ナルカ如シト雖モ左

ノ場合ニ非レハ損失アルヲ免レス即チ

イ、適當ナル價格ヲ以テ牛乳ヲ販賣シ得ルトキ

ロ、何時ニテモ賣却價格ト大差ナキ價ヲ以テ牝牛ヲ買入ル、ヲ得

ルトキ

ハ、牛ノ出入ノ爲メ牛疫潛入ノ虞ナキトキ

第二法ハ生乳ヲ販賣シ能ハサルモ乳製品ノ販路アル處ニ於テ行フヲ

得ヘシ而シテ此法ハ乳用ト役用トヲ兼ヌル性質ノ牛種ニ對スル需要

多キニ從ヒ仔畜ノ蕃殖ヲ計リ之ヲ販賣シテ益アリ

第三法ハ草生良キ牧草地ノ多キ農場ニ於テ行フテ利アリ但シ農業者

ハ良ク家畜ノ賣買ニ通シ且ツ容易ニ仔畜ヲ買入レ又成牛ニ對シ販

路アル場合ニ限ル

第四法ハ滋養ニ富ム飼料ヲ多量ニ需メ且ツ農藝工業ノ殘滓ヲ得易ク

シテ屠牛市場ニ接近セル地ニ行フテ利アリ

本邦飼牛家但チ搾乳ノ行フ處ハ地方ニ依リ異ナリト雖モ所謂牧畜家

ト稱スルモノハ多數ノ牛ヲ放牧シ之カ仔畜ヲ育成販賣シ利ヲ收メ

ント欲スルニアリ單ニ育成牛ニヨリ相當ノ利益ヲ收メント欲スル

ハ極メテ至難ノ業タルナリ草生豊カナラサルノ地方ニ於テ其利潤

ナキハ敢テ疑フニ足ラス又普通ノ農家ニシテ一二頭ノ牛ヲ飼フ處

アリ此種ノ業ハ主ニ中國以南ニ多シ此場合ニ於テハ農家ハ牛ノ勞

カト肥料トヲ利用シ尙ホ仔畜ヲ販賣シ其利ヲ收ム斯ノ如クシテ漸

ク幾多ノ利潤アルカ如シ然レモ經濟的計算調査ヲ欠クカ故ニ余ハ

利益ノ有無ヲ確言スル能ハス

要スルニ農家ノ畜舎肥及勞力ヲ利用セスシテ單ニ牛ヲ育成シ之ニ依

テ収メント欲スルノ不得策タルハ決シテ本邦ニ於テノミ然ルニ非

ラス今獨逸ニ於ケル一例ヲ示シテ之ヲ證スベシ

支出

牛畜

牛畜

一歳牛買入

一六〇、〇〇マルク

初年目(自二歳至二歳)飼料一日凡ソ三十三片ヅ、

一二〇、四五

二年目(自二歳至三歳)飼料一日凡ソ四十四片ヅ、

一六〇、六〇

半ケ年間放牧肥膾

八〇、〇〇

合計三歳半迄ノ育成費

五二〇、〇〇

外ニ冒險歩合(斃死等ノ割合ヲ見積リシモノ)

二二、〇〇

五四二、——

尙此地養畜費(畜舎費及飼料費)及其他諸雜費ヲ要スレバ此費用ハ生産セラレタ

ル所ノ畜舎肥ノ價格ト相殺シ了ルカ故ニ支出中ニ計算セス

収入、斯ク育成セル牛ハ凡ソ七百基ノ重量ニ達スルカ故ニ凡ソ

賣價 四九二、〇〇

差引損失 五〇、〇〇

牛價格ノ減耗ハ牛ノ年齢及飼養ノ目的ニ依テ大ニ異ナルモノニシテ

牛價ノ減耗ノ

役牛ハ減耗尤モ著ルシキモノナリ然レモ此時ニ年齢ノ多少及ヒ飼育

法ノ良否ニ依リテハ反テ價格ヲ増スコトアリ

ヂェンケルベルヒハ償却歩合ヲ左ノ如ク示セリ

役牛 價格減耗六一、〇〇% 斃死損失歩合一、三一一、四%

合計 七、三一一、四%

乳牛 全 六一、七% 全 一、二%

合計 七、二一八、二%

ハノ二 馬

農業上馬ヲ飼養スルニハ勞力利用ヲ除クトキハ左ノ目的ニ據ル

一、農業勞働用牝馬ヲ用ヒテ蕃殖ヲ計ルコト(勞働蕃殖兼用)

二、幼馬ヲ買入レ之ヲ育成スルコト

三、種馬ヲ備ヘ特用馬ノ蕃殖ヲ計ルコト

第一法ハ普通本邦ニ於テ行ハル、法ニシテ以上三法中最モ有利ナル

馬匹

元百一

馬匹

其飼養目的

各法ノ得失ノ

モノトス要スルニ育馬ハ此法ニ非サレハ利益ヲ見ルコト難シ牝馬ハ餘リ劇シク使役ス可カラス假令勞力ノ點ニ於テハ幾多ノ損失ヲ生スルコトアルモ仔馬ヲ得ルカ故ニ得失相償フテ尙ホ餘リアリ

第二法ハ育馬ニ智識アル農業者ニアラサレハ寧ロ之ヲ行ハサルヲ可トス馬相ハ幼ナルトキト生長セルトキトハ著シク變スルモノナリ故ニ仔馬ノ時ハ駿足ノ如キ觀アル馬ナルモ長スルニ及ヒテハ存外馬相ノ類ル、コト多シ此種ノ業ハ大ニ冒險的性質ヲ帶フルモノナルカ故ニ時ニハ大利ヲ得ルコトアリ本邦ノ農業者ニシテ所謂伯樂ヲ兼業スルモノニハ此法ヲ行フモノ多シ

第三法ハ多ク本邦牧馬家間ニ行ハル艸生良キ牧場ヲ有シ且必要ナル資本ヲ備へ又良馬ニ對シ相當ノ價格ヲ以テノ需要アルノ地ニ非ラサレハ寧ロ利潤ナシ此法ニ依リ馬ヲ仕立ルニハ普通ノ駄馬ヲ目的トスルトキハ概ネ利益ナシ故ニ主ニ車用又ハ乗用ヲ目的トセサル

羊飼養ノ目的ハ主トシテ左ノ三者ニアリ

一、羊毛剪取

二、肉用

三、種羊ノ蕃殖

ベカラス然ルニ此ノ如キ馬ハ需要ノ至テ狹キモノナリ殊ニ本邦ニ於テ然リトス之レ本邦牧馬家ノ多クハ利潤ヲ得サル原因ナリ

以上三法ノ外尙ホ種牡馬ヲ飼育シ交尾料ヲ收入シテ利潤ヲ計ルノ法アリ然レモ本邦ニ於テハ利益ナシ

馬價格ノ減耗ハ牛ニ比スレハ稍高キモノナリ斃死歩合ヲ合セ即チ馬資本償却歩合トシテ原價ノ凡ソ一割ヲ見積ラサルベカラヌ

本邦ニ於テハ現時ハ單ニ第一ノ目的ヲ以テ飼養スルノ外ナシ第二ノ肉用飼養ハ本邦ニ於テハ有利ノ事業ニ非ラス、第三ノ如キモ尙ホ未

本邦ニ於ケル飼羊ノ前途

タ羊ノ本邦ニ普及セサルノ今日ニ於テハ有利ノ業ニアラサルヘシ  
 要スルニ羊ハ乾燥ナル風土ヲ好ムモノナルカ故ニ本邦ニ於テハ之カ  
 飼養容易ナラスト雖モ彼ノ農家ノ家禽ヲ飼育スルカ如ク一戸三四  
 頭宛之ヲ飼育セシメ種牡羊組合ヲ設ケテ種羊ヲ備ヘ付ケ亦生産羊  
 毛ノ共同販賣ヲ掌ラシメハ或ハ之カ飼育ヲ普及セシムルヲ得ヘシ  
 然レモ彼ノ歐米殊ニ濠洲ニ於ケルカ如キ牧羊場ヲ本邦ニ現出セシ  
 メント欲スル、現今ノ如キ濠洲ノ廉價生産ノ競争アル場合ニ於テ蓋  
 シ無謀ノ策タルヲ免レサルヘシ

本邦ニ最モ良ク生育スルト稱セラル、ハ「メリノ」及ヒ「サウスダウシ」ノ  
 二種トス而シテ孰レモ輸入ノ當時ニ比スレハ毛質ハ粗悪ニ流レ現  
 時ニ於テハ一種稍本邦風土ニ適セル種類ニ變化セルニ至レリ此本  
 邦産「メリノ」及ヒ「サウスダウシ」ノ如キハ歐洲ノ原産ノモノニ比スレ  
 ハ劣ルコト數等ナリ「メリノ」種中最モ優等ナリトシテ稱揚セラル、

「西班牙メリノ」及ヒ「ラムブイエット」ノ如キハ恐ラクハ本邦ニ於テハ其  
 生存難カルヘシ本邦羊斃死ノ歩合ハ廿二三年頃ノ例ヲ調査セルニ  
 全群ノ一割以上二割ニ至ルヲ常トシ其甚シキニ至テハ二割五分以  
 上ニ達セルコトアリ斯ノ如キ状態ニ於テ飼羊ニ利ヲ見ント欲スル  
 ハ豈ニ難キノ至ニアラスヤ

歐洲羊資本ハ別ニ減價歩合ヲ置カス蓋シ羊群ハ生殖頭數ニ應シ老羊  
 ヲ賣却スルカ故ニ全群ノ價格ハ敢テ著シク減耗セサルカ故ナリ然  
 レモ斃死歩合トシテハ五―七%ヲ見積ラサルヘカラス歐洲中殊ニ  
 牧羊ニ適スルノ獨逸地方ニ於テモ尙ホ此斃死歩合アリ本邦ニ於テ  
 其倍數以上ニ達スルヤ宜ナリ

要スルニ獨逸ノ如キ飼羊ニ適スルノ地ト雖モ尙ホ濠洲ノ競争ニ勝ツ  
 能ハスシテ飼羊ノ利ハ皆無トナルニ至レリト雖モ尙其之ヲ飼育ス  
 ルモノアルハ一ニ廢物利用ノ目的ニ外ナラス即チ飼羊ノ利トシテ

歐洲ノ飼羊



掲クル處左ノ如シ

- 一、牛馬喰餘ノ草ヲ利用シ且ツ次回ノ草發生ヲ平等ナラシム
- 二、稿稈ヲ利用スルニハ羊ニ優ルノ家畜ナシ
- 三、草生惡シキ瘠地ニ於テモ良ク生育ス
- 四、路傍及畦畔ノ雜草ニ牧スルヲ得
- 五、一年間必要ニ應シ何時ニテモ徐々群羊ヲ販賣シテ現金ヲ收入スルヲ得又羊毛ハ其容積ヲ小ニシ遠隔セル市場ニ販賣スルコトヲ得所謂投ケ賣ヲ爲スヲ免カルルヲ得ルコト

ハノ四 豚

豚ハ農家ニハ極メテ必要ナル家畜ニシテ殊ニ農藝工業殘滓利用ノ益アリ製乳業ヲ營ムニ際シテ滓乳ヲ利用スルニハ之ニ優ル動物ナシ、本邦ニテモ爪哇薯、甘藷等ヲ多ク栽ウル地ニ於テ他方ニ輸致スルモ得失相償ハサル屑薯ヲ利用スルニハ此家畜ヲ最上トス

此ク牛馬羊ニ比スレハ大ニ貴重スヘキ點アレバ豚ハ他ノ三畜類ニ比スレバ畜舎肥ヲ産セサルノ不利アリ故ニ農場所産ノ糞ヲ利用センニハ寧ロ羊ヲ飼フヲ利トス

豚ヲ飼育スル目的ハ單ニ肉用ニアリ且ツ場合ニ因テハ種豚ヲ蕃殖シテ之ヲ販賣スル方大ニ利アルヲアレバ販路廣カラサルカ故ニ永續スハキ事業ニ非ス

- 豚ヲ有利ニ飼育センニハ左ノ二項ヲ守ラサルベカラス
- 一、成ル可ク殘滓及屑薯屑穀ヲ以テ飼育スルコト
  - 二、成ル可ク早熟ノ性質アルモノヲ飼育スルコト
- 若シ此二ヶ條ニ反シ飼料ヲ買入レ若クハ之ト相均シキ市價高キ飼料ヲ供シ又ハ成熟遲キ種類ヲ飼ハ、必ス損失ヲ招カン、本邦ニテモ一時盛ニ豚ヲ飼養シタルヲアリシカ此二件ニ注意セサリシ故ニ失敗セル者多カリキ

山羊

豚資本ノ償却歩合ハ斃死歩合ヲ合セテ三乃至四%ヲ超ユルコトナシ  
 ハノ五 山羊  
 稀ニ飼フアレモ農家ノ營利的ニ飼養スヘキモノニ非ス若シ山羊乳  
 ノ利用漸ク盛ナルコトアラハ此レカ繁殖ヲ計リテ或ハ利益ヲ得ル  
 アランモ現今ノ狀況ニテハ其望ナシ山羊乳ハ牛乳ノ如ク一般ニ嗜  
 好セラル、モノニ非ス

家禽

ハノ六 家禽

家禽ハ農家毎戸必ス飼育スヘキモノナリ然レモ營利ノ目的ヲ以テ多  
 數ヲ飼ハ、反リテ損失アルモノトス要スルニ家禽ハ農舍近傍及ヒ  
 圃地ニ放チ廢物ニ歸スベキ屑穀菜ヲ利用セシメサレハ利益ナシ  
 卵ハ本邦産ノモノ、ミニテハ全國ノ需要ヲ充タスニ足ラス清國上海  
 ヨリ輸入セラル、額極メテ多シ之レ蓋シ飼鶏ノ未タ本邦農家ニ普  
 及セサルニヨル宜シク鶏卵共同販賣ノ制ヲ設ケテ之ヲ誘導スヘシ、

収實樹類

吐・綬・鶏・ハ本邦ニテハ千葉縣下九十九里沿海ノ地ニ飼育シ「クリスマス」  
 祭ヲ期シテ各所ノ外人居留地ニ販賣ス之レ亦放飼ヲ主トシ敢テ高  
 價ノ食餌ヲ給與スルコトナキヲ以テ相當ノ利アリト聞ク然レモ概テ  
 仲買商ノ利スル所トナルカ如シ  
 鶯・及・ヒ・家・雁・(野生ノ雁ヲ馴養シテ獲タル一種ノ家禽ニシテ本邦ニハ未  
 タ飼育セルモノヲ見ス)ハ本邦ニ於テハ未タ之ヲ飼養セズ蓋シ需要  
 者ノ稀ナルニヨルヘシ當初之ヲ食料ニ慣用スルニ至ル迄ハ少シク  
 困難ナルヘケレモ農家カ殘滓利用ニ供シテ益アルモノナリ獨逸ニ  
 テハ盛ンニ家雁ヲ飼養ス早熟ニシテ良ク肥臚ス  
 家・鴨・ハ本邦ニテモ盛ニ飼育スル地方アリ東京附近ニテハ下野ノ栃木  
 近傍、及信濃、下總ニ多シ然レモ統計ヲ欠ク故ニ其數ヲ詳ニスルヲ得  
 ス水田多キ地方ニテ飼育セハ利益アルベシ

二 収實樹類

本邦ニテ収實樹類中重要ノ位地ヲ占ムルハ桑及茶ニシテ之ニ次キ各種ノ果樹類及ヒ特用樹類(櫨、漆、三椶楮等ノ類)アリ桑及ビ茶ハ概テ園仕立トスルヲ常例トナセモ亦圃地ノ周圍ニ栽ウルコト尠シトセズ之レカ統計ハ農商務統計表ニ就テ見ルヘシ

果樹類モ著名ナル產地ニ於テハ園仕立トナスコト多シ特用樹類モ亦然リ

總シテ収實樹類ハ氣候土質ノ適スル地ニアラザレハ之レカ栽植ヲ盛ンニスヘカラス、他ノ普通農作物ノ如ク一二年ニシテ之レカ存廢ヲ左右スルコト能ハサルモノナルカ故ニ當初栽植ニ際シテハ善ク之レカ得失ヲ調査シ一タヒ之ヲ栽培スルトキハ決シテ輕々ニ之レカ存廢ヲ決スベカラス

第二節

流通資本 Das Umläufende Capital.

流通資本トハ曩ニ述ヘタル如ク直接ニ生産ニ關係アル種類ノ資本ナ

リ其性質ニ應シテ二類ニ區分ス

甲、此類ニ屬スルモノハ農場ニ於テ産出セラレタルモノニシテ再ヒ農産物生産ノ用ニ供セラル、性質ノモノトス即チ稿稈、乾草、畜舎肥、種穀ノ類ヲ含ム

尙労働者ニ支給スヘキ物品ノ如キモ此類ニ屬スルモノトス

乙、此類ニ屬スルハ現金及ヒ現金ニ換フヘキ總テノ農産物及ヒ金券類トス

若シ農業經營ニ係ル總テノ他ノ條件相均シキトハ流通資本ノ運轉ノ速カニシテ且ツ利率ノ高キニ從ヒ収益ハ多キモノナリ

總シテ流通資本ノ多寡ハ主ニ農業組織ノ如何ニヨリテ異同アルモノニシテ若シ地方ノ經濟的狀況ニシテ土地及ヒ農産物廉ニシテ勞力及ヒ資本ノ乏シキ時即チ粗放農業ニ非サレハ利益ヲ得ルコト難キトス

ニハ流通資本ハ必ス多額ニ放下スヘカラカサルモノトス

要スルニ流通資本殊ニ其乙類ニ属スルモノ、多寡ハ農場ノ支出額ニ相應シテ之ヲ備ヘサルヘカラサルモノトス本邦農業者ハ流通資本ノ準備少キカ爲メニ往々損失ヲ招クヲアリクラフトハ一ケ年支出金額ノ凡ソ半額乃至三分ノ二額ハ農場ニ備付ケサレバ安寧ニ農業ヲ營ムコト能ハスト説ケリ

ノ歐洲

歐洲ノ例ニ依レハ流通資本額ハ固定資本ニ對シ凡ソ左ノ割合ヲ有ス

割合少ナキハ 固定資本ノ二五%

全 中ナルハ 三八%

全 多キトキハ 五〇%

又ゴルツハ之ヲ地價ニ對照シテ其割合ヲ示セリ即チ流通資本ハ土地及ヒ附帶建物價格ノ六乃至一〇%ナルハ充分ナリト云ヘリ

一 圃地貯財

圃地貯財トハ未タ土地ヨリ收メラレサル財産ヲ云フ即チ圃地内ニ存

貯圃  
財地

貯農  
財舍

スル肥料、種苗、立毛、一時ノ土地改良等ヲ云フ永久ノ土地改良ハ建物ノ部ニ属ス

二 農舍貯財

農舍貯財トハ總テ再ヒ生産ニ供用セラルヘキ財産ニシテ尙ホ農舍内

ニ貯蓄セラル、モノヲ云フ此類ニ属スルモノハ左ノ如シ

イ、農産物生産ニ供用セラルヘキ前期ノ收穫物ニシテ未タ使用セラ

ズレサルモノ

ロ、無生固定資本ノ新營及ヒ修繕ニ供用セラルヘキ諸材料

ハ、納舍ニ貯蓄セラル、種子、飼料、敷料ノ類

ニ、未タ圃地ニ供給セラレサル各種ノ肥料

ホ、労働者ニ物品支給ヲナスルハ之ニ充ツヘキ各種ノ物品

三 肥廩畜

肥廩畜ナルモノハ肥廩ヲ完フセハ直ニ賣却シ更ニ瘠畜ヲ買入レ再ヒ

肥  
畜

農舍貯財、肥廩畜

用材樹、未販賣收穫物

元百十四

肥臘ニ充ツルモノナルカ故ニ運轉資本ノ性質ヲ有シ流通資本ノ一部ヲナス

用材樹

四 用材樹

用材樹ハ何時ニテモ伐採シテ其用途ニ充ツルモノナルカ故ニ流通ノ性質ヲ有ス

未販賣收穫物

五 未販賣收穫物

未販賣收穫物ハ何時ニテモ現金ニ換フルヲ得ヘキモノナルカ故ニ此種ノ資本ニ属スルコト現金ト異ナルナシ  
未販賣收穫物ハ市況ノ許ス限リハ成ヘク早ク之ヲ賣却シテ現金ニ換ヘ之カ利殖ヲ計ルヲ可トス否ラサレハ徒ニ資本運轉ノ利ヲ放棄スルノミナラス又此等ノ收穫物ハ貯藏中ニ損害ヲ被リ價格ヲ下スノ患アリ加之多量ノ收穫物ヲ貯藏スルニハ必ス大ナル納舍ヲ要シ徒ニ固定資本ヲ増スノ虞アリ

貯穀ノ損害調査

穀物ノ貯藏ニ係ル損害ハ曾テ普國陸軍糧食部ニ於テ調査セシマアリ

即チ一年ヲ四期ニ平分シ損失斤量ヲ調査セシニ左ノ成績ヲ得タリ

初期<sup>三ヶ月</sup> 二期<sup>三ヶ月</sup> 三期<sup>三ヶ月</sup> 四期<sup>三ヶ月</sup> 一ケ年間

麥 一三% 〇九 〇五 〇三 三〇

燕麥 一七 〇九 〇六 〇三 三五

爾後二年目ヨリハハ毎年一%燕麥ハ全一、二%ヲ減失ス

乾草ハ半ケ年ニ十乃至十五%ノ損失アリ

貯藏ハ右ニ述ヘタル如ク斤量ニ於テモ稍著シキ損失ヲ來スモノナレ

トモ其品質ヲ損フノ點ニ至テハ殊ニ甚シトス

六 現金、貸金、未納収入金

別ニ説明ヲ要セス

現金  
其他金

交通  
販路

第四章 交通及販路 Der Verkehr und Der Markt.

貯穀ノ損害調査、交通及販路

元百十五

交通ハ貨物ノ循環ヲ掌リ賣買ノ便否、勞働賃金ノ高低及ヒ物産價格ノ高下ニ影響ヲ及ホシ、從テ農業全般ノ消長ニ大ナル關係ヲ有ス、總シテ交通ナルモノハ地方及ヒ時代ニヨリ大ニ異ナルモノナレ、凡同境遇ニ於ケル農業ニ於テハ收利ノ多少ハ主トシテ農業者ノ人物、資産ノ多少及ヒ賣買者トシテ注意ノ厚薄ニ關スルモノナリ

農家カ自己ノ爲メ并ニ農場及ヒ之ニ附屬スル營利事業ニ必要アルカ爲メニ農場所産ノ物品ヲ消費スルノ場合ハ賣買ノ性質ヲ有スルモノト見做スヘカラス、即チ自己及ヒ農場所要ノ農産物ヲ農場所産ノ農産物全額ヨリ引去リタル剩餘ハ市場ニ賣リ出シ之カ收入ヲ以テ諸支出ヲ償ヒ尙ホ餘ル處ヲ收利トス、故ニ收利ノ多少ハ農業者ノ商業的思想ノ多少ニ關係ヲ有スルコト頗ル大ナリトス、而シテ殊ニ農場ニ農藝工業ノ附屬スルコトアルハ更ニ然ルヲ見ル、故ニ農業ヲ經營セント欲スル際ニハ其地方ノ商況及ヒ商業ノ慣習ヲ調査シ又物産

農家ノ心得

農産物  
工ヘノ加

ノ價格及ヒ其需要供給ヲ考ヘ以テ將來可採ノ方針ヲ決スベシ、而シテ若シ其地方ノ經濟的状況ノ某物産ニ對シテハ餘リ有利ナラサルノ見込アルハ可成之レニ加工シテ其容積ヲ小ニシ、價值ヲ増加シテ之レヲ遠キニ輸出スル方針ニ出ヅルヲ可トス、假令ハ馬鈴薯ノ能ク適生スルノ地ナルモ、近傍ニ於テ之レカ販路ナキトキハ之ヲ澱粉又ハ酒精製造ノ用ニ供シ、其製品ヲ市場ニ出ス方反テ利アルカ如キ(千葉縣)又小豆ノ如キ較、運輸ニ不便ナルノ農産物ハ之ヲ精製シテ干餡トナスカ如キ(北海道)共ニ粗大ニシテ運輸ニ堪ヘサルノ農作物ニ加工シテ相當ノ價值ヲ生セシメタルノ例トナスヘシ

要スルニ交通ノ便開ケ且ツ農産物ノ製造貯藏ノ法進歩スルニ從ヒ、從來遠キニ輸ス能ハサリシ性質ノ農産物モ漸ク運輸ニ堪フルニ至ル、蓋シ製品ハ概シテ未製品ニ比スレハ之レヲ遠キニ致スルヲ得ルノ利アリ

農夫米  
ヲ買フ  
テ遠キ  
ニ行ク  
場合キ

若干ノ  
物品ハ  
遠方ニ  
運搬シ  
能ハカ  
シニ就  
テセテ  
ガスト  
ノ調査

農産物ノ運搬

元百十八

總シテ、貨物ハ其分限ヲ超エ遠キニ輸セントスルハ途ニ運輸ノ途上ニテ消費セラル、ニ至ルモノトス今食用貨物即チ米ヲ以テ之レヲ例示センニ農夫一人ハ四斗俵一俵ヲ負フテ百日間ヲ費サ、レハ之レヲ販賣シ得ルノ市場ニ達セサルモノトナセバ、一日ニ飯米四合ヲ要スルモノトナスキハ先方ニ達スルトキハ既ニ其俵ハ空虚トナルニ至ルヘシ此例ハ只計算ノ便ヲ計リ實際ニ皆無ナルノ事實ヲ示セルモノナレモ能ク此理ヲ考フトキハ百事皆然ラサルハナシ

今ゼッテガストニ依リ此價值ノ減失ヲ示スノ表ヲ掲クルコト左ノ如シ

物品	「セント」市價(マルク)		「セント」市價ノ減失スルノ如シ但%		物品ハ左ノ里程ヲ運輸スルキハ其價値ヲ失フ	
	縣	國道	縣	國道	縣	國道
畜舎肥	0.40	3.75	2.50	6.25	2.67	4
青艸	0.50	3.00	2.00	5.0	3.34	5
酒精製造粕	0.50	3.00	2.00	5.0	3.34	5

農産物ノ運搬

元百十九

物品	「セント」市價(マルク)		「セント」市價ノ減失スルノ如シ但%		物品ハ左ノ里程ヲ運輸スルキハ其價値ヲ失フ	
	縣	國道	縣	國道	縣	國道
甜菜	1.00	1.50	1.00	2.5	6.67	10
稿稈	1.00	1.50	1.00	2.5	6.67	10
麥酒釀造粕	1.4	10.71	7.1	1.7	9.3	14
馬鈴薯	1.5	10.0	6.6	1.6	10.0	15
乾草	2.0	7.5	5.0	1.25	13.34	20
牛乳	4.0	3.75	2.5	1.25	13.34	20
穀類	7.5	2.0	1.3	0.33	5.0	5
麥酒	8.0	1.87	1.5	0.31	5.4	8
小麥及ビ菽類	10.0	1.5	1.0	0.25	6.67	10
菜種類	11.0	1.25	0.8	0.21	8.0	11
生動物	12.0	0.25	0.5	0.125	4.0	4
酒精	12.0	0.75	0.5	0.125	4.0	4
澱粉	12.0	0.5	0.33	0.08	2.0	2

板	薪	牛	羊	皮	ホ	乾	亞	油	煙
割	材	肉	毛	乳	ッ	グ	麻		砂
材	材	エ		革	ブ	ロー			糖
		キ		脂		バー			
		ス				種			
						子			
						酪			
四二〇	〇四六	六〇〇〇	二二〇〇	一〇〇〇	九〇〇	六〇〇	四五〇	三六〇	三五〇
三六	三三六	〇〇三	〇〇七	〇一五	〇一七	〇二五	〇三三	〇四二	〇四三
二四	二二七	〇〇一	〇〇五	〇一〇	〇一一	〇一六	〇三三	〇二八	〇二八
〇六〇	五四三	〇〇〇四	〇〇〇一	〇〇二	〇〇三	〇〇四	〇〇五	〇〇七	〇〇七
二八	三	四〇〇〇	一四〇〇	六六六七	六〇〇	四〇〇	三〇〇	二四〇	二二四
七	四六	六〇〇〇	二二〇〇	一〇〇〇	九〇〇	六〇〇	四五〇	三六〇	三五〇
一六	一八四	二四〇〇〇	八四〇〇	四〇〇〇	三三〇〇	二四〇〇	一八〇〇	一四〇〇	一四〇〇

之ニ由テ是ヲ觀レハ道路ノ開發及ヒ鐵路ノ開通ハ農業ヲ益スル一ト大ニシテ且ツ其面目ヲ一新スルヤ明ケシ故ニ土地開拓ノ如キニ方ツテハ先ツ交通ノ便ヲ開クヲ最モ緊要ナル事業トナス其實例ノ如キ

交通ノ効果

貨物ノ市價

ハ本邦鐵道線路ニ沿ヒタル地ニ於テ之ヲ徵スルヲ得即チ交通ノ便ハ農産物ノ市場ヲ擴張シ從來嘗テ栽培セサル如キノ地ニ於テ甘藷ノ如キ盛ニ産出スルニ至レリ

交通運輸ノ便ハ夫レ斯クノ如ク農業進歩ノ効アリト雖モ將來之カ開通ヲ計ルニ於テハ何レノ手段カ最モ廉ニ貨物ノ運輸ヲナスモノナルヤヲ考究スルヲ要ス

交通ノ便ハ前文既ニ述ヘタル如ク市場ヲ擴大スルノ効ヲ有スルト共ニ又農産物ノ市價ヲ漸ク均様ナラシムルノ力ヲ有ス總シテ市價ナルモノハ年ノ豊凶市場ニ於ケル當該貨物ノ集積如何等ニヨリ高下スルモノナレモ最モ著大ナル關係ヲ有スルハ交通ノ如何ニアリ現ニ日清開戦ノ初期ニ米麥等ノ市價ヲ騰貴セシメシハ主トシテ船線ノ悪シキカ爲メ交通ヲ阻澁セシメシニヨルモノ、如シ

總シテ貨物ノ市價ナルモノハ決シテ其物ノ生産費ノ影響ヲ受クルモ



ノニ非ザルナリ然レモ亦單純ニ需要供給ノ經濟的原理ニノミ依ルモノトナスハ少シク適切ヲ欠ク蓋シ賣買上ノ掛引ハ之ト相伴フテ市價ヲ定ムルニ至ル故ニ眞ニ農業ヲ營マント欲スルモノハ亦賣買ノ術ニ通曉セサルヘカラサルモノトス然ルニ此觀念ノ本邦農民間ニ缺乏セサルハ農業ノ振興セサル一因トナスヘシ即チ農業者ハ管ニ商法ノ規定ヲ暗知セサルヘカラサルノミナラス又商業ニ係ル總テノ習慣ヲ熟知スルヲ要ス加之農業者ハ亦自己ノ賣買スル各種ノ物品ノ商況ヲ通觀シ最モ有利ニ其事業ヲ經營シ得ヘキノ途ヲ攻究スヘシ

買者トシテノ農業者

買者トシテノ農業者ハ賣者トシテノ農業者ヨリハ容易ナル地位ニ立ツモノナリ買者トシテノ農業者ハ商法ノ規定ノ條件ノ外ハ概テ約定ヲ以テ取引ヲ結了セサルト雖モ尙ホ幾多ノ慣習ヲ熟知スルヲ以テ足レリトス要スルニ農業者ノ取引ハ買者トシテノ關係ハ賣者

賣者トシテノ農業者

トシテノモノニ比スレハ極メテ尠キモノナルガ故ニ繁雜ニ涉ルコトナシ  
買者トシテノ關係ハ概テ左ノ慣習ニ據ルコト多シ  
(一)代價拂渡 物品注文ノトキ時ニ代價ノ半額ヲ拂込ムコトアリ  
(二)定價 通例賣捌所受渡ノ代價トス然レモ大注文ノ場合ニ於テハ合意ヲ以テ一割乃至二割ノ割引ヲナスコトアリ  
本邦ニ於ケル買者トシテノ農業者ハ殊ニ肥料ノ買入レニ注意スヘシ  
本邦ニ於ケル刑法中ノ條件ヲ除クノ外不正手段ヲ禁遏スルノ法令ナキカ故ニ殊ニ人造肥料ニ於テハ粗品ノ製出漸ク盛ナルノ傾向アリ  
賣者トシテノ農業者ハ宜シク細心銳意ナラサルヘカラス要スルニ農業ノ最終ノ目的ハ絶エス最多ノ純收益ヲ得ルニアルコトハ本篇卷初ニ之ヲ説明セリ而シテ此目的ヲ達スルニ最モ有力ナル條件ハ最

賣者トシテノ農業者

元百二十四

モ能ク販賣ニ適スベキ産物ヲ最モ多ク産出シ而シテ最モ高價ニ之ヲ賣却スルニアリ

農産物ヲ高價ニ賣却セント欲セバ先ツ市場ノ嗜好ニ適スル様之ヲ調製セザル可ラズ而シテ此調製ナルモノハ既ニ農産物收穫ノ際ニ於テ宜シク心懸ケザルベカラサルモノトス  
調製ト同時ニ農産物販賣ニ必要ナルハ表装トス例令穀類ノ俵装及ビ織維類ノ束装ノ精粗ノ如キモ亦賣價ニ關係ヲ有ス而シテ表装ノ趣旨トスル處ハ形狀及ビ外觀ヲ善クシ併セテ運輸ノ便ヲ圖ルニアルモノナルガ故ニ徒ニ裝飾ニ過グルハ不可ナリト雖モ亦之ヲ行フテ堅牢ナルヲ要ス要スルニ本邦農民間ニハ調製表装ノ點ニ於テ欠クル處少ナシトセズ故ニ農産物ノ品質ハ例令優等ニ位スルモノナリト雖モ尙相當ノ價格ヲ有セザルコト少ナシトセズ  
農産物ヲシテ其品質調製表装ニ相當スベキ價格ヲ占有セシムルニハ

必ズ此等諸點ノ相均シキモノヲ多量ニ販賣シ得ルヲ要ス然ルニ本邦農業ハ概シテ其規模小ナルガ故ニ此要點ヲ充タス能ハズ斯ノ如キ場合ニ於テハ共同販賣ノ利ハ大ニ農業ノ收利ヲ増加スルモノナリ

### 第五章 生産費

農業ノ粗収益ハ土地、勞力及ビ資本ナル三要素ノ合同作用ニヨリ生スルモノトス而シテ粗収益即チ農場産出物ヲ二類ニ大別スルコトハ第三章資本ノ第三節ニ於テ講述セリ即チ

一、賣却シテ金ニ換フベキモノ

二、賣却スルコトナク再ヒ貨物生産ノ用ニ供セラル、モノ

此第二類ニ屬スルモノヲ貨物ノ生産費中ニ算入スルニハ必ス之カ評價ニ據ラサルヘカラス(此等ノ評價法ハ評價學ニ讓ル)然ルニ適當ナル評價ヲ下スコトノ難キニヨリ此生産費ノ計算ヲシテ時ニ其當ヲ失

生産費

元百二十五

諸費、諸入費、雜費

セシムルヲアリ本邦ニ於ケル從來ノ統計表中生産費等ニ關スル諸數ニ信ヲ措ク能ハサルハ一ハ此ニ存スト云フヲ得ベシ  
生産費ハ其性質ニ應シ二類ニ區分ス一ハ諸費、諸入費又ハ雜費ト云ヒ一ヲ特別費ト云フ

第一節 諸費、諸入費、雜費 Deï General Kosten.

諸費、諸入費、雜費ナル名稱ハ同物異名ノモノナリ計算年度ノ終末ニ至リ現ハル、モノニシテ主ニ左ノ費目ヲ包含ス

- 一、管理費用 即チ管理省ノ給料、賄料、事務所費、旅費、廣告費、醫藥料等ヨリ成ル
- 二、住宅及ヒ各種ノ建物并ニ家財ノ修繕費、資本償却費、保險料、家屋稅及ヒ其附加稅但シ納舍及ヒ畜舍ハ當該作物及家畜ノ負擔ニ屬セシムヘシ
- 三、普通農具類ノ損料及ビ其他特別費中ニテ償却セラレサル資本ノ償却費

諸費、諸入費、雜費

此等諸費ノ分擔歩合

特別費

四、各種ノ負擔 即チ地租及ヒ其附加稅、地方稅、町村費、備荒儲蓄、各種ノ賦金、夫役及ヒ農業經營者トシテ當然負擔スベキ各種ノ賦課

五、小規模ノ農藝工業ニ在リテハ其費用

六、其他農場全般ニ渉ルノ費用(組合會費、農會貯等費)

此等ノ諸費目ハ皆農業全般ニ係ルモノニシテ何レノ特別營業部ニモ加算シ易カラサルモノナリ計算年度ノ末ニ於テ豫定ノ歩合ニテ各營業部ニ分擔セシムルモノトス

分擔歩合ヲ定ムルハ決シテ容易ノ業ニアラス宜シク幾年ノ經驗ヲ經ルニアラサレハ其當ヲ得難キモノナレト概テ純收益ノ多少ヲ參考シテ之ヲ定ムヘキナリ然レト亦時トシテハ粗収益ヲ標準トナスコトアリ

第二節 特別費 Deï Specielle Kosten.

特別費

特別費トハ農産物産出ニ方リ特ニ其生産ニ要スル費用ヲ云フ主ニ左ノ費目ヲ包含ス

一、各種ノ労働賃 即チ整地、播種、施肥、中耕、收穫、調製、俵装等ニ際シ要スル各種労働ニ對スル賃金

二、肥料代 即チ畜舍肥、堆肥、濃厚肥料等ノ代價ナリ之ガ負擔ハ時ニ二作以上ノ作物ニ分ツコアリ

三、種苗代

四、貯藏費(米庫等ノ類)

五、特種農具類ノ損料

(備考)本邦農産物生産費ニ係ル最近ノ調査ハ農事調査表卷ノ二ニアリ就テ見ルベシ

蠶業、茶業及ヒ畜産業ニ係ル特別費ハ普通農物ノモノト其理毫モ異ナルナシ故ニ略ス

第六章 農業ノ取得 *Der Wirtschaftsertrag.*

農業ノ經營ニハ土地、勞力及ビ資本ヲ要スルコトハ業已ニ之ヲ説ケリ勿論土地及ヒ勞力ナルモノハ資本ヲ以テ買收スルヲ得ルモノナレト此二者ハ決シテ資本其物ニアラスシテ各個獨立セル生産要素タルノ性質ヲ失ハス

故ニ農業ノ取得ヲ論スルキハ必ス此三要素ノ個々ニ付キ之ヲ説クヲ至當トス

即チ土地ヨリ生スルノ所得ハ地益ト云ヒ(地益ト借地料又ハ小作料トテ借地料トハ土地及ヒ附帶建物借料ヲ云フ)勞力ヨリ出ツル所ノ所得ヲ労働賃ト云ヒ資本ヨリ生スル所得ヲ利子ト云フ

以上三種ノ所得ノ内労働賃ナルモノハ生産費中ニ組込ムカ故ニ農業純收益ノ中ニ現ハル、モノニ非ス即チ農業ノ純收益ト稱スヘキモ

ノハ主トシテ地益及ヒ利子ヨリ成ル  
 然レ凡ソ事業ノ經營ハ一種ノ企業ナルカ故ニ若シ此企業ニシテ失  
 敗スルコトナキハ企業者ハ其企業心ニ對シテ更ニ一種ノ報酬ヲ  
 享クヘキノ理ナリ此報酬ハ企業益ト稱ス  
 總シテ地益及ヒ利子ハ企業カ確固ナルニ從ヒ低キヲ常トス而シテ土  
 地ナルモノハ資本ニ比スレハ遙ニ確實ナルモノナルカ故ニ地益ノ  
 利率ハ資本ノ利率ヨリ低ク又資本中ニ於テハ固定資本ノ利率ハ流  
 通資本ノ利率ヨリ低キモノナリ  
 農業者ハ土地及ヒ資本ニ對スル所有權ノ有無ニヨリ或ハ自作農タリ  
 或ハ小作農タリ或ハ農場管理者(只純益ニ對シ分取ノ條件アル場合ニ限ル)タリ  
 自作農ハ自由ニ自己所有ノ土地ニ對シ無缺ノ所有權ヲ行使シ之ヨリ  
 生スヘキ地益ヲ収ムルヲ得然レ凡其土地ヲ抵當ニ入レアル場合ニ  
 ハ其所有權ノ行使ヲ制限セラレ且ツ之ヨリ生スル地益ハ全然若シ

自作農  
ハ如何

農場管  
理者

クハ一部債主ノ所得ニ歸スルモノトス殊ニ本邦ニ限り存在スル所  
 ノ質入地ニ於テハ之カ使用及ヒ收益ニ係ル權利ハ債主ニ歸セルモ  
 ノナレハ地益ハ悉ク債主ノ有ニ歸ス  
 小作農トハ一定ノ小作料ヲ支拂ヒテ農地ノ用益權ヲ享受セルモノヲ  
 云フ  
 農場管理者トハ他人ノ土地及ヒ資本ヲ以テ農業ヲ經營スルモノヲ云  
 フ豫メ純益ノ幾分ヲ賞與金若シクハ收益分割ノ名稱ニテ享受スベ  
 キ條件アル場合ニ限り農業者ノ資格ヲ有スルモノト做スベク而シ  
 テ若シ單ニ一定ノ給與ヲ受クル場合ニ於テハ一ノ労働者タルニ過  
 ギザルナリ要スルニ其ノ孰レノ場合ヲ問ハズ管理者ノ給料并ニ管  
 理者ニ要スル所ノ諸費ハ生産費ニ中組入ルベキモノトス  
 以上陳述セル所ニヨリ之ヲ見レバ所謂完全ナル農家ナルモノ即チ自  
 作農ノ所得ハ地益、利子及ヒ企業益ノ三者ヨリ成立ス

小作業、農場管理者

第一節 地益 Die Grund Rente.

地益ナルモノハ經營學上ニ所謂土地ナルモノヨリ生ズル處ノ一種ノ利益ニシテ土地所有權ニ對スル所得ナリ而シテ地益ト土地ニ注入セル固定資本ノ未償却部分ニ對スル利子トヲ合セタルモノハ借地料ト稱ス

地益ハ必ズ純收益中ニ包含セラル、モモナルガ故ニ純收益全額中ヨリ資本利子及ビ企業益ヲ扣除シテ餘ス處ハ之ニ當ル時ニ純收益ヨリ資本利子ヲ扣除スルハ極メテ僅少ナル金額ヲ餘スノミニシテ決シテ地益ニ相當スルニ足ラズト云フモノアレモ此場合ニ於テハ資本ヲ放下スルコト適度ヲ過キタルガ故ニ斯クノ如キ現象ヲ呈スルニ至レルモノト云フベク即チ農業經營ノ法其宜シキヲ得タルモノニ非ザルナリ例令ハ土地ノ農業ニ不適當ナルニモ拘ラズ多クノ資本ヲ放下スルハ此ノ如キ場合ニ立至ルコトアリ即

チ本邦ニ於ケル開墾地又ハ牧畜家ナルモノニ此類ヲ見ル此ノ場合ニ於テハ寧ロ粗放農業ヲ行フノ可ナルヲ知ルベシ故ニ地益ノ多少ハ單ニ土地ノ良否ニノミ關スルモノニ非スシテ又地位、地形、氣候及ビ經濟的狀態ニ關スルコト大ナルヤ明カナリ

土地ノ價格及ビ借地料ノ高下ハ概テ先ヅ地益ノ多少ニヨリテ定マルヘキモノニシテ地益ノ多少ハ又土地ノ價格及ビ借地料ノ高下ヲ定ムルノ基礎トナル然レモ農地ノ價格ナルモノハ地益ヲ或ル歩合ヲ以テ資本ニ改算セルノ額ニ土地ニ注入セラレタル資本ノ内其未タ償却セラレサル部分ヲ加ヘタルモノト均シク而シテ借地料ナルモノハ此土地價格ニ對スル利子ト相均シカルヘキモノナレモ尙需要供給ノ經濟的原理ニ依リ或ハ之ニ比スレハ高キコトアリ或ハ低キコトアリ要スルニ借地料ハ人口密ナル地ニ於テハ農地ノ需要勝ルニヨリ實際ノ土地價格ノ利子ヨリ高ニ之ニ反シテ人口粗ナルノ地

ニ於テハ其供給多キニヨリ土地價格ノ利子ヨリ低キモノナリ  
 之ヲ本邦ノ實例ニ徴スレハ借地料ハ土地價格ニ對スル利子ヨリハ高  
 キヲ免レス之レ蓋シ農業社會ノ人口密ナルト農地ノ區劃小ナルカ  
 故ニ自ラ小作地ニ對シ競争アルノ結果ニ外ナラス  
 一土地ニ對スル地益歩合ハ其土地ノ價格ノ上騰スルニ從ヒ低減ス又  
 農業ノ集約トナルニ從ヒ土地ニ對シテ勞力ト資本トヲ注入スルコ  
 ト彌々多クナルカ故ニ收益ヨリ此勞力ニ對スル勞働賃ト資本ニ對  
 スル利子トヲ扣除スルハ地益ハ漸ク減少スルノ理ナリ然リト雖  
 モ勞力及資本ヲ過度ニ注入シテ遂ニ地益ヲ極度ニ縮少スルカ如キ  
 ハ決シテ策ノ得タルモノニ非サルナリ  
 地益歩合ナルモノハ普通ノ預ケ金利ヨリ較ヤ低キ所ヲ以テ其程度ト  
 ス蓋シ土地所有ナルモノハ普通ノ預金ニ比スレハ安全ナルモノナ  
 レハナリ故ニ今本邦ノ預ケ金利ヲ五朱トスレハ地益歩合凡ソ四朱

ヲ以テ至當トス或ル經營學者ハ此地益歩合比較ノ基トシテ貸金歩  
 合ヲ引用スレモ余ハ寧ロ預ケ金歩合ヲ基トシ之ヨリ凡ソ一%低キ  
 率ヲ以テ地益歩合ト見做スヲ可トス

地主ノ收入スル地益ハ其性質ヨリ觀察スルハ二種ニ分ツ

一、自然的地益 自然的地益トハ地主ニシテ農業ヲ營ムル即チ自  
 作農ノ收ムル處ノ地益ヲ云ヒ豊凶物價ノ高低ニヨリ異同アル  
 モノナリ

二、定地益 定地益トハ地主ノ自ラ農業ヲ營マサル即チ土地ヲ  
 借地人ニ貸シ出シ收ムル所ノ借地料中ニ含有セラル、ノ地益  
 ヲ云フ契約年限中ハ毎年一定シテ異同アルコトナシ  
 地益ナルモノハ農家所得中ノ一分子ナルカ故ニ決シテ生産費中ニ加  
 算スヘカラス但シ特ニ小作農ノ所得ヲ論スル場合ニハ此限リニ非  
 ス

第二節 資本利子 Der Capital Fins

固定資本ト流通資本ト其性質相異ナルカ故ニ其利率モ亦均シキモノ  
ニアラス要スルニ固定資本ナルモノハ地方普通ノ預ケ金利ニ元金  
償却歩合一朱乃至二朱ヲ加ヘタルモノヲ以テ利率ト見做スヘク流  
通資本ナルモノハ凡ソ地方ノ貸金利率ト相均シキモノト做スヘキ  
ナリ

即チ本邦ニ於テハ預ケ金利子及ヒ政府公債利子ハ凡ソ五朱ナルカ  
故ニ固定資本ノ利子ハ六朱乃至七朱ト做スヘク又本邦ニ於ケル貸  
金利子ハ凡ソ一割二分乃至二割ナルカ故ニ流通資本利子モ亦一割  
二分乃至二割ノ間ニアルモノト做スヘシ  
資本利子ナルモノモ亦農家所得ノ一分子ナルカ故ニ生産費中ニ加フ  
ヘカラス然ルニ多數ノ經營學書ニハ此點ヲ誤マルモノアリ注意ス  
ヘシ但シ資本ヲ他人ニ仰キ農業ヲ營ムカ如キ農家ニアリテハ此限

ニアラスト雖モ此ノ如キハ得テ健全ナル農家ト看做スヘキ限りニ  
アラス

第三節 企業益 Der Unternehmens Gewinn.

企業益ナルモノハ企業者ノ冒險即チ企業心ニ對スル報酬ヲ云フ要ス  
ルニ企業益ナルモノハ冒險ノ度高キニ從ヒ多ク生スルヲ常トス即  
チ移民農業ヲ普通土着農業ニ比スレハ利潤多キハ此理ニヨル  
總シテ農業ナルモノハ他ノ事業ニ比スレハ冒險的性質ヲ有スルヲ  
極メテ少ナク加之各種ノ事業中最モ確實ナルカ故ニ企業益ヲ生セ  
サルヲ多シ然レモ理論上ニハ企當益ナルモノハ農家ノ所得中ノ一  
分子ナリ

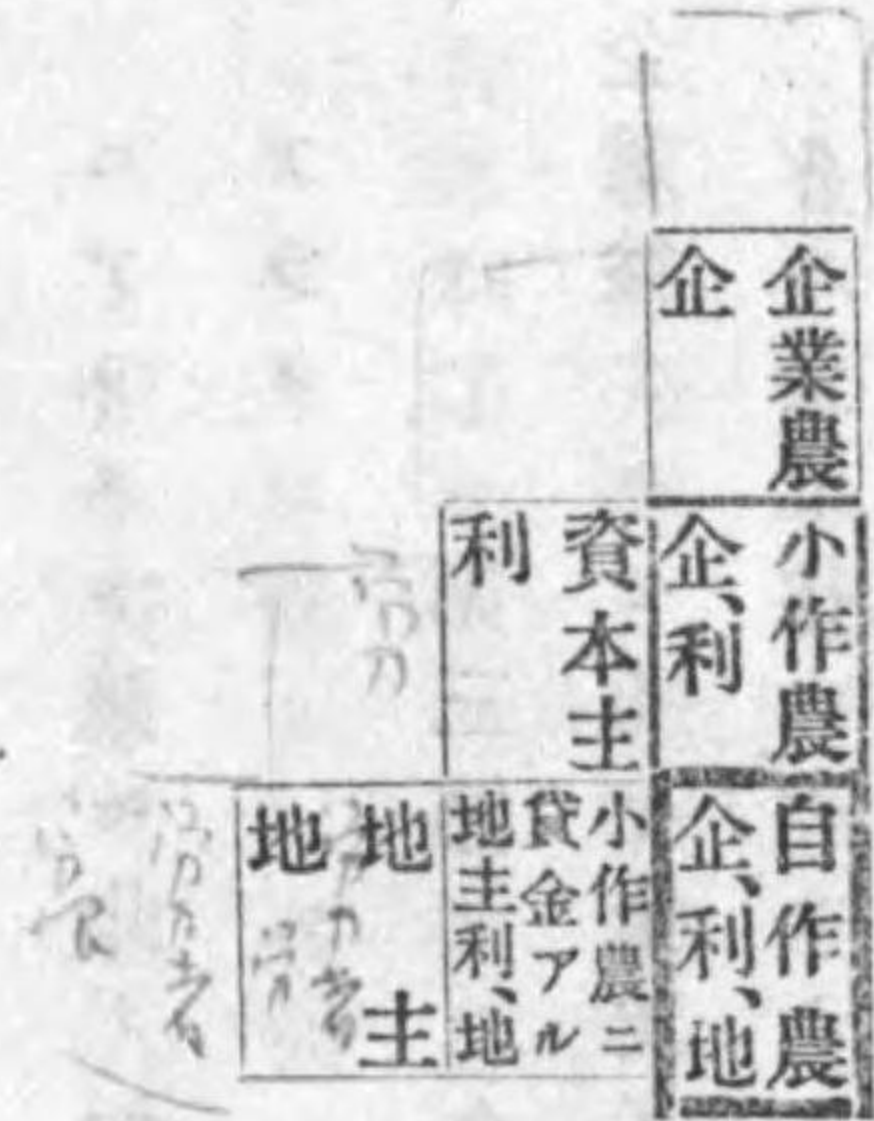
第四節 所得ノ分配 Die Vertheilung Des Wirthse  
Bafsertrags

農業者ハ自作農ヲ以テ完全ナルモノトナセモ亦土地ヲ他人ヨリ借リ  
農業ヲ營ムモノ多シ此種ノ農業者ハ小作農ト稱ス



農業上ノ利益ヲ獨占スルハ自己ノ資本ニテ營業スル處ノ自作農ナリ  
 殊ニ自ラ勞働ニ就クキハ自己勞働ニ對スル勞働賃モ亦之レカ所得  
 トナル此ノ如キハ乃チ真正農民ト稱スヘシ  
 農業ノ利益ノ最モ分裂スル場合ハ一企業者カ他人ヨリ資本ヲ借り入  
 レ他人ノ土地ニ於テ農業ヲ營ムルニアリ  
 小作農ナルモノハ自己ノ資本ニテ他人ノ土地ニ農業ヲ企業スルモノ  
 ナリ

今之ガ一覽圖ヲ示セハ左ノ如シ



表中(企業)ハ企業利益(利)ハ利子  
 (地)ハ地利益ナリ

### 第七章 純収益ノ分配

純収益  
 ノトハ何

前キニ經營學ノ定義ヲ講スルニ方リ農業經營ノ目的ハ絶ヘス成ルヘ  
 ク多額ノ純収益ヲ收ムルニアリト説ケリ然ルニ純収益ナル意義ニ  
 就テハ予ノ執ル所ノ解釋ハ經營學ノ末章農家所得ノ項ニ於テ之ヲ  
 示セリト雖モ學者間及ヒ實業者間ニ於テ往々其所見ヲ異ニスルモ  
 ノアリ左ニ之ヲ示サン

一、純収益トハ總收入(即チ粗収益)ヨリ營業ニ係ル諸費ヲ扣除シ餘ス  
 處ヲ云フ。此解釋ニヨレハ純収益ハ恰モ地益ト資本利子ト企業益  
 ト相等シ

二、總收入ヨリ營業ニ係ル諸費ト土地ヨリ生スヘキ利益地益ト土地  
 注入未償却資本ノ利子(即チ借地料トノ和ヲ扣除シ餘ス處ヲ云フ。  
 此場合ニ於テハ農業ノ純収益ハ恰モ借地農ノ純収益ト相等シク  
 即チ資本利子ト企業益ト同シ

純収益ノ分配

此解釋ハ本邦農學ヲ論スルモノ、内ニ往々之ヲ見ル想フニ本邦農家ハ小作農多キカ故ニ全般農業ノ純収益ト小作農業ノ純収益ト相混シテ斯ル誤解ヲ來タセルナラン(フエスカモ地産論中ニ斯ク純収益ヲ解セリ)

三、總收入ヨリ營業ニ係ル諸費ト資本利子トヲ扣除シ餘ス處ヲ云フ。此場合ニ於テハ純収益ハ恰モ土地ヨリ生スヘキ利益ト企業益トノ和ト相等シ斯ル見ヲ有スルモノハ本邦ニ少ナシ

四、總收入ヨリ營業諸費ト小作料及ヒ資本利子トヲ扣除シ餘ス處ヲ云フ、此場合ニ於テハ純収益ハ恰モ企業益ト相等シ

純収益ナル語ニ就テハ右ニ述タル如ク種々ノ解釋アルヲ以テ能ク其意義ヲ一定シ置クヲ要ス予ノ所論ニテハ第一說ヲ至當トス然レトモ往々第二說ノ見ニヨリテ純収益アルモノヲ判定スルモノ多シ

要スルニ農業ヲ營ムモノハ必ス土地ト資本トヲ要シ之ニ自己ノ勞力ヲ利用シテ能ク収益ヲ期スルヲ得ヘキモノナルカ故ニ無缺ノ農業者ト爲スヘキモノハ自作農ニ限ルモノトス從テ此農業純収益ト稱スヘキモノ、内ニハ必ス土地、資本及ヒ勞力(企業的)ノ三者ニ對スル報酬ナカルヘカラス

農業純収益ナルモノハ夫レ斯ノ如ク諸要素ノ合同作用ヨリ成ルモノニシテ純収益生成ニ對シテ各要素ノ効力ノ多少ハ決シテ計リ知ルヲ得ヘキモノニアラサルカ故ニ各要素ニ對シ純収益ノ分配ヲ試ムルモ蓋シ假想ニ過キサレベシト謂フモノアリ夫レ然リ然リト雖凡ソ農業ヲ營ムモノハ之ニ供用セル要素ニ對シ必ス幾多ノ利益ヲ期スルモノナレハ假令純収益生成ニ係ル一要素ノ眞ノ効力ヲ計ル能ハサルベシト雖凡尚ホ之カ供用ニ際シ之ニ豫期セルノ収益ハ敢

テ知ルヲ難トセス  
土地ヨリ生スヘキ利益トハ即チ地益ト土地ニ注入セル資本ニシテ  
未タ償却シ了ラレサル部分ニ對スル利子トヨリ成リ恰モ地價資本  
ニ對スル金利ニ外ナラス

土地ニ豫期スル利益ノ判定標準

土地ニ豫期スルノ利益ヲ判定スルニハ三種ノ標準アリ即チ一ハ借地  
料一ハ土地抵當金融利率ニシテ一ハ政府ノ公債ノ利率トス内最モ  
實際ニ近カキハ借地料トス然レモ本邦ニ於テハ土地價格ト借地料  
トノ比率ニ係ル調査ヲ欠クカ故ニ地價資本ハ年何朱ノ利ヲ生スル  
ヤヲ示ス能ハス(本論ニ借地料ト云フハ地主ノ純收入即チ借地料ヨ  
リ租税及ヒ諸懸リヲ減シ去リタル殘額ノ謂ニシテ地主ノ所得ヲ指  
ス)

然レモ今假リニ其土地十ヶ年ノ平均價格ヲ五拾圓トナシ之カ小作  
米一石ヲ平均五圓ト看做ス凡ソ年六朱ノ利率ニ當ルヘシ即チ

小作料 一ヶ年 五圓

内地租(券面價四十圓 此百分ノ二五) 一圓

地價割諸費諸懸リ等 八拾錢 貳圓

小作米取立其他諸入費貳拾錢

差引三圓即チ土地價格五拾圓ニ對シ年六朱ノ割

以上ノ計算ハ杜撰ニ過キサレモ余ノ見ル處ニテハ地主ハ土地價格  
ノ五朱乃至六朱ヲ所得スルモ、如シ

第二ノ標準タル土地金融利率ヲ以テ土地ヨリ生ス可キ利益ノ標準  
トナスヲ得ルハ土地抵當金融機關ノ發達セル國ニ限ル故ニ本邦ニ  
之ヲ適率スルヲ得ス

第三ノ標準タル政府公債ノ利率ハ良ク標準トナスニ適ス蓋シ政府  
公債各種ノ債券中最モ確實ナルモノナルカ故ニ之カ所有ハ恰モ土  
地所有ト同シク危險ノ度極メテ少ナシ即此兩者ノ利率モ亦略相等

土地ニ豫期スル利益ノ判定標準

シキモノト見做シテ可ナリ頃者我政府ノ公債ハ凡ソ年五朱利ナルカ故ニ本邦農地所有ニ對シテモ亦年四朱五厘乃至五朱ノ利ヲ以テ満足セサル可ラス

即チ第一及第三ノ標準ニ據リテ觀察スルニ本邦ニ於テ土地ヨリ豫期スルノ利益ハ凡ソ年四朱五厘乃至六朱ノ間ニアル可シ  
資本ニ固定流通ノ二種アルコトハ經營學ニ於テ既ニ之ヲ講述セリ此兩種ノ資本ハ其性質ノ比較的確實ナルト否トニ依リ利率ニ高低アリ  
資本利子ヲ評定スルニ標準トナスニ足ル可キモノニアリ一ハ地價  
資本ノ利率ニシテ一ハ地方普通ノ動産抵當金利トス  
要スルニ農業經營ノ爲メニ注入セル資本ハ土地購買ノ爲メニ支消セ  
ル資金ニ比スレハ其性質確實ヲ欠クカ故ニ更ニ高キ利率ヲ望ムハ  
敢テ不當トセス然レモ本邦ニ於ケル此ノ兩種ノ利率ノ割合ハ未タ  
明ナラサルヲ以テ予ハ茲ニ之ヲ示スヲ得ス

獨乙經營學者間ニモ此兩種ノ利率ノ割合ニ就テ其所見ノ大ニ異ルモノアリ即チ左ニ之ヲ對照表示セン

Thaer	1%	8%
Aorlergulz	11-12%	31-50%
Block	地價資本利率ト同シト云ヘリ五、	
Wadz	15-20%	21-25%
Settegast	15-20%	65-80%
Kroft.	34%	61-8%

即チ之ヲ通觀スルキハ地價資本利率ニ比シテ固定資本ノ利率ハ凡ソ二-四%流通資本利率ハ凡ソ五-八%高キモノト見做シテ可ナルベシ

第二ノ標準トシテ用キ可キハ地方普通ノ動産抵當金利トス本邦ニ於  
資本利子ノ判定標準

資本利子ノ分配例

元百四十六

ケル此利率ハ之ヲ詳ニスルヲ得サルヲ以テ今假リニ之ヲ法定利率  
最高制限ト相均シク即年一割二分乃至二割ト見做ス時ハ固定資本  
利率ハ略之ト同シク而シテ流通資本利率幾分カ不確ノ點ニ依リ更  
ニ之ヨリ少シク高ク見積ラザルベカラズ即チ

固定資本利率 一二—二〇%  
流通資本利率 一五—二五%

以上述ヘタル所ニ依リ分配例ヲ示スコト左ノ如シ

其分配例

算例

土地五町歩ヨリ出セル粗収益	500
同上生産ノ爲メニ支出セル諸費	300
農業純益	200
之ヲ分配スルノ左ノ如シ	
(土地)	75

土地價格即地價資本千五百圓ニ對スル利益ナ五%ト見積ルハ

(固定資本) 固定資本七百五十圓ニ對スル利益ナ十二%ト見積ルハ

90

(流通資本) 流通資本百五十圓ニ對スル利益ナ二十%ト見積ルハ

+ 30

195

(企業益) 差引

5

元之卷

農業經營學下編

農業經營學評論(農場篇)

緒言

緒言

農業ヲ經營スルニ必要ナル三要素即チ土地、勞力及ヒ資本ニ就テハ前篇ニ於テ既ニ之ヲ論述シ且ツ農業収益ニ於ケル之カ關係ヲ明カニセリ

本篇ニ於テハ此三要素ノ結合即チ農場ナルモノニ就キ之カ取得、組成及ヒ管理ヲ講述スヘシ是レ本編ニ農場篇ナル名ヲ下ス所以ナリ假令農場ノ經營法ハ其大小、土地所有權ニ對スル關係及ヒ農業者ノ資産ノ多少等ニ依リ決シテ一律ニ出ルモノニアラスト雖モ尙ホ之カ組織及ヒ管理ノ方法ニ就テハ一般ニ適應スヘキ原則ノアルアリ而

農場ノ經營法  
組織  
管理

緒言

農業ノ  
目的

シテ此原則適應ノ最終ノ目的ハ曩ニ經營學ノ定義ヲ講スルニ方リ  
テ陳述セル所ノ農業ノ目的即チ可成少許ノ失費ヲ以テ絶エス可成  
多クノ純収益ヲ得ント欲スルニ外ナラス  
即チ本篇ニ於テハ先ツ農場ナルモノヲ解説シ更ニ歩ヲ進メテ其取得  
其組織及ヒ其管理ニ就テ述フル所アルヘシ

農場

### 第一章 農場

Das Landgut.

農場ト稱スルモノハ某面積ノ土地ヲ一時若シクハ永久ニ農業的ニ利  
用スルカ爲メニ之ニ必要ナル建物及ヒ時ニハ農藝工業場ヲ設備シ  
且ツ必要ナル器具類ヲ備付ケタルモノヲ云フ  
又農場ニハ特殊ノ權利及ヒ負擔ノ屬スルコトアレヒ本邦ニハ稀ナリ  
農場ニ於ケル營業資本ノ備付ハ著ルシキ異同アルヲアリテ營業収  
益ノ多少ニ關係ヲ有スルコト大ナリ

農業ト  
國家ノ  
制度

農場大ニシテ一中央農舍ヨリ管理シ能ハサル場合ニ於テハ分農場ヲ  
置キ特ニ農舍ヲ設ク殊ニ粗放農業ヲ行フノ大農場ニ在テハ中央農  
場ノ外更ニ分農場農舍ノ設ケアルヲ便ナリトス即チ之カ設置ハ單  
ニ各種ノ施業ヲ容易ナラシムルヲ得ルノミナラス又家畜ヲ其用途  
及年齡ニ應シテ配置シ得ルノ利アリ

#### 第一節

農場ト國家經濟トノ關係即チ農業ニ關スル國

家的制度 *Das Landgut in Seiner Befehung  
Für Staatswirtschaft.*

本節ニ屬スル事項ヲ論スルノ學ハ農政學ト云ヒ應用經濟學ノ一タル  
農業經濟學ノ一部ヲ爲ス故ニ本篇ニ於テハ之ヲ詳述スルノ要ナシ  
ト雖モ今左ニ農場ナルモノニ就キ極メテ重要ナル關係ヲ有スル國  
家的制度ヲ掲ク

(甲) 土地及ヒ其處有權并ニ其占有權ニ關スル法令制度

農業ニ關スル國家的制度

農業ニ關スル國家的制度

- 一、封建時代ヨリ存スル各種ノ地役ノ解除  
封建時代ニ於テハ土地所有者ニハ年貢米ノ外各種ノ地役ヲ課セリ殊ニ夫役ナルモノハ其主タルモノナリキ然レモ皇政維新ノ際總テ無報酬ニテ之ヲ解除シ現時ニ於ケル農地ノ負担ハ只地租及ヒ附加税ニ過キス
  - 二、土地臺帳規則ノ發布及土地ノ質入書入ニ關スル諸令ノ制定  
此等ノ法令ノ發布ハ土地抵當金融ヲ安全ニスルカ爲メ極メテ必要ナル設備ナリ本邦ニ於ケル臺帳規則ハ明治廿二年ノ制定ニ係ル
  - 三、土地賣買ノ制限ニ係ル法律ノ發布
  - 四、土地整理法ノ發布
  - 五、備荒儲蓄制度ノ制定
  - 六、小作法ノ制定
- 本邦ニ於テハ民法中ニ制定スル處アリテ爲ニ小作條例ナルモノハ定

メス

- 七、水利ニカ、ル法令ノ發布
- 八、山林ノ保護及ヒ民有林ニ對スル國家的監督權ノ實施

(乙) 資本ノ安寧ヲ保護スルニ必要ナル制度

- 一、金錢及ヒ有價物件ノ授受及ヒ契約ノ公認  
金錢及ヒ有價物件ノ授受及ヒ契約ハ証券印紙ノ貼付セル場合ニ限り公認セラル、モノトス明治十七年ノ制定ニカ、ル
- 二、農業金融制度ノ制定

農業金融ハ可成低利ヲ以テシ且ツ漸次元資金ヲ償却シ得ル仕組トナサ、ルヘカラス金融ノ方法ハ種々アレモ國家的事業トシテ施行スヘキハ彼ノ農業銀行トス此他組合事業トシテ施行スヘキ金融法ニ對シテハ國家ハ宜シク監督保護ニ任スヘキナリ

勸業銀行法及農工銀行法ハ已ニ先年發布セラレタリ



三、金利ノ法定  
貸借金ニ對スル利子ハ成ルヘク貸借兩者間ノ合意ニ依ラシムルヲ可トスレモ斯ク放任スル時ハ往々高利貸ナルモノハ一般社會ヲ害スル弊ヲ生スルヲ以テ政府ハ金利ニ制限ヲ定メ之ヲ超ルヲ許サス本邦現時ノ法定金利ハ左ノ如シ

百圓以下

二割

百圓ヨリ千圓マデ

一割五分

千圓以上

一割二分

尙ホ貸借兩者間ニ預メ合意ノ利率ナキトキニ方リ民事訴訟上利率ヲ定メサルヘカラサル場合ニ於テハ裁判所ハ年六分ノ利子ヲ付スルヲ命令ス是レ裁判所ノ規定ノ利率ナリ

四、農業保險制度

農業保險ノ目的ハ資本ノ安寧ヲ圖ルニアリ或ハ國立トスルコトアリ或

ハ私立トスルコトアリ私立ノモノハ概テ會社組織ノモノトス故ニ民法ノ内會社ニカ、ル條項ノ適用ヲ受ケ政府ノ監督スル處トナル其種類數多アリマイエツト著農業保險論ヲ參照スヘシ

五、博覽會共進會及品評會ノ開設  
博覽會及ヒ共進會等ハ一方ニ於テハ精品ノ產出ヲ獎勵スルト同時ニ又資本ノ放下ヲ勸誘スヘキノ方針ニ依リ之ヲ組織スヘキモノトス

(丙) 勞力ニ關スル制度

一、雇人取締

雇人取締ニ係ル國家的制度ハ概テ地方警察權ニ屬ス本邦ニ於テハ雇人請宿ノ取締ニ關スル件ハ警察規則ニ定ムル所アリ然レモ雇人ノ取締ハ未タ充分ニ行ハレス製糸工女ノ如キニ就テハ或ハ二三組合規約中ニ規定セルモノアリト雖モ其効力著シト云フヲ得ス

二、勞働者ノ保護及ヒ救濟ニ係ル制度

貿易

本邦ニ於テハ未タ無シ獨逸ニ於テハ罹病者救濟法、罹災者保險法及ヒ老衰者保護法ノ設アリ

(丁) 貿易交通ニ關スル制度

一、貿易ニ關スル國家的制度

輸出税及ヒ輸入税ニ依リ國庫ノ收入ヲ圖ルト共ニ其國ノ農業ヲ保護スルノ制度ハ極メテ重要ナルモノトス其方法目的及ヒ可否等ハ茲ニ之ヲ論セス

交通

二、交通ノ開發ニ關スル國家的制度及ヒ事業

交通ノ安寧ヲ圖ルハ國家ノ義務ニ屬シ主トシテ警察權ノ行使ニ依リ之ヲ行フ又國家ハ道路ノ開發、鐵道ノ布設、運河ノ開鑿、河身ノ修築等ニ依リ交通ヲ開キ貨物ノ集散ヲ容易ナラシメサル、カラス此等ノ事業ニハ地方設ノモノアリ又個人設ノモノアリ

(戊) 教育制度

專門學校

一、專門學校ノ設置

專門學校ハ官設ノモノアリ公設ノモノアリ又ハ私設ノモノアリ其公設及ヒ私設ニ係ルモノハ政府ハ宜シク之ヲ監督シ又之ヲ幫助スヘシ其種類ハ最モ高等ナルモノニ在テハ大學トシ最モ低等ナルモノニアリテハ普通教育ヲ授クルト共ニ專門事項ヲ授クルノ組織ニ依ルノ冬期學校及ヒ補習學校等トス其間尙ホ數多ノ階級アリテ各種ノ農業者ヲ教育スルノ責ニ任ス

我邦ニ於テハ農科大學、高等農學校(農科大學實科)地方農學校(甲乙兩種)ノ農業補習學校等ノ制アリ又短期農事巡回教授ノ方法ヲ設クル所アリ

農事試驗

二、農事試驗

農事試驗ハ又合理的農事ノ開發ニ極メテ必要ナリ故ニ國家ハ勉メテ之ヲ普及ヲ圖リ併セテ之ヲ幫助セサルヘカラス

農民代表團體

(己) 團體ニ係ル制度

一、農民代表團體  
農民ヲ代表スル處ノ團體ハ一國ノ農業ヲ開發スルニ極メテ必要トス  
各村ニ村農會ヲ置キ之ヲ合セテ郡農會トシ更ニ縣農會ヲ作り中央  
農業會議ヲ設ケテ之ヲ統フルヲ可トス  
現時中央農業會議ノ制ナシト雖<sup>ニ</sup>實業團體農事會ノ如キ之ニ遜シ

農業經濟組合

二、經濟組合

經濟組合ナルモノハ殊ニ小農多キノ國ニ於テハ必要欠クヘカラサル  
モノトス政府ハ宜シク之ヲ監督シ亦之ヲ獎勵幫助セサルヘカラス

有志者農會

三、有志者農會

有志者農會ナルモノハ彼ノ代表團體ト相異ナルノ組織ニ係ル本邦ノ  
大日本農會ノ如キ之ナリ此種ノ農會ハ亦必要ナルモノニシテ代表  
團體ト相倚リ相助ケテ共ニ農事開發ノ任ニ當ルモノトス

全業組合

四、全業組合

全業組合トハ營業上ノ弊害ヲ矯正シ福利ヲ増進スルカ爲メノ全業者  
ノ團結ナリ概テ法令ヲ以テ之ヲ組成ス蠶糸業組合、茶業組合、米質改  
良組合ノ如キハ之ニ屬ス

以上說ケル所ハ何レモ農業ノ發達上重要ノ關係ヲ有スルモノニシテ  
此等ノ制度ノ完美ノ域ニ進ムニ從ヒ農業ノ收益ハ愈増加スルモノ  
ナルカ故ニ決シテ忽諸ニ附スヘカラサルナリ

第二節 農場ト社會的的狀態トノ關係

Das Landgut in Seiner Befehung Fur  
Gesellschaftlichen Verhältnisse.

國家經濟ノ良否ハ農場ノ收益ニ關係ヲ有スルヤ明ケシ而シテ社會的  
狀態ノ如何モ亦收益ヲ増減スルノ作用ヲナス即チ  
(一) 人口ノ粗密、人民ノ貧富及ビ其結果タル生計ノ良否、購買力ノ多

農場社會的的狀態トノ關係

少并ニ教育ノ良否ハ土地分裂ノ度并ニ労働者ノ供給ニ關スル處大ナルガ故ニ或ハ農法ヲ粗放ナラシメ或ハ之ヲ集約ナラシムルモノトス

(二) 都市人口ト村落人口トノ割合并ニ農業及ビ工業ノ盛否ハ又農法ニ粗密ヲ生ス想フニ都市人口即チ農産物消費者ノ村落人口即チ農産物供給者ニ比シテ多キトキハ農産物ノ需要ハ其供給ヨリ大ナルモノニシテ又工業ノ農業ニ比シテ盛ナルトキハ需要ハ供給ニ勝ルガ故ニ共ニ農業ヲ盛ンナラシメ其收益ヲ高ムルノ影響ヲ生ズ

(三) 農業労働者ノ習慣及ビ氣性ハ自ラ其生計ノ程度ヲ支配シ又移住労働心ノ多少ニ關係ヲ有シ又時トシテハ同盟罷働ヲ發作セシムルコアリ

(四) 交通ノ便否及ビ市場トノ巨離ハ主トシテ農産物ノ販賣及ビ需要品ノ購入ヲ難易ナラシム

(五) 地方ノ貧富ハ資本ノ供給ニ關係ヲ有シ又金利ニ高下ヲ生シ加之金融機關ノ消長ニ關スルコト大ナリ

之ヲ概言スレバ以上ノ社會的狀態ノ愈整備セラル、ニ從ヒ農業要素中ノ勞力及ビ資本ヲ農業ニ利用シ得ルノ便ハ愈發達スルノ傾向アルモノナリ而シテ内最モ農業ニ直接ノ關係ヲ有スルモノハ交通ノ擴張ニシテ其結果タル曩ニ一局部ヲ限リテ經濟ヲ保チツ、アリシ地方ニ漸ク貿易ノ區域ヲ擴メ時ニ或ハ不測ノ災害ヲ被ラシムルコトアリ國家的農業經濟ヲ整理スルノ任ニ當ルモノハ能ク臨機ノ處分ヲ施シ之ガ救濟ヲ圖リ斯機會ヲ利用シ益農業收益ノ増加ヲ期スルノ責ニ任ゼザルベカラズ

農場ノ氣候

第三節 農場ノ氣候

Die Klimatische Lage Des Landgutes.

農場ノ收益ニ關係ヲ有スル要因ハ枚舉ニ暇アラスト雖モ今其主ナルモノヲ掲クルニ際シテハ先ツ第一ニ氣候及ヒ土質ニ指ヲ屈セサル

ヘカラス要スルニ土質ナルモノハ或ル度迄ハ人力ニテ改良スルヲ得レモ氣候ハ決シテ人爲ニ變更スル能ハサルモノナレハ農場ノ設置等ニ際シテハ深ク意ヲ爰ニ注カサルヘカラス

氣候ノ良否ニ最モ關係ヲ有スルモノハ緯度、高度及ヒ海水又ハ山嶽ヨリノ距離ニシテ前ノ二者ハ溫度ヲ司リ後ノ二者ハ濕度ヲ掌ル一地方ノ氣候如何ヲ視察セント欲セハ先ツ多年ノ觀測ニ基キ溫度及ヒ濕度ノ平均ヲ算出シ又雨雪ノ日ヲ數ヘ且ツ風力及ヒ風向等ヲ調査スルヲ要ス然レモ農作物ノ生育ニ關シテハ此等ノ平均數ヨリモ寧ロ最高最低ノ兩者ノ方大ナル關係アリ陽光及ヒ陽熱ハ植物生育上必要欠クヘカラスサルモノニシテ葉綠ノ生成并ニ生育及ヒ成熟ノ完美ニハ或ル程度ノ陽光及ヒ溫熱ヲ要ス而シテ此二者ノ内殊ニ重要ナルハ溫熱トス

要スルニ植物ハ其種子發芽ノ爲メニハ低キ溫熱ヲ以テ足レリトスレ

凡其發育ニハ高キ溫熱ヲ要シ其物質改造ノ盛ナルトキ及豫備質物ノ貯藏期ニ際シテハ更ニ高キ溫熱ヲ要スルモノトス而シテ此等ノ溫熱需要ノ關係ハ植物ニヨリ異同アルモノトス

大氣ノ濕度及ヒ雨雪ノ多少ハ又植物生育ノ完否ニ關係ヲ有シ即チ其初期及ヒ中期ニ方リテハ較多量ノ濕度ヲ要スルモノナレモ豫備質物ノ貯藏期ニ於テ過度ノ濕氣ハ寧ロ其品質ヲ下スノ虞アルヲ多シ農場ノ設置ニ方リテハ殊ニ其地方ノ陽光及ヒ陽熱カ有利的ニ植物的生産ヲ營ムニ足ルヤ否ヤヲ鑑ミ更ニ地方霜雪期カ植物生育ニ關係ヲ及ホスヤ否ヤ及ヒ地方降雨ノ期カ生産物品質ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤヲ考フヘシ

尙ホ氣候ナルモノハ植物ノ生育ニ影響スル處アルノ外更ニ其生産費ヲ嵩ムルヲアリ例ヘハ冬季永キノ地方ニ於テハ總テノ農作事業ハ適當ナル季節ニ於テ一度ニ嵩ミ從テ勞働賃ヲ高メ加之冬季嚴寒ノ

爲メニ建物資本ヲ要スルコト多キモノナリ

第四節

農場ノ土質 Die Boden-Verhältnisse Des Landgutes.

土壤ナルモノハ多量ノ無機物ト比較的極少量ノ有機物ヨリ成ル

土壤ハ其理學的組成分即チ礫粒ノ大小ニヨリ輕重ノ差アリ本邦土性

調査ニ於テ用フル土壤名稱ノ大綱ハ左ノ如シ

埴土

壤質埴土

埴質壤土

壤土

砂質壤土

壤質砂土

砂土

即チ三種ニ大別シ更ニ四個ノ雜種ニ分ツ此三類四種ノ土壤ニシテ或

ハ礫ヲ含ミ或ハ有機質ニ富ムルハ礫質及ヒ腐植質ナル語ヲ之ニ冠  
 ス土壤中ノ孔隙ハ輕鬆ナル土ニ大ニシテ重厚ナル土ニ小ナリ大氣  
 ノ土壤ニ於ケル作用ハ孔隙大ナルモノニ盛ナリ此種ノ土質ニ於テ  
 ハ水モ亦此孔隙ヲ通シテ容易ニ地下ニ滲通ス然ルニ小ナル孔隙ヲ  
 有スル土質ニ於テハ水ハ毛細管引力ノ爲メニ土中ニ保持セラレ從  
 テ大氣ノ土壤ニ於ケル作用ヲ薄弱ナラシム  
 土壤ノ此毛細管引力ニ係ル水ヲ吸收スルノ力ハ水ニ對スル吸收力ト  
 云フ此力ノ最モ強キハ腐植質土及ヒ埴土トス  
 土壤ニヨリテハ充分ニ水ヲ吸收スルモ尙ホ孔隙中ニ多少ノ大氣ヲ保  
 持スルモノアリ此大氣ヲ保ツノ力強キ土質ハ殊ニ灌水ヲ要スル作  
 物ニ對シテハ大ニ貴重スヘキノ要點タルコトアリ又土壤ハ其成分  
 色及ビ水ヲ含ムノ量ニ依リ陽熱ヲ吸收シ又ハ之ヲ放射スルノ點ニ  
 於テ大ニ異ナルモノナリ其成分細カク其組織密ニシテ其色黒ク水

分ヲ含ムコト少ナキ土壤ハ陽熱ヲ吸収スルコト容易ナルモ之ヲ放射スルコト亦速カナリ斯クノ如キ土壤ハ温暖ナル季節ニ於テハ輕鬆ニシテ且ツ濕潤ナル土壤ニ比スレバ晝間ハ著シク暖キモ夜間ハ反テ冷ナルモノナリ

又植物營養ノ點ニ於テハ土壤ノ各種ノ瓦斯及ビ溶解セラレテ存在セル種々ノ鹽類ニ對スル吸収力ハ極メテ重要ナルモノトス此瓦斯及ビ鹽類ニ對スル吸収力ハ土壤ニ依リ大ニ異同アリ此吸収力ハ殊ニ本邦ノ如キ降雨多キ地ニ在テハ施肥上參考ニ供シテ益スル所尠シトセズ

耕地ノ土層ハ表土及ビ底土ニ區分ス其質相等シキコトアリ或ハ相異ナルコトアリ而シテ例令其質相均シキ場合ニ於ケルモ尙ホ有機質ノ含量及ビ細微土分ノ量ニ於テ多少ノ相異アルヲ常トス故ニ農場ノ土質ヲ知ラント欲セバ必ズ表土ト底土ト兩ナガラ分析試驗ヲ施ス

ヲ要ス表土ハ一ニ耕土ト云フ其層厚ハ慣行耕耘ノ深サニ相應スルモノナルガ故ニ平素深耕ヲ心懸クベシ本邦農場ニ於ケル耕土ハ凡ソ五寸ヲ淺キモノトシ七寸ヲ深キモノトス歐洲ニ於テハ深キトキハ一尺以上ニ及ブコトアリ本邦ニ於テハ役畜ヲ使用スルモ農具不良ナルガ故ニ斯ノ如キ深キ耕土ヲ見ルコト稀ナリ

底土ハ一ニ裏土ト云フ其土質及ビ殊ニ其理學的性質ノ良否ハ大ニ植物ノ生育ニ關係ヲ有スルガ故ニ農場ノ收益ヲ左右スルモノナリ故ニ農地ノ撰定等ニ際シテハ必ズ底土ヲ検査スヘシ

第五節

農場ノ大小

Die Grosse Des Landgutes.

農場ニ對スル大小ナル字義ハ時代ト地方トニヨリ著シキ異同アルモノナリ即チ本邦ニ於ケル大農場ハ歐洲ニ於テハ蓋シ小農場ニ過ギザルベシ

想フニ大農場中農場及小農場ナルモノハ決シテ其面積ノ廣狹ニヨリ

テ之ヲ定ムルヲ得サルモノトス

大農場

大農場トハ農業者ガ之ガ管理ニ助手ヲ要スルモノヲ云フ(テ

ーアノ所論)

中農場

中農場トハ農業者ハ自カラ一人ニテ管理ヲナシ得ル大サノ

モノヲ云フ(テーアノ所論)

小農場

小農場トハ農業者カ家族ト共ニ勞働ニ就クニアラサレハ自活ニ容

易ナラサル大サノモノヲ云フ即チ此場合ニ於テハ農場主ハ農業ニ

係ル所得即チ地益資本ノ利及ヒ企業益ノ外尙ホ勞働賃ヲ收メテ漸

ク其生計ヲ立ツルモノトス

尙ホ其他細農農業ト稱スルアリ此種ノ農業ニ於テハ農業者及ヒ其家

族カ自カラ勞働ニ就クモ尙ホ充分ナル仕事ナク故ニ他ニ幾分ノ收

入ヲ得ルヲ圖ラサレハ自活ノ途ヲ立ツルニ容易ナラザルモノヲ

云フ此種ノ農業ハ本邦ニ最モ多シ

以上ノ區別ノ外尙ホ農場及農地ノ大小ヲ説クニ最小自活農場、最小自

營農場及ビ農地分裂制限ナル語アリ

最小自活農場

最小自活農場トハ即チ農民一戸ノ家族カ辛ク自活シ得ル程度ノ大サ

ヲ云フ即チ小農場ニ比スレバ較々小ナルモノナリ

最小自營農場

最小自營農場トハ農民一戸ノ家族及ビ其役畜ノ勞力ヲ充分ニ利用シ

テ餘ス所ナキ程度ノ大サノモノヲ云ヒ

農地分裂制限トハ法律ニ據リ分裂ヲ禁セル處ノ最小程度ノ圃地ヲ云

フ此ノ如キ法律ノ設ケアル國ハ極メテ少シ獨逸帝國內ナツサウニ

於テハ此禁アリ即チ耕地ハ十二、五「アール」、牧草地ハ六、二五「アール」、園

地ハ二、五「アール」トス

農場ノ大小ト國家

最小自活農場及ヒ最小自營農場ニタモ達セサルカ如キ小農業ノ多キ

ハ決シテ國利ニ非サルナリ本邦ニ於ケル此等ノ程度ハ未タ考究ヲ



經サルカ故ニ確言スルヲ得スト雖モ要スルニ本邦多數ノ農場ノ大  
 サハ此最小自活程度ノ以下ニアルナルヘシ  
 農場ノ大小ハ右ニ述ヘタル如ク極メテ異同アルモノナリト雖モ農業  
 法ノ適否ニヨリ小農場ト雖モ尙ホ大農場ニ勝ルノ收益ヲ生スルコ  
 トアリ即チ農場ノ大小ハ以テ收益ノ多少ヲ判定スルノ標準ト做ス  
 能ハサルヤ明ケシ要スルニ小農場ニ於テハ勞力ナル要素ハ資本ナ  
 ル要素ヨリ多ク大農場ニ於テハ資本ナル要素ハ勞力ナル要素ヨリ  
 多キヲ常トス故ニ本邦ノ如キ資本ニ乏シキ地ニ在リテハ大農場ハ  
 到底有利ニ經營スルヲ能ハサルヘシ  
 今本邦農地ノ大小ヲ通觀スルニ所謂ル分裂制限ノ設ケナキカ故ニ吾  
 人ハ土地ヲ隨意ニ分裂スルヲ得而シテ勞力ナル要素ハ人口ノ増  
 加ニ伴ナヒ彌多額ニ存在スルモ資本ナル要素ハ其割合ニ増加スル  
 モノニ非ザルカ故ニ此勞力ナル要素ヲ所持スルモノ即チ勞働者ハ

極メテ僅少ナル資本ヲ用ヒテ其生活ヲ土地ナル要素ニ需ムルニ至  
 リ從テ農場ノ分裂ヲ促進シ且ツ土地ノ賣買價格及小作料ヲ騰貴セ  
 シメ遂ニ農業的ニ純收益ヲ得ル能ハサルニ至レリ而シテ其極此ノ  
 如キ農民ハ自己ノ勞働賃ノ一部ヲ放棄スルモ尙ホ辛ク勞力ヲ利用  
 シテ生計ヲ營ムニ足ルノ地ヲ耕作スルヲ得ルヲ以テ満足スルニ至  
 ルモノトス斯ル農業社會ノ狀態ハ決シテ本邦ニノミ存在スルモノ  
 ニアラス人口ノ増殖ニ伴ヒ必ス免ル能ハサル處ノ現象ナリ  
 人口増殖ノ結果トシテ斯ク農業ヲ營ムノ細民増加スルニ從ヒ穀物及  
 ビ其他ノ食用作物ハ其栽培面積増加スルモ其販出額ハ漸ク減少シ  
 畜産業モ亦漸ク衰退ス  
 要スルニ或ハ大農場ニ偏シ或ハ小農場ニ偏スルハ決シテ一國ノ農業  
 ニ對シ利アルモノニアラス大中小種々ノ農場ノ共ニ一地方ニ配置  
 セラルヲ農制上最可ナルモノトス

右ニ述ヘタル如ク人口ノ増殖ニ伴ヒ農地ノ分裂漸ク盛ナルニ隨ヒ土地ノ賣買ハ愈便利トナル茲ニ於テ漸ク土地ヲ買收スルモノヲ生シ再ヒ大地主ナルモノヲ顯出ス然ルニ斯カル狀況ニ方リテハ大農場ハ小農場ト競争スル能ハサルカ故ニ此輩大地主ハ自ラ農業ヲ營ムナク其所有地ヲ小分シテ數多ノ小作農ニ貸與スルモノナリ既ニ此時代ニ達スルハ一國農事ノ振興ハ得テ期シ難キニ至ルヘシ歐洲中ニ斯カル地位ニ達セルハ愛蘭及ヒ伊太利トス本邦ニ於テモ亦近時斯カル状態ヲ顯セシコトアリ想フニ農地併合分裂ニ禁ナキノ地ニ於テハ農場ノ大小ハ農業者ノ資産ノ多少ニ相應スルモノナレト尙ホ氣候及ヒ土質ハ之ニ影響ヲ及ホスモノニシテ之ヲ概言スレバ温暖ナル氣候ト重厚豊肥ナル地トニハ小農多ク寒冷ナル氣候ト輕鬆磽瘠ナル地トニハ大農多シ

第六節

農場ノ組成  
Die Eirichtung Des Landgutes.

農場ナルモノハ農地ノ筆數其大小及ヒ利用法ノ如何ニ依リ又農舍ノ位置及ヒ其建設法ノ如何ニ依リテ異同アルモノニシテ農業法モ亦之ニ依リテ相均シカサルモノトス

農地 相互ノ關係及ヒ其農舍ニ對スル關係ノ如何ニ依リ農場ヲ二種ニ區別ス

甲、成團農場

乙、散地農場

農制上ヨリ論スルトキハ甲者ヲ成團農場制ト云ヒ乙者ヲ村落制ト云フ本邦ニ於ケル農場ハ即チ村落制ニシテ散地農場ナリ

村落制散地農場ノ地ニ於テハ往々土地整理ヲ行フハ大ニ利アルモノトス而シテ此土地整理ハ時ニ或ハ其地方ノ農制ヲ成團農場制トナスコトアリ假令ハオーバーバイエルン地方ニ於テ其例ヲ見ル本邦ニ於ケル土地整理ハ未タ此ノ如キ極度ニハ達セサルナリ

一、農地

農地ニ就キ思考スヘキ要點ハ左ノ二者トス

一、田畑園地ノ割合及ヒ其地位等級

二、以上ノ土地利用法ノ變換ノ可否、成否、及ヒ交換、賣買若シクハ開

墾ニ係ル之カ増補

農場ノ農地ハ田畑園地ノ三者ヨリ成ルコトアリ又ハ其一者或ハ其二

者ヨリ成ルコトアリ又時ニ其外ニ農用林地等ヲ備フルコトアリ

農場ノ良否ニ重要ナル關係ヲ有スルハ以上ノ二點ノ内農地ノ地位等

級トス

土地利用法ノ變換ハ小作人ニ於テ行フヲ許サ、ルヲ常トス若シ小作

人ニ於テ斯カル變換ヲ行フ方利アリトナスハ地主ノ承諾ヲ受ケ

サルヲ得ス

農地ノ形及ヒ其結果タル周邊ノ延長ハ役畜ヲ使用スルノ農場ニ於テ

二、農舍

ハ耕耘ニ難易ヲ生シ從テ勞働賃ニ不經濟ヲ生スルコトアリ本邦ノ如キ手耕ヲ主トスルノ地ニ於テハ農地ノ形狀等ハ重要ナル關係ナシ

建物資本ナルモノハ直接ニ生産ニ關ラサルモノナレハ成ルヘク節減

ヲ圖ルヘシトハ上編既ニ之ヲ論セリ而シテ農場ハ小ナルニ從ヒ農

舍ノ節減ハ割合ニ行ヒ難キモノナレハ此資本負擔ノ割モ亦強シ

又同一地積ノ農場ニシテ假リニ同一資本額ニ當ルノ農舍ヲ要スルモ

ノトセハ其位地ノ如何ハ大ニ勞力ヲ要スルノ點ニ於テ或ハ不利ヲ

感スルコトアリ要スルニ農舍ハ勞力ヲ要スルノ多少ヨリ觀察スルハ

ハ成ルベク農地ト水準ノ地ニアリテ且ツ其中央ニ位スルヲ最モ利

アリトス

蓋シ農舍ノ地位高キトキハ收穫物ノ運ヒ入レニ困難ヲ感シ若シ低キ

ハ厩肥搬出ニ勞力ヲ要スルコト多シ

又農舎ノ位置ハ人畜ノ健康、用水供給ノ難易及ヒ風當テノ強弱等ニ關係ヲ有スルカ故ニ之ヲ新設ノ際ニアリテハ其利害ヲ熟考スヘシ要スルニ以上ノ諸點ノ内最モ農場收量ノ多少ニ關係ヲ有スルハ農舎ノ農地ニ對ズルノ距離ナリトス想フニ此距離ノ大ナルニ從ヒ耕作費及ヒ收穫費ニ増加ヲ來シ從テ收益ヲ縮少ス故ニ農舎ハ成ルヘク農場ノ中央ニ設クルヲ利アリトス即チ語ヲ換エテ此原則ヲ本邦ニ適用スルキハ農地ノ交換購入ニ際シテハ成ルヘク之ヲ農舎ノ周圍ニ求ムルヲ最モ利アリトス故ニ土地整理ノ際ニ土地交換ヲ行フニハ單ニ地位等級ノミニ偏セス又農舎ヨリノ農地ノ距離ヲ參考セサルヘカラサルナリ此場合ニ於テ農舎ト農地トノ間ノ平均距離ヲ知ルノ必要アルコトアリ平均距離トハ農地ノ面積ニ距離ヲ乘シタル數ノ平均ナリ即チ左ニ其例ヲ示ス

(1)  $5.75 \times 250 = 1437.5$

(2)  $2.25 \times 300 = 675.0$

(3)  $\frac{3.85 \times 150 = 577.5}{11.85} = 2690.0$

$\frac{2670}{11.85} = 227$  間ヲ平均距離ト稱ス

又農舎ノ市場ニ於ケル距離ハ收益ニ關スルコトアルハ通編交通ノ章ニ之ヲ概説セリ

### 第二章 農業ノ企業

Die Landwirthschaftlichen Unternehmung.

農業企業ノ成否ハ大ニ農場ノ良否及ヒ其價格ノ高下ニヨルモノナリト雖モ亦企業者ノ性質即チ其知識經驗及ヒ熱心ノ度ニ依リ又其資産ノ多少及ヒ信用ノ厚薄ニ依リテ著シキ異同アルヲ免レス故ニ農業企業ニ方リテハ自ラ此等ノ諸點ヲ鑑ミ能ク己レヲ度リ而シテ後着々歩ヲ進ムルヲ要ス一時ノ妄想ト一片ノ嗜好心トニ伴ハレテ之が起業ヲ企ツル如キコトアラバ農事ノ如キ實着ニシテ且ツ薄利